# 令和3年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業 地域スポーツ推進団体連絡会議 報告書

中学生のスポーツ機会の充実に向けた中学校運動部活動と 総合型地域スポーツクラブとの連携等に関する調査研究

> 令和4年3月 公益財団法人兵庫県体育協会

# 目次

目	欠.		1
図:	表	リスト	3
Ι	I	はじめに	4
П	ţ	地域スポーツ推進団体連絡会議	5
	1	目的	5
	2	体制	5
	3	期間	6
Ш	Ī	調査研究	7
	1	調査概要	7
	2	調査方法	7
IV		国における運動部活動改革の検討状況等	8
	1	部活動改革(スポーツ庁 HP より)**1	8
	2	運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン(スポーツ庁、2018)	8
	3	学校の働き方改革を踏まえた部活動改革(スポーツ庁、2020)	
	4	学校運動部活動指導者の実態に関する調査結果(日本スポーツ協会、2021)	9
v	ŗ	中学校運動部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携事例	
	1	県内における中学校運動部活動と総合型クラブとの連携状況	10
		(1) 「スポーツクラブ 21 ひょうご」活動状況調査による取組事例の収集	10
		(2)県内の連携事例のインタビュー調査結果	11
		1)事例 1	11
		2)事例2	
		3)事例3	
	2	県外における中学校運動部活動と総合型クラブの連携に関する連携事例の調査	20
		(1)調査日時・調査員・ヒアリング対象等	20
		(2) 県外における先進的な取組を行っている事例	20
		1 )福井県鯖江市の事例	20
		2)岐阜県羽島市の事例	23
		3) 愛知県大口町の事例	
VI	/	公認スポーツ指導者への中学校運動部活動の地域移行に対する意識調査	28

1	個人的属性	28
2	各補償に関する認知について	34
3	現在の謝金、中学校運動部活動において指導に携わる際に必要な手当	34
4	総合型地域スポーツクラブの認知	35
5	「休日の中学校部活動の段階的な地域移行」の認知、及び支持について	35
6	中学校運動部活動における指導の意思	40
7	ハンドブックの必要性の有無	40
8	指導可能な曜日、及び休日の指導可能な時間帯	41
9	中学校運動部活動において指導に携わる際、必要な条件	42
10	中学校運動部活動において指導に携わる際に活動の妨げになりうる要因	43
11	中学校運動部活動に携わる際に不安に思うこと	44
資料網	<b>=</b>	45
1	地域スポーツ推進団体連絡会議 委員から	46
2	公認スポーツ指導者への意識調査 自由記述全文	51
3	参考資料一覧	87

# 図表リスト

#### 図リスト

- IV 国における運動部活動改革の検討状況等
- 図1 運動部活動における地域との連携状況
- 図2 運動部活動における地域との連携状況
- VI 公認スポーツ指導者への中学校運動部活動の地域移行に対する意識調査
- 図1 性別
- 図2 年代
- 図3 居住地(兵庫県内・外)
- 図4 職業
- 図 5 指導者資格
- 図6 指導可能な競技レベル (複数回答可)
- 図7 指導可能な指導対象(複数回答可)
- 図8 1週間あたりの平均指導日数
- 図9 現在指導を行っている団体(複数回答可)
- 図 10 現在指導を行っている施設(複数回答可)
- 図 11 各補償に関する認知
- 図 12 現在のスポーツ指導に対する謝金
- 図 13 中学校運動部活動において指導に携わる際、指導 1 回あたり(2 $\sim$ 3 時間程度)に必要な手当て
- 図 14 総合型地域スポーツクラブの認知
- 図 15 「休日の中学校部活動の段階的な地域移行」の認知
- 図 16 「休日の中学校部活動の段階的な地域移行」を支持するか否か
- 図 17 中学校運動部活動における指導の意思
- 図 18 ハンドブックの必要性の有無
- 図 19 指導可能な曜日 (複数回答可)
- 図 20 休日の指導可能な時間帯(複数回答可)

# 表リスト

- V 中学校運動部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携事例
- 表1 県内の中学校運動部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携事例
- 表 2 各事例の概要
- 表3 県外における連携事例の調査員並びにヒアリング対象者
- VI 公認スポーツ指導者への中学校運動部活動の地域移行に対する意識調査
- 表1 居住地(兵庫県内の内訳)
- 表 2 指導可能な競技種目(複数回答可)

# I はじめに

1995年の「総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業」を皮切りに、全国で総合型地域スポーツクラブの育成が本格化した。兵庫県では、2000年より、「スポーツクラブ 21 ひょうご」事業をスタートさせ、小学校区ごとに 827 の総合型地域スポーツクラブが設立され、多種目・多世代・多志向型の活動を身近な地域で展開し、地域スポーツ推進の中心的な役割を果たしてきた。

他方で学校を中心とした運動部活動は、教師の勤務を要しない日(休日)の活動を含めて、教師の献身的な勤務によって支えられてきたが、教師の長時間勤務の要因であることや、特に指導経験がない教師には多大な負担となっているとの声があがっている。こうした状況を踏まえ、スポーツ庁では、令和2年9月に「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」の指針として、学校と地域が協働・融合した部活動の具体的な実現方策とスケジュールを明示し、令和5年度からの中学校の休日運動部活動の段階的な地域移行を進めていくとしている。

このような国の流れを踏まえ、兵庫県体育協会では、休日の中学校運動部活動の 段階的な地域移行に向けて、中学生のスポーツ機会を確保し、生徒にとって望ま しいスポーツ活動のあり方を検討するため、令和3年7月に「地域スポーツ推進 団体連絡会議」を立ち上げた。本会議には、学校関係者及び総合型クラブ関係者、 県行政、市町行政、県体育協会が参集し、国の動向及び兵庫県の取組状況を共有し ながら、県内の総合型クラブと学校運動部活動との連携状況や課題等について協 議を行った。その協議の内容を踏まえ、「中学生のスポーツ機会の充実に向けた中 学校運動部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携等に関する調査研究」を取 り進めることとし、先進事例の収集や中学校運動部活動の地域移行に向けたヒア リング調査、指導者の確保等に向けた公認スポーツ指導者への意識調査を行った。 本報告書は、令和3年度の地域スポーツ推進団体連絡会議の取組および調査研

本報告書は、令和3年度の地域スポーツ推進団体連絡会議の取組および調査研究の結果をとりまとめたものであり、今後の兵庫県における中学校運動部活動の地域移行並びに中学生のスポーツ機会の充実に向けた議論の一助となれば幸いである。

# Ⅱ 地域スポーツ推進団体連絡会議

# 1 目的

本協会は、地域スポーツ推進体制の構築やスポーツによる地域課題の解決に向けた取組を促進することを目的とし、地域スポーツ団体関係者が参集する地域スポーツ推進団体連絡会議(以下、「本会議」という。)を設置した。中学校運動部活動と総合型クラブとの連携を主たる地域課題に設定し、令和5年度からの休日の中学校運動部活動の地域移行を見据えた、中学生のスポーツ機会の充実に向けた取組を進めた。

# 2 体制

本会議は①学校関係者、②総合型クラブ関係者、③県行政関係者、④市町行政関係者、⑤本協会役員、⑥学識経験者で構成した。また、調査研究部会を設置し、調査対象の選定作業等を行った。

#### ○地域スポーツ推進団体連絡会議 メンバー

役職	氏名	所属
委員長	森田 啓之	国立大学法人兵庫教育大学大学院 生活・健康・情報系教育コース 教授
委員	伊藤 克広	兵庫県公立大学法人兵庫県立大学 国際商経学部 教授
委員	小坂 美保	神戸女学院大学 体育研究室 准教授
委員	谷 めぐみ	湊川短期大学 幼児教育保育学科 准教授
委員	中田進	「スポーツクラブ 21 ひょうご」 全県連絡協議会 会長
委員	福田 幸夫	NPO法人加古川総合スポーツクラブ 理事長
委員	藤原 亨	スポーツクラブ 21 氷上東 総務担当
委員	井原 一久	NPO法人アスロン 理事長
委員	田中 麻美	NPO法人親和スポーツネット クラブマネジャー
		明石市立大久保中学校 校長
		播磨町教育委員会学校教育グループ 統括
委員	田中 正晴	兵庫県教育委員会事務局スポーツ振興課 課長
委員	土井 一弥	兵庫県教育委員会事務局体育保健課学校体育班 班長
委員	廣瀬 雅樹	公益財団法人兵庫県体育協会 専務理事

# ○調査研究部会 メンバー

役職	氏名	所属		
部会長	長 伊藤 克広 兵庫県公立大学法人兵庫県立大学 国際商経学部 教授			
部会員	井原 一久	NPO法人アスロン 理事長		
部会員	村崎 和幸	明石市立大久保中学校 校長		
部会員	土井 一弥	兵庫県教育委員会事務局体育保健課学校体育班 班長		

#### 3 期間

本会議は、令和3年7月8日に設置され、下記の日程で会議及び調査研究部会を実施した。

## 【第1回会議(令和3年9月6日)】

- ①本事業の概要及び事業計画、収支予算(案)について
- ②学校及び地域における中学生のスポーツ活動の充実に向けて
- ③総合型地域スポーツクラブにおける指導体制の充実及びガバナンス強化に向けて

# 【第2回会議(令和3年11月5日)】

- ①中学校運動部活動に関する調査報告
- ②地域課題解決に向けた取組について

# 【調査研究部会(令和3年12月3日)】

- ①視察地の選定について
- ②視察スケジュール等について

# 【第3回会議(令和4年2月16日)】

- ①中学校運動部活動と総合型クラブとの連携等に関する調査報告
  - ・先進的な取り組みの視察について
  - ・中学校運動部活動と総合型クラブの連携事例の収集について
  - ・公認スポーツ指導者への中学校運動部活動の地域移行に対する意識調査
- ②本事業の実施報告、収支決算について

# Ⅲ 調査研究

# 1 調査概要

休日の中学校運動部活動の段階的な地域移行に向けては、中学生のスポーツ活動の機会をいか に確保していくかが重要であり、指導者の確保や生徒の費用負担の在り方、受け皿となる組織・団 体の整備などが課題となっている。また、都市部と地方部での地域差を踏まえつつ、生徒のニーズ 等にいかに対応できるかといった検討が進められている。

こうした課題に対応し、中学生のスポーツ活動の受け皿となりうる団体として総合型クラブへの期待が大きい。総合型クラブは、全国で3、599 クラブが育成され、地域住民が主体的に運営する地域密着型のスポーツ組織である。総合型クラブにおける活動種目数は、「6種目~10種目」が37.1%と最も多く、「11種目以上」を実施しているクラブも27.4%にのぼる。学校や地域団体、各種スポーツ団体との連携を図りながら、地域スポーツ振興における中心的な役割を果たしてきた。兵庫県では、すべての小学校区に総合型クラブが育成されており、中学校区域には一つないしは複数の総合型クラブが設置されている。今後に向けては学校と総合型クラブ等の地域団体が連携・協力し、中学生のスポーツ機会の充実を図ることが求められている。

本会議では、国の部活動改革の検討状況や兵庫県における運動部活動改革の取組状況等を踏まえ、中学生のスポーツ機会の充実に向けた協議を行い、次の①~③の調査研究を進めることとした。

- ①中学校と総合型クラブの連携等に関する県内の取組状況の把握及び事例収集
- ②中学校と総合型クラブの連携等に関する県外の先進的な取組の事例収集
- ③日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格を有するスポーツ指導者への意識調査

なお、調査の一部は、神戸親和女子大学ジュニアスポーツ教育学科(研究代表者: 高松祥平氏) に委託して実施した。

#### 2 調査方法

①中学校運動部活動と総合型クラブとの連携状況について

「令和2年度スポーツクラブ21ひょうご活動状況調査」から、「中学校との連携を行っているクラブ」を特定し、市町行政及び当該クラブに連携状況の確認を行った。また、その中から、特徴的な取組を行っているクラブの代表者および中学校関係者に対してヒアリングを行った。

②全国の中学校運動部活動と総合型クラブとの連携事例について

文献調査や資料収集により、全国で中学校運動部活動と総合型クラブの連携等に取り組んでいる先進事例の調査を行った。調査研究部会において、先進事例の調査結果を報告し、特徴的な取組を行っている中学校及び総合型クラブを選定し、関係者へのヒアリングを行った。

③公認スポーツ指導者への意識調査について

指導者システムを活用し、公認スポーツ指導者資格(コーチ1~4、教師、上級教師)を有している県内の指導者を対象とし、中学校運動部活動の地域移行に対する意識調査を行った。調査は、指導者が登録しているメールアドレスに依頼し、オンラインフォームで回答を得た。

# Ⅳ 国における運動部活動改革の検討状況等

# 1 部活動改革 (スポーツ庁 HP より) \*1

運動部活動は、スポーツに興味・関心のある同好の生徒が参加し、教師等の指導の下、学校教育の一環として行われ、我が国のスポーツ振興を大きく支えてきた。しかしながら、今日においては、社会・経済の変化等により、教育等に関わる課題が複雑化・多様化し、学校や教師だけでは解決することができない課題が増えている。とりわけ、少子化が進展する中で、運動部活動の運営体制の維持は難しくなってきており、地域によっては存続の危機にある部活動も少なくないと報告されている。

スポーツ庁では、将来においても、全国の生徒が生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育む基盤として、運動部活動を持続可能なものとするため、その在り方に関する抜本的な改革の取組みが進められている。

# 2 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン (スポーツ庁、2018)

2018年3月、スポーツ庁は義務教育である中学校段階の運動部活動を主な対象として、生徒にとって望ましいスポーツ環境を構築するという観点に立ち、運動部活動が、地域、学校、競技種目等に応じた多様な形で最適に実施されることを目指したガイドラインを作成した。ガイドラインでは、以下の5つの事項について、速やかに抜本的な改革に取り組む必要があるとされている。

- ①適切な運営のための体制整備
- ②合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組
- ③適切な休養日等の設定
- ④生徒のニーズを踏まえたスポーツ環境の整備
- ⑤学校単位で参加する大会等の見直し

本ガイドラインの策定を受け、スポーツ庁では、平成 30 年 3 月 19 日付 29 ス庁第 649 号の文書において、都道府県及び指定都市教育長等あてに、「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドラインの策定及び運動部活動の適切な運営等に係る取組の徹底について」を通知し、本ガイドラインに沿った運動部活動の在り方に関する方針を策定するよう依頼した。その後、各都道府県において本ガイドラインに沿った運動部活動の方針が定められていくこととなる。兵庫県では、本ガイドラインに沿った改訂を行い、平成 30 年 9 月に教職員・研修資料 (4 訂版) いきいき運動部活動を発表した。

# 3 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革(スポーツ庁、2020)

平成 26 年に公表された経済協力開発機構 (OECD) が実施した国際教員指導環境調査 (TALIS) 2013 によると、我が国の教師の1週間当たりの勤務時間は参加国中で最長(日本 53.9 時間、参加国平均 38.3 時間)となっている。勤務時間の内訳を見ると、授業時間は参加国平均と同程度であるが、課外活動(スポーツ・文化活動)の指導時間が長い(日本 7.7 時間、参加国平均 2.1 時間)ことが指摘されている。こうした報告を受け、中央教育審議会の答申や給特法改正の国会審議において、学校の働き方改革は喫緊の課題であり、「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」ことが提言されている。

部活動の設置・運営は、法令上の義務として求められるものではなく、必ずしも教師が担う必要がない。しかしながらこれまで教師の勤務を要しない日(休日)の活動を含めて、教師の献身的な勤務によって支えられており、教員の長時間勤務の要因であることや、特に指導経験がない教師には多大な負担となっているとの声があり、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革の方向性では、休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築すべきであるとしている。

一方で、休日の部活動に対する生徒の希望に応えるため、休日において部活動を地域の活動として実施できる環境を整えることが重要であり、部活動に代わり、生徒が自主的にスポーツ・文化活動に取り組み、体力や技能の向上を目指す活動機会を保障する観点から、「教師の勤務を要する日(平日)において学校の活動として行われる部活動(学校部活動)」と「教師の勤務を要しない日

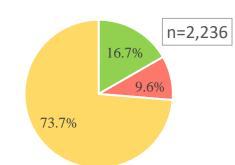
(休日) において地域の活動として行われる部活動(地域部活動)」との連携を図りながら、地方 自治体等において、地域部活動の実施のために必要な取組を行うことが求められている。

具体的には、休日の部活動の段階的な地域移行(学校部活動から地域部活動への転換)を行うとし、休日の部活動における生徒の指導や大会の引率については、学校の職務として教師が担うのではなく地域の活動として地域人材が担うこととし、地域部活動を推進するための実践研究を行っている(令和3年度~令和4年度)。その成果を基に、令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図られ、休日の部活動の指導を望まない教師が休日の部活動に従事しなくてもよい環境づくりを行うとしている。なお、地域部活動の運営主体には、退職教師、地域のスポーツ指導者、スポーツ推進委員、生徒の保護者等の参画や協力を得て、総合型地域スポーツクラブ、民間のスポーツクラブ等が担うことが検討されている。

## 4 学校運動部活動指導者の実態に関する調査結果(日本スポーツ協会、2021)

日本スポーツ協会が行った本調査において、学校 運動部活動指導者を対象に、「中学校運動部活動に おける地域との連携状況」を尋ねた結果、「現在何 らかの連携をしている」が 16.7%、「過去に連携し たことはあるが、現在はしていない」が 9.6%、「一 度も連携したことがない・わからない」が 73.7%で あった(図1)。連携の内容は、「指導者の派遣」や 「施設の借用」であり、必要に応じて学校と地域の スポーツ資源の共有が図られている。

次に「休日の運動部活動が地域に移行された場合の意向」については、「地域人材に任せたい」と回答した割合が45.6%と最も多く、「どちらともいえない」が28.3%、「兼職兼業の許可を得た上で自身が指導したい」が26.1%となっている(図2)。担当教科が保健体育の教員の意向としては、「兼職兼業の許可を得た上で自身が指導したい」が43.2%



- ■現在何らかの連携をしている
- 過去に連携したことがあるが現在はしていない
- ■一度も連携したことがない・わからない

図1 運動部活動における地域との連携状況

と最も多くなり、次いで、「どちらともいえない」が 30.6%、「地域人材に任せたい」は 26.2%に 留まっている。担当教科が保健体育以外の教員の意向としては、「地域人材に任せたい」が 51.0% と半数を超えている。こうした教員の意向を踏まえると、地域との連携等により地域人材の活用促進を図りつつ、指導を希望する教員については地域移行後も、地域のスポーツクラブ等において指導することが可能となるよう体制を整える必要がある。同時に、教員の代わりに指導を行う地域指導者の発掘・育成が大きな課題であるといえる。

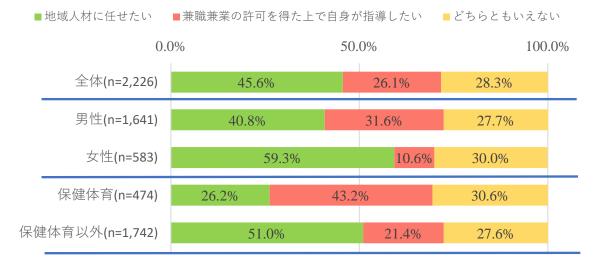


図2 運動部活動における地域との連携状況

# V 中学校運動部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携事例

- 1 県内における中学校運動部活動と総合型クラブとの連携状況
  - (1)「スポーツクラブ 21 ひょうご」活動状況調査による取組事例の収集

県内における中学校運動部と総合型クラブとの連携状況の把握のため、令和2年度「スポーツクラブ21 ひょうご」活動状況調査(兵庫県教育委員会、2021)による取組事例の収集を行った。本調査の「学校との連携」を尋ねた項目の結果では、「学校で運動部活動を実施できない種目をクラブが運動部活動の代替として実施している」クラブが30 クラブ、「クラブから学校運動部活動への外部指導者の派遣等の実施している」クラブが6クラブ存在することが分かった。

本結果をもとに、令和3年12月にクラブを管轄する市町・市町教育委員会の担当者等に連絡を取り、現在の連携状況について確認を行った結果を以下に示す。

表1 県内の中学校運動部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携事例

No   連携事例		衣 1 県内の中子校連動部佔動と総合室地域へホープグラブとの連携事例
<ul> <li>※ 当者は、当該地域で活動している総合型クラブ代表者と繋がりがあったことから相談したところ、総合型クラブで活動している卓球指導者が指導可能であったため学校に紹介。現在も外部指導者として中学校部活動の指導にあたっている。</li> <li>2 総合型クラブの体操クラブにおいて、小学校から高校までの生徒が所属し、一貫指導を行っている。中学校・高校とも連携を図りながら活動を展開している。地元の高校に新体操部があるため体操クラブの多くが高校の部活動に入るまで地域のスポーツクラブで活動を行っている。</li> <li>3 まちの指針として、クラブの中で運動部活動と連携することを以前から進めており、総合型クラブと中学校運動部活動との連携を視野に入れながらクラブ活動(陸上競技、サッカー、卓球、剣道)を展開してきた。総合型クラブから部活動に指導者を派遣したり、教員がクラブの指導者として活動を行ったりしている。</li> <li>4 総合型クラブでは、小学生を対象としたバドミントンを行っているが、進学先の中学校ではバドミントン部がなく、バドミントンを続けられないことが課題となっていたため、中学校において新規部活の創設は困難であり、総合型クラブで中学生向けのバドミントン部をつくり、競技を続けたい子どもの受け皿となっている。総合型クラブの活動している生徒が中体連の大会に出場できるよう中学校との連携も図っている。</li> <li>5 総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上</li> </ul>	No	連携事例
相談したところ、総合型クラブで活動している卓球指導者が指導可能であったため学校に紹介。現在も外部指導者として中学校部活動の指導にあたっている。  2 総合型クラブの体操クラブにおいて、小学校から高校までの生徒が所属し、一貫指導を行っている。中学校・高校とも連携を図りながら活動を展開している。地元の高校に新体操部があるため体操クラブの多くが高校の部活動に入るまで地域のスポーツクラブで活動を行っている。  3 まちの指針として、クラブの中で運動部活動と連携することを以前から進めており、総合型クラブと中学校運動部活動との連携を視野に入れながらクラブ活動(陸上競技、サッカー、卓球、剣道)を展開してきた。総合型クラブから部活動に指導者を派遣したり、教員がクラブの指導者として活動を行ったりしている。  4 総合型クラブでは、小学生を対象としたバドミントンを行っているが、進学先の中学校ではバドミントン部がなく、バドミントンを続けられないことが課題となっていたため、中学校において新規部活の創設は困難であり、総合型クラブで中学生向けのバドミントン部をつくり、競技を続けたい子どもの受け皿となっている。総合型クラブの活動している生徒が中体連の大会に出場できるよう中学校との連携も図っている。  8 総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上	1	中学校から教育委員会に卓球の指導者の紹介依頼を行った。依頼を受けた行政担
<ul> <li>め学校に紹介。現在も外部指導者として中学校部活動の指導にあたっている。</li> <li>総合型クラブの体操クラブにおいて、小学校から高校までの生徒が所属し、一貫指導を行っている。中学校・高校とも連携を図りながら活動を展開している。地元の高校に新体操部があるため体操クラブの多くが高校の部活動に入るまで地域のスポーツクラブで活動を行っている。</li> <li>まちの指針として、クラブの中で運動部活動と連携することを以前から進めており、総合型クラブと中学校運動部活動との連携を視野に入れながらクラブ活動(陸上競技、サッカー、卓球、剣道)を展開してきた。総合型クラブから部活動に指導者を派遣したり、教員がクラブの指導者として活動を行ったりしている。</li> <li>総合型クラブでは、小学生を対象としたバドミントンを行っているが、進学先の中学校ではバドミントン部がなく、バドミントンを続けられないことが課題となっていたため、中学校において新規部活の創設は困難であり、総合型クラブで中学生向けのバドミントン部をつくり、競技を続けたい子どもの受け皿となっている。総合型クラブの活動している生徒が中体連の大会に出場できるよう中学校との連携も図っている。</li> <li>総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上</li> </ul>	*	当者は、当該地域で活動している総合型クラブ代表者と繋がりがあったことから
<ul> <li>総合型クラブの体操クラブにおいて、小学校から高校までの生徒が所属し、一貫指導を行っている。中学校・高校とも連携を図りながら活動を展開している。地元の高校に新体操部があるため体操クラブの多くが高校の部活動に入るまで地域のスポーツクラブで活動を行っている。</li> <li>まちの指針として、クラブの中で運動部活動と連携することを以前から進めており、総合型クラブと中学校運動部活動との連携を視野に入れながらクラブ活動(陸上競技、サッカー、卓球、剣道)を展開してきた。総合型クラブから部活動に指導者を派遣したり、教員がクラブの指導者として活動を行ったりしている。</li> <li>総合型クラブでは、小学生を対象としたバドミントンを行っているが、進学先の中学校ではバドミントン部がなく、バドミントンを続けられないことが課題となっていたため、中学校において新規部活の創設は困難であり、総合型クラブで中学生向けのバドミントン部をつくり、競技を続けたい子どもの受け皿となっている。総合型クラブの活動している生徒が中体連の大会に出場できるよう中学校との連携も図っている。</li> <li>総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上</li> </ul>		相談したところ、総合型クラブで活動している卓球指導者が指導可能であったた
指導を行っている。中学校・高校とも連携を図りながら活動を展開している。地元の高校に新体操部があるため体操クラブの多くが高校の部活動に入るまで地域のスポーツクラブで活動を行っている。  3 まちの指針として、クラブの中で運動部活動と連携することを以前から進めており、総合型クラブと中学校運動部活動との連携を視野に入れながらクラブ活動(陸上競技、サッカー、卓球、剣道)を展開してきた。総合型クラブから部活動に指導者を派遣したり、教員がクラブの指導者として活動を行ったりしている。  4 総合型クラブでは、小学生を対象としたバドミントンを行っているが、進学先の中学校ではバドミントン部がなく、バドミントンを続けられないことが課題となっていたため、中学校において新規部活の創設は困難であり、総合型クラブで中学生向けのバドミントン部をつくり、競技を続けたい子どもの受け皿となっている。総合型クラブの活動している生徒が中体連の大会に出場できるよう中学校との連携も図っている。  5 総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上		め学校に紹介。現在も外部指導者として中学校部活動の指導にあたっている。
元の高校に新体操部があるため体操クラブの多くが高校の部活動に入るまで地域のスポーツクラブで活動を行っている。  3 まちの指針として、クラブの中で運動部活動と連携することを以前から進めており、総合型クラブと中学校運動部活動との連携を視野に入れながらクラブ活動(陸上競技、サッカー、卓球、剣道)を展開してきた。総合型クラブから部活動に指導者を派遣したり、教員がクラブの指導者として活動を行ったりしている。  4 総合型クラブでは、小学生を対象としたバドミントンを行っているが、進学先の中学校ではバドミントン部がなく、バドミントンを続けられないことが課題となっていたため、中学校において新規部活の創設は困難であり、総合型クラブで中学生向けのバドミントン部をつくり、競技を続けたい子どもの受け皿となっている。総合型クラブの活動している生徒が中体連の大会に出場できるよう中学校との連携も図っている。  5 総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上	2	総合型クラブの体操クラブにおいて、小学校から高校までの生徒が所属し、一貫
のスポーツクラブで活動を行っている。  3 まちの指針として、クラブの中で運動部活動と連携することを以前から進めてお ※ り、総合型クラブと中学校運動部活動との連携を視野に入れながらクラブ活動(陸上競技、サッカー、卓球、剣道)を展開してきた。総合型クラブから部活動に指導者を派遣したり、教員がクラブの指導者として活動を行ったりしている。  4 総合型クラブでは、小学生を対象としたバドミントンを行っているが、進学先の中学校ではバドミントン部がなく、バドミントンを続けられないことが課題となっていたため、中学校において新規部活の創設は困難であり、総合型クラブで中学生向けのバドミントン部をつくり、競技を続けたい子どもの受け皿となっている。総合型クラブの活動している生徒が中体連の大会に出場できるよう中学校との連携も図っている。  5 総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上		指導を行っている。中学校・高校とも連携を図りながら活動を展開している。地
<ul> <li>まちの指針として、クラブの中で運動部活動と連携することを以前から進めており、総合型クラブと中学校運動部活動との連携を視野に入れながらクラブ活動(陸上競技、サッカー、卓球、剣道)を展開してきた。総合型クラブから部活動に指導者を派遣したり、教員がクラブの指導者として活動を行ったりしている。</li> <li>総合型クラブでは、小学生を対象としたバドミントンを行っているが、進学先の中学校ではバドミントン部がなく、バドミントンを続けられないことが課題となっていたため、中学校において新規部活の創設は困難であり、総合型クラブで中学生向けのバドミントン部をつくり、競技を続けたい子どもの受け皿となっている。総合型クラブの活動している生徒が中体連の大会に出場できるよう中学校との連携も図っている。</li> <li>総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上</li> </ul>		元の高校に新体操部があるため体操クラブの多くが高校の部活動に入るまで地域
<ul> <li>※ り、総合型クラブと中学校運動部活動との連携を視野に入れながらクラブ活動(陸上競技、サッカー、卓球、剣道)を展開してきた。総合型クラブから部活動に指導者を派遣したり、教員がクラブの指導者として活動を行ったりしている。</li> <li>4 総合型クラブでは、小学生を対象としたバドミントンを行っているが、進学先の中学校ではバドミントン部がなく、バドミントンを続けられないことが課題となっていたため、中学校において新規部活の創設は困難であり、総合型クラブで中学生向けのバドミントン部をつくり、競技を続けたい子どもの受け皿となっている。総合型クラブの活動している生徒が中体連の大会に出場できるよう中学校との連携も図っている。</li> <li>5 総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上</li> </ul>		のスポーツクラブで活動を行っている。
上競技、サッカー、卓球、剣道)を展開してきた。総合型クラブから部活動に指導者を派遣したり、教員がクラブの指導者として活動を行ったりしている。  4 総合型クラブでは、小学生を対象としたバドミントンを行っているが、進学先の中学校ではバドミントン部がなく、バドミントンを続けられないことが課題となっていたため、中学校において新規部活の創設は困難であり、総合型クラブで中学生向けのバドミントン部をつくり、競技を続けたい子どもの受け皿となっている。総合型クラブの活動している生徒が中体連の大会に出場できるよう中学校との連携も図っている。  5 総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上	3	まちの指針として、クラブの中で運動部活動と連携することを以前から進めてお
導者を派遣したり、教員がクラブの指導者として活動を行ったりしている。  4 総合型クラブでは、小学生を対象としたバドミントンを行っているが、進学先の中学校ではバドミントン部がなく、バドミントンを続けられないことが課題となっていたため、中学校において新規部活の創設は困難であり、総合型クラブで中学生向けのバドミントン部をつくり、競技を続けたい子どもの受け皿となっている。総合型クラブの活動している生徒が中体連の大会に出場できるよう中学校との連携も図っている。  5 総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上	*	り、総合型クラブと中学校運動部活動との連携を視野に入れながらクラブ活動(陸
4 総合型クラブでは、小学生を対象としたバドミントンを行っているが、進学先の中学校ではバドミントン部がなく、バドミントンを続けられないことが課題となっていたため、中学校において新規部活の創設は困難であり、総合型クラブで中学生向けのバドミントン部をつくり、競技を続けたい子どもの受け皿となっている。総合型クラブの活動している生徒が中体連の大会に出場できるよう中学校との連携も図っている。  5 総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上		上競技、サッカー、卓球、剣道)を展開してきた。総合型クラブから部活動に指
中学校ではバドミントン部がなく、バドミントンを続けられないことが課題となっていたため、中学校において新規部活の創設は困難であり、総合型クラブで中学生向けのバドミントン部をつくり、競技を続けたい子どもの受け皿となっている。総合型クラブの活動している生徒が中体連の大会に出場できるよう中学校との連携も図っている。  総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上		導者を派遣したり、教員がクラブの指導者として活動を行ったりしている。
っていたため、中学校において新規部活の創設は困難であり、総合型クラブで中学生向けのバドミントン部をつくり、競技を続けたい子どもの受け皿となっている。総合型クラブの活動している生徒が中体連の大会に出場できるよう中学校との連携も図っている。  総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上	4	総合型クラブでは、小学生を対象としたバドミントンを行っているが、進学先の
学生向けのバドミントン部をつくり、競技を続けたい子どもの受け皿となっている。総合型クラブの活動している生徒が中体連の大会に出場できるよう中学校との連携も図っている。  総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上		中学校ではバドミントン部がなく、バドミントンを続けられないことが課題とな
る。総合型クラブの活動している生徒が中体連の大会に出場できるよう中学校との連携も図っている。  5 総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上		っていたため、中学校において新規部活の創設は困難であり、総合型クラブで中
の連携も図っている。 5 総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上		学生向けのバドミントン部をつくり、競技を続けたい子どもの受け皿となってい
5 総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が ※ 活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段 はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上		る。総合型クラブの活動している生徒が中体連の大会に出場できるよう中学校と
※ 活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段 はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上		の連携も図っている。
はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上	5	総合型クラブで行っている陸上教室に子どもから大人までの多様な年代の会員が
	*	活動しており、中学生も多数所属している。中学校には陸上部がないため、普段
数字の結羽による加引されば結羽な種とつわり 由体油の即仁十合に学校件まし		はそれぞれ別の部活動に所属して活動を行っているが、総合型クラブが行う陸上
教主の練音にも参加するなと練音を積んでわり、中体連の脈仏人去に子仪仏衣と		教室の練習にも参加するなど練習を積んでおり、中体連の駅伝大会に学校代表と
して出場している。		して出場している。

※関係者へのインタビュー調査を行った事例。

## (2) 県内の連携事例のインタビュー調査結果

本調査の目的は、中学校関係者および総合型地域スポーツクラブ関係者を対象としたヒアリング調査から、中学校運動部活動の地域移行に関する現状と課題を明らかにすることである。以下に調査の概要を示す。

調査対象者 : 小学校・中学校関係者、行政関係者、総合型地域スポーツクラブ関係者

調査方法 :訪問面接法。県体育協会を通して、関係者にインタビューを依頼し、調査員が

3か所でインタビューを実施。各面接の所要時間は、60~90分であった。

実施期間 : 2021 年 12 月下旬

調査内容 :連携のきっかけ・普段の連絡頻度や連絡状況、クラブと中学校との関わり、連

携のメリット・デメリット、連携上の課題、目指す連携・協働の姿、その他外部の地域団体との関わり、行政への要望・行政からの支援状況、保護者の理解

#### 1)事例1

## ①インタビュー対象者

A 小学校校長、B 中学校校長、C クラブ代表者

#### ②連携の概要図



#### ③連携のきっかけ、普段の連絡頻度や連絡状況

当時、B 中学校に卓球の指導者がおらず、中学校から教育委員会のスポーツ振興課に相談があった。そして、C クラブ代表者が、クラブの会員で卓球の指導をしていた人物を B 中学校に外部指導者(神戸市の外部支援員)として紹介し、現在まで指導を続けている。

B 中学校と C クラブ間で定期的な連絡会議等は実施されておらず、C クラブ代表者の個人的な繋がりや B 中学校校長を介して中学校関係者とコミュニケーションを図っている。また、C クラブ代表者は「私は中学校の PTA 会長をしていた関係で厚かましく押しかけていくような感じですが、全然何もされていなかったらそうはいかないし、中学校の PTA の OB 会というのがありまして、それがあるんで教頭先生も校長先生も一緒に対話ができる。だから、行きやすいというのもあって伺うんです。全然分からない人がいくと、ちょっとハードルが高いかな」と述べており、個人的に学校との繋がりが非常に強いことがうかがえる。A 小学校と B 中学校の間で、C クラブ関連の話をする機会はないそうである。

#### ④クラブと中学校との関わり

C クラブは、**基本的に小学校の施設を利用して活動しているため、中学校の施設を使うことはない** (稀に試合などで使用することがある)。他方、A 小学校と C クラブは持ちつ持たれつの関係であるので、卓球台のような大きな備品をクラブが購入する場合もある。

#### ⑤連携のメリット・デメリット、連携上の課題

学校運動部活動とクラブが連携を行うメリット・デメリットとして、**連携は教員の負担削減**(働き方改革)にはなるものの、**平日と休日で指導者が代わってしまうと生徒たちが指導内容に戸惑う**可能性が指摘された。この点については、指導者間で密にコミュニケーションを取り、指導方針を一致させていく必要があるとの意見が出された。

連携上の課題としては、**指導する際の責任問題**が挙げられた。この点について、B 中学校

校長は「外部指導員とかであっても(生徒が)怪我をしたり、何かあったときに責任を取れるかというと取れないですよ。やっぱりそこには教員の引率者が絶対におらないといけないから、結局(外部指導員を)なんぼつけていただいてもその辺の法的なものであるとか、保護者の考え方とかが変わらない限りは部活動改革にならないです」と述べている。

## ⑥目指す連携・協働の姿

B中学校では、少子化の影響から2年後にソフトボール部と剣道部を休部にする予定となっている。また、サッカー部がなく、金銭的に余裕のある家庭の子たちは学校外のチームに所属することができるものの、そうでない子たちは学校運動部活動のいずれかに入るしかないため、選択肢が非常に少ないという課題を抱えている。このことから、B中学校校長は一学校単位での活動に限界を感じ始めており、近隣の中学校と連携しながら、合同チームを推進する必要性を唱えている。加えて、B中学校校長は「地域にこれ(総合型クラブ)があってそこに入って、色んな学校の子が入ってそこから試合に出てとかいうような感じを望みますね。その指導をするのも、別に教員に興味があって平日でも休日でも指導したい人はやったらいいし、『私はそこまではいいです、家庭のこともあるのでもう5時になったら帰ります。土日は難しいです』って言うならそれでいいやろうし。その形が一番いいなと思います」と述べており、学校運動部活動の受け皿、教員の働き方改革に繋がるような総合型クラブの必要性を指摘している。

A 小学校校長からは、平日は学校運動部活動で活動し、休日は地域スポーツクラブに入って活動した方がいいという意見が聞かれた。その場合、休日の活動を地域スポーツクラブに任せるなら全て任せてしまうこと(地域スポーツクラブの指導者が教員に気を遣うため)、特定の中学校で部分的に取り組むのではなく神戸市全体で取り組むことが重要であると述べていた。

また、B 中学校校長からは大学生の活用について提案があった。具体的には「大学生は、スクールサポーターいうことで結構自由に組めるので、来れる日は学校に来て授業を一緒に教えたりというのはあるんですけど、大学生がどんどん放課後に来て部活動を教えてもらえると、土日に見とる指導者から学生に『こんなことができるようにしとって』というような感じで繋がっていける。将来教員を目指す学生にとってもめっちゃ力つくと思うんで。特に、自分の得意な部活動で指導ができるとなれば願ったり叶ったりかなとは思います」と、学校と学生の双方にメリットがあることを強調しており、今後部活動の地域移行を進める上で一つのヒントになるかもしれない。

#### (7)その他外部の地域団体との関わり

先述した卓球の指導者以外に、外部顧問、外部支援員、外部指導者といった形で B 中学校の部活動に携わる地域の指導者が 4名いる (ソフトボール部、剣道部、野球部、吹奏楽部)。加えて、形式的な役割を担ってはいないものの、B 中学校卒業生の保護者がテニス部のサポートを行っている。

#### ⑧行政への要望、行政からの支援状況

行政への要望として、**ある程度全中学校で足並みをそろえて、部活動の地域移行を進めてほしい**という声が聞かれた。A 小学校校長は「こうやったらどうするんやってデメリットを考えてたら、50 年、60 年やっても絶対(部活動の地域移行は)できない。土日はスポーツクラブでボンとする。中途半端に先生はここには入ってこない。そうしておいて、上(行政)から大号令をかけるんですよ。やり始めてからこれも駄目や、あれも駄目やって(課題が出てくるのは)当たり前なんですよ。制度を変えた後は、ゴタゴタするんですよ、必ず。ゴタゴタするからやめましょうっていうのは、せめて変えていかんと毎年同じことになる」と、行政から指示が下りた後に、地域の実情に合わせて学校やクラブで対応する方が良いと語っている。

#### 9保護者の理解

B 中学校には、卓球部に外部指導員がいるもの、基本的に指導のサポートを担っているの

で、保護者への説明や保護者からの意見等が特にあるわけではないようである。

学校運動部活動の地域移行を進める場合、保護者からすると従来のやり方で問題ないと感じているため、最も理解を求める必要があるのは保護者ではないかとの意見があった。例えば、学校運動部活動でレギュラーを決める場合、自分の子がレギュラーになれないと顧問に不満をぶつけるが、地域スポーツクラブの指導者がメインの指導を行う場合に学校教育の一環としてどのように伝えるかが課題となる。また、地域の指導者と教員で部活動を協力して運営する際に、当該種目の専門ではない教員と当該種目を専門とする地域指導者がいる場合、生徒たちは地域指導者を「上の存在」と認識し、教員の言うことを聞かなくなるかもしれないとの危惧があった。「保護者からしても、教員が当該種目の素人であれ一生懸命な姿勢を評価するのに、教員のこの頑張りが無駄になってしまう」可能性が指摘された。これらの点について C クラブ代表者は、メインとサポートの指導者を明確に区別しておく必要があると説いている。そして、人材発掘という観点からも、地域の指導者においてもメインでは指導できないが、サポートは可能という方がいるため、役割の明確化が重要であろう。

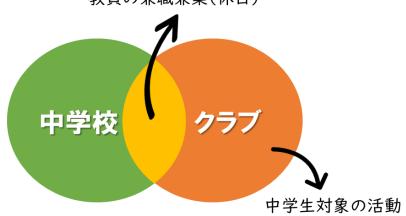
# 2)事例2

# ①インタビュー対象者

D 教員委員会関係者、E 役場関係者、F クラブ関係者 2名

#### ②連携の概要図

外部指導員(平日・休日) 教員の兼職兼業(休日)



# ③連携のきっかけ、普段の連絡頻度や連絡状況

まちの指針として、クラブの中で運動部活動と連携することを以前から進めていたため、 部活動指導員配置事業で中学校運動部活動との連携を視野に入れながらクラブ活動(陸上 競技、サッカー、卓球、剣道)を展開してきた経緯がある。本年度、文部科学省のモデル事 業を受託し、町内2つの中学校における休日運動部活動をクラブが担っている。一つの中学 校では卓球・剣道、もう一つの中学校ではサッカーを実施し、陸上競技については両校合同 での活動に取り組んでいる。

クラブと中学校間での形式的な会議は、2つの中学校の指導者・校長、スポーツクラブ関係者、教育委員会関係者が集まって年3回(今年度は5回の予定)開催されている。現場レベルでの話については、平日と休日で指導者同士が同じ場にいることが多いため日常的に情報交換を行うことができている。

#### ④クラブと中学校との関わり

**陸上競技に関しては、火曜日・木曜日にまちの陸上競技場で2つの中学校、高校、小学校**から生徒が来て、練習を行っている。時々、近隣の大学からも長距離走の練習に参加しているようである。**剣道、サッカー、卓球については中学校で活動を展開**しており、基本的には中学校の備品を使用している。

地域のイベントとして、陸上競技会やロードレース大会は中学生が準備や審判を手伝う等 連携を行っている (ロードレース大会は高校生も)。

人的資源の観点では、クラブの職員と会員が、中学校で指導に携わっている。こちらは、 現在文部科学省のモデル事業を受託していることから、1時間あたり1200円の謝金を支払 うことができている。また、実験的に休日にも練習をみたいという学校教員(部活動顧問) は兼職兼業願いを提出して、クラブの一会員として指導を行っている。こちらも、休日部活動を指導することで支払われる部活動指導手当ではなく、1時間あたり1200円の謝金となっている。

# ⑤連携のメリット・デメリット、連携上の課題

連携のメリットとして、<mark>教員の負担軽減</mark>が挙げられた。地域指導者と教員という複数名で 指導体制をつくることで、役割を分担し、指導日を調整することが可能となる。Fクラブと 中学校では、すでに休日の指導をクラブの指導者に任せたり、教員が三者面談やテストで忙 しい時期には平日でもクラブの指導者が指導を行ったりしている。

連携を進めていく上での今後の課題としては「財源の確保」と「平日の指導者の確保」が挙げられた。現在は、文部科学省のモデル事業を受託していることから、指導者への謝金を支払うことができているが、今後それがなくなる際にどのように捻出するかが課題の一つとなっている。この点について、D教員委員会関係者からは、部活動指導をクラブに委託することで、教育委員会から部活動指導手当をクラブに振り込む案や、保護者に受益者負担意識を持ってもらい中学生がクラブに加入して活動する案が出された。「平日の指導者の確保」については、現在、陸上競技とサッカーはクラブのスタッフが指導を行い、卓球と剣道に関しては自営業あるいは定年退職した指導者が指導しているため問題となっていないが、将来的には課題となってくる。解決策の一つとして、全ての活動を授業終了後すぐに実施するのではなく、平日でも指導者が仕事終わりに活動できるように18時以降にするなど時間帯を工夫することが提案された。

# ⑥目指す連携・協働の姿

将来的には、平日の部活動も地域移行していくイメージを描いている。活動場所については、現在 F クラブが町内全ての体育施設・小中学校の体育館を管理し、放課後や休日の学校施設も管理しているため、クラブが核となって地域人材を活用して地域のニーズに応えながら活動していくことは可能である。D 教員委員会関係者からは、「すでに小学生世代は、色んなスポーツ団体が受益者負担でやってるんですよね。足らないところは、民間のスポーツクラブ等と連携しながらスポーツクラブが提供しています。この小学生を対象にやってる活動を中学生まで膨らましていくっていう発想もあるのかなと。実際、中学校で部活動のないところでいうと、柔道であったり、ハンドボールであったりは、クラブの中で活動しています。これらに関しては、スポーツクラブが全部掌握して(参加している生徒たちは)スポーツクラブの会員なんですよね。学校がそこに入れば解決するのかなと思っています」という言述がみられ、今後は中学校側との折り合いが重要になってくるようである。

また、クラブと学校が連携して魅力のある地域部活動を作っていくことで、民間のクラブチームに行かなくても、地域の少年チームからそのまま中学校の部活動に入る流れができるという期待の声も聞かれた。大きな大会の出場資格が学校単位ではなく、クラブ単位等でも可能になれば、地域のスポーツ活動で大会に参加することが可能となる。

#### (7)その他外部の地域団体との関わり

基本的にはFクラブが窓口・フィールドとなって、連携協力を進めている。

#### ⑧行政への要望、行政からの支援状況

学校運動部活動の地域移行に関して、Fクラブ関係者は「**学校長と行政が、これからは先生にもっと理解を求めていかないといけない**。先生の協力があってこその地域移行になってくると思うので、(段階的な地域移行まで)後2年なんで来年頃にはどんどん先生の考え方をもっと柔軟的に変えていってもらわないといけないんかなって感じますけど」と述べ

ており、現場の教員に理解を求める必要性を強調している。また、現在は中学校に必要としている指導者がいない、あるいは必要としている運動部にだけクラブから派遣してるため大きな問題はないものの、学校側の理解不足や閉鎖的な姿勢もみられるようである。その点について、D教員委員会関係者は「もっと校長が地域と結びつくっていうことを意識してもらって。まずは校長、そして校長から教職員と(という流れに)なるので、そこに関してはこちらも働きかけていかなあかんかなとは思います」と述べていた。

#### 9保護者の理解

学校運動部とクラブが連携を進めるにあたって、サッカー、卓球、剣道に関しては学校で保護者説明会を実施した。保護者への理解について「保護者も子どもも指導者を求めてると思うんですよね。だから、学校の部活動であれ、地域のスポーツ活動であれ、そういったスポーツ活動に参加できるフィールドがほしいのと、大会とかに参加できるっていうところが必要であって、そのような参加する目標などがしっかり保証されていれば問題ないのかなと思っています」という意見が出された。

# 3)事例3

# ①インタビュー対象者

G中学校校長、Hクラブ会長、I教育委員会関係者2名

## ②連携の概要図



#### ③連携のきっかけ、普段の連絡頻度や連絡状況

G 中学校は生徒数が少ないことから、陸上競技部がなく運動部をこれ以上増やすことができない。そのため、H クラブが中学生の陸上競技継続の受け皿となっている。基本的には、中学校進学後、生徒たちは他の運動部に入部し、駅伝大会や記録会に出場している状況である。

中学校とクラブが連携する上で、1年を通して形式的な会議等は行っていない。しかし、 駅伝大会に出場するためには中体連への登録や中学校教員による引率が必要なため、クラブ代表者と校長の間で連絡・調整を行っている。引率に関しては、保健体育科の教員が担当し、2名必要な場合は出場する生徒の担任等が帯同している。

# ④クラブと中学校との関わり

**陸上競技の活動は、小学校のグラウンドで行われ、Hクラブの指導者が指導**している。必要な用具等は、全てクラブで揃えているそうである。中学生は他の部活動に所属しながら陸上競技の練習も実施しているが、中体連が開催する大会には出場できない状況である。この点について、Hクラブ会長は「中体連は、二重登録の問題がありまして…だから1、2年生は中体連の大会には駅伝以外は出てないんですよ。3年生は、7月の部活が終わった段階でその部(の登録)を抹消して、それ以後8月、9月、10月に過去に強い子は中体連の陸上の記録会にエントリーして出さしていただいているということはあります」と述べ、G中学校校長は「駅伝はちょっと特殊で他の部と掛け持ちができるという規約があるので、野球部、テニス部、卓球部の子らが3年生は引退した後に…1、2年生は掛け持ちしながら出場できるので、うちは出てもらっています。でもそれ以外の中播総体とかについては掛け持ちがで

きないので出場していない…そういう状況です」と語っている。

#### ⑤連携のメリット・デメリット、連携上の課題

連携をする上でのメリットは、陸上競技部がないにもかかわらず、駅伝等の大会に出て普段の部活動とは違った経験ができる点である。この経験があることで、高校で陸上競技部に入部し、大学でも続けた生徒が多数いる。Hクラブ会長は「陸上を小学校からずっと続けた子にとっては(中学校でも続けられる環境にあることは)良かったと思います。それで中学校で全くしなかったら、次の高校で競技にスッと入っていけなかったと思うんですよね。そういう面では1年に1、2回の大会しか出ていませんけども、地元の例えば陸上競技の記録会、中体連以外の大会には出ていますんで、そういう機会が中学校の3年間にあったということで高校に行ってからそれ(陸上競技)ができたんでしょうね。高校でもしっかりと競技を続けて大学までした子が結構おりますんで、良い環境かなと思います」と語っており、例え運動部として活動できなくても、陸上競技を楽しみながら継続できる環境があることで、高校や大学で本格的に競技を実施できるようである。

一方、デメリットとしては「デメリットをもし探すとしたら、小学校で陸上(競技を)して(引き続き)陸上をしたいけれども中学校にないということで、スポーツクラブの陸上だけ(に所属して)、中学校の運動部に入らないという生徒はあまりいないんですね。ほとんどの生徒は、野球部であったり、テニス部であったり、卓球部であったり中学校の部活動も精一杯参加して、その後帰ってからまたスポーツクラブで走って…それがテスト前とかになってきたら子ども達は忙しくて可哀想かなというときがあるということと、いろんな行事と重なったときの対応でどっちを優先するべきかなっていうことでちょっと悩むという、そんなこともありますね」と述べている。

また、今後さらなる連携を進めていく上で**ヒト・モノ・カネに関する懸念**の声も聞かれた。 I 教育委員会関係者は「人材育成の環境をみたときに、どれだけこの町の中に人材がおられるのかというのは探さないといけないのもあるでしょうし…あとは支援面やね。例えば、(地域やクラブの人材に) お願いしたとして、そこのクラブにはかなり支援を出さないといけないと思うんですね。今はだいぶカットしている部分もありますので、そのクラブにどれだけの支援を、国や県ができるんかどうか。それを自治体だけで賄えということになれば、(施設) 使用料免除すら今厳しい状況なんでその辺の整備がちゃんとできるんかなという心配があります」と語っており、H クラブ会長も「スポーツクラブの中で兵庫県でも大きな市になると、例えば加古川市なんかやったら加古川のスポーツクラブが全部加古川陸上競技場の運営から全てを受託して、色んな競技をやっている。あれくらいの人口があれば、ある程度指導者もおるし、競技できる施設もあるから何とかできるかも分かりませんけど、この町みたいに小さなとこは指導者の数も限られてますし、参加してくる子どもの数も非常に少ないですので、なかなか色んな競技をするのは難しそうに思いますね」と述べ、小さなまちならでは不安や課題が浮き彫りとなった。

#### ⑥目指す連携・協働の姿

目指す連携・協働の姿としては、今後手探りで進めていく様子がうかがえた。Hクラブは小さなまちにあることから、人的・物的資源が決して十分とは言えない状況にある。その中で、中学校、クラブ、行政等が地域の実情に合わせて、まさに段階的に部活動の地域以降を進めていくと思われる。

#### ⑦その他、外部の地域団体との関わり

H クラブ以外で、地域の野球、バレーボール、卓球チーム等に参加する生徒も中にはいるようである。

# ⑧保護者の理解

今後、部活動の地域以降が進み、教員が兼職兼業で休日の指導を行うようになる際の不安も聞かれた。G中学校校長は「中学校の先生が、地域の指導者として来てくれたらいけるやないかとなってしまったら、それを『ええで』って言うてくれる先生と、『それはちょ

っと難しい』って言う先生がいた場合、保護者は『あの先生は地域に来てくれてるのに、 あの先生は来てくれてない』となってしまう。それで、渋々(指導に)行かなあかんとなったら本来の目的がなし崩しですからね。(部活動地域移行の)過渡期なんかで見てくれる 先生と見てくれへん先生っていう、そんなんで評価下がったら可哀想ですよ」と語っており、保護者や生徒をはじめ周囲の理解を深める必要性が示唆された。また、「隣の中学校はものすごく専門的に教えてもらってるのに、こっちには指導者もいない」というような中学校間にできる可能性のある格差も検討しなければならない課題である。

表 2 各事例の概要

	事例 1	事例 2	事例3
プロフィール	設立:2000年	設立:2000年	設立:2002年
	活動エリア:小学校区	活動エリア:町	活動エリア:小学校区
	活動エリア人口:約5,700人	活動エリア人口:約35,000人	活動エリア人口:約1,934名
	クラブ会員数:約240名	クラブ会員数:約3,200名	クラブ会員数:約150名
	法人格の有無:無	法人格の有無:有	法人格の有無:無
	中学校生徒数:約420名	中学校生徒数:約570名、約410名	中学校生徒数:約200名
連携のきっかけ、普段の	●卓球部を指導できる教員がいなかった	●以前より、部活動指導員配置事業で中学	●中学校に陸上競技部がないことから、ク
連絡頻度や連絡状況	ため、クラブ会員の指導者を外部指導者と	校運動部活動との連携を視野に入れなが	ラブにおいて陸上競技を実施している
	して招聘	らクラブ活動(陸上競技、サッカー、卓球、	●形式的な会議は実施していないが、中体
	●連絡は、クラブ代表者が個人レベルで実	剣道)を展開	連への登録や中学校教員による大会の引
	施	●年3回の形式的な会議を実施しながら、	率が必要なため、クラブ代表者と校長間で
		現場レベルで意思疎通を図っている	連絡・調整を行っている
クラブと中学校との	●基本的にクラブは小学校の施設を使用	●陸上競技に関しては、火曜日・木曜日に	●中学生は、他の運動部に所属しながら、
関わり	し、中学校の施設を利用することはない	まちの陸上競技場で2つの中学校、高校、	小学校のグラウンドで実施するクラブの
	●クラブの会員が、卓球部にて指導のサポ	小学校から生徒が来て、練習を実施。剣道、	陸上競技活動に参加している
	ートを行っている	サッカー、卓球については中学校で活動を	
		展開し、クラブの職員や会員が指導してい	
		3	
連携のメリット・デメリ	●メリット	●メリット	●メリット
ット、連携上の課題	教員の負担軽減	教員の負担軽減	学校運動部活動にはない種目を経験でき
	●デメリット	●連携上の課題	ること
	平日と休日で指導者が変わることに対す	財源の確保、平日の指導者の確保	●デメリット
	る不安		クラブ側のデメリットとして、中学生に陸

	●連携上の課題 事故が起きた際の責任の所在		上競技を優先してもらうことはできない こと ●連携上の課題 人材・財源の確保
目指す連携・協働の姿	●中学生が総合型クラブで好きな種目を 選択し、大会に出場できるようになる ●平日は学校運動部活動で活動し、休日は クラブに入って活動(教員も同様) ●大学生の活用	●平日の部活動も地域移行 ●クラブと学校が連携して、魅力のある地域部活動をつくる	<ul><li>●小さなまちでできることを中学校、クラブ、行政等で調整しながら実施</li></ul>
その他外部の地域団体との関わり	●クラブとは直接関係のない地域指導者 が、外部顧問、外部支援員、外部指導者と いった形で部活動に携わっている	●基本的に、クラブが窓口となって、連携・ 協力を進めている	<ul><li>●中学生が参加することのできる、地域の 野球、バレーボール、卓球チーム等がある</li></ul>
行政への要望、行政から の支援状況	●行政が部活動地域移行の指示を出して、 ある程度足並みをそろえた状態でスター トをきってほしい	●学校長と行政が中心となって、現場における部活動地域移行の理解を深めていく	
保護者の理解	●部活動の地域移行を進める必要性について詳しく説明する ●教員と地域指導者の役割の明確化を説明する	●練習や試合に参加できる機会があることを説明する	●休日に参加する教員とそうでない教員 の評価が分かれないようにする ●中学校間での格差がなるべく出ないよ うにする

## 2 県外における中学校運動部活動と総合型クラブの連携に関する連携事例の調査

#### (1)調査日時・調査員・ヒアリング対象等

県外における中学校運動部活動と総合型地域クラブの連携事例について、文献調査並びに各都道府県体育・スポーツ協会クラブ担当者へのヒアリングにより、先進的な取組みを行っている事例を収集し、調査研究部会(令和3年12月3日開催)にて、視察地の選定作業を行った。その結果、福井県鯖江市、岐阜県羽島市、愛知県大口町の3市町の事例を対象として選定し、関係者へのヒアリングを行った。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現地調査ができない場合はオンライン会議ツール等を活用し、ヒアリングを実施することとした。

市町名	日時 (調査方法)	調査員	ヒアリング対象者
福井県	令和4年1月17日	森田委員長、谷委員、	鯖江スポーツクラブ 1名
情开 帰 二 情 工 市	10:00~11:30	田中委員、西野委員	鯖江市鯖江中学校 1名
思円(上111	(オンライン)	土井委員、廣瀬委員	鯖江市教育委員会 2名
岐阜県	令和4年1月21日	井原委員、村崎委員	はしまなごみスポーツクラブ 1名
羽島市	13:30~16:30	宮本委員代理	羽島市立竹鼻中学校 2名
公田 川	(現地)		羽島市教育委員会 3名
愛知県	令和4年1月28日	森田委員長、小坂委員	NPO 法人ウィル大口スポーツクラブ 2名
大口町	10:00~11:00	宮本委員代理	大口町教育委員会 2名
人口叫	(オンライン)		大口町立大口中学校 1名

表3 県外における連携事例の調査員並びにヒアリング対象者

## (2) 県外における先進的な取組を行っている事例

# 1) 福井県鯖江市の事例

#### ①概要

鯖江市は、人口 6 万 9,396 人(2021 年 12 月時点)で、市内は 3 つの中学校があり、各中学校区を活動エリアとする 3 つの総合型クラブが設立されている。2000 年に市内で最初に立ち上がった「さばえスポーツクラブ」は、会員数 1,135 名(2021 年 11 月現在)を数える。中学生を対象としたサークルは 12 であり、中学校の会員は 360 名となっている。年間予算 1,335 万円(概算)で、常任職員を 2 名配置している。

さばえスポーツクラブの活動エリアにある鯖江中学校は、生徒数 750 名のうち 516 名が 運動部活動に所属。ソフトテニス、陸上競技、ホッケー等が特に盛んで、全 11 種目の部活 動が展開されている。

#### ②クラブ設立の経緯等

欧米で普及しているスポーツクラブをモデルとし、子どもからお年寄りまでが世代の枠を超え、様々な種目競技に参加できる総合型地域スポーツクラブをつくるため、行政・学校・地域が連携し、さばえスポーツクラブを立ち上げた。設立のきっかけは、**行政からの要請であり、学校の週5日制の完全移行に向け、地域で子どもを育てる観点からクラブづくりがスタートした。2002**年にNPO法人格を取得。年間5~9回の理事会、2~3回の役員会の開催、必要時には各部会において主要な事業の計画・実行、予算執行を行う組織体制を形成している。

#### ③中学校と総合型クラブの連携のきっかけ、連携状況

総合型クラブとしては、生涯スポーツを推進するにあたって、中学校・高校では一度クラブを抜けることに課題意識があり、設立当初より中学校との連携を模索していた経緯がある。クラブ設立時には、「クラブから中学校の部活動の全員加入をやめてほしい」と学校側に要望し、生徒がニーズに応じて選択できるように取り組みを進めてきた。中学校の終業時刻以降は、社会教育施設として総合型クラブ等に開放されており、18時までは部活動、それ以降は地域のクラブ活動というすみ分けがされている。

総合型クラブは、中学校の施設等を利用して活動を行っている。 スポーツ用具等の備品管

**理が適宜行っているが、スポーツ用具の共有が行われている。**また、柔道の畳の張替え費用をクラブが負担しており、相互扶助の考え方で連携が図られている。

中学校や地域の行事の際には、例えば、中学校の文化祭に総合型クラブが出店参加したり、地域のスポーツ大会に中学生が補助員で協力したりといった形で中学校と総合型クラブで相互連携が図られている。また、総合型クラブから学校の体育授業への指導者の派遣等も行っている。

## ④中学校と総合型クラブの連携のメリット・デメリット

メリットとして、**総合型クラブ側からは、中学生のクラブ会員が増えることにより、クラブの全体の活性化が期待される**という。また、中学生会員が増えることで、会費収入増も見込めることがメリットとして挙げられた。学校側からは、部活動に加えてさらにスポーツの活動を行いたい生徒のニーズに応えられること、地域の指導者から専門的な指導が受けられること、顧問の負担が軽減されること、そして、まちで見かけた生徒に地域の人が声をかけてくれることが意見として聞かれた。

一方、デメリットとして、**総合型クラブ側からは、クラブの事務量の負担増や事故トラブル発生時の責任問題に不安を抱えていた。**また、指導者不足や施設を確保することが困難としたマネジメントの課題も挙げられた。学校側からは、教員と地域指導者の技術の格差や指導方針の違いといった指導上の懸念や、生徒の個人負担(会費)増を心配する意見、そして教員の部活への意識低下がデメリットとして挙げられた。

#### ⑤学校運動部活動の地域移行に関する課題等

鯖江中学校は、文部科学省が実施する地域運動部活動推進事業のモデル校となっている。 鯖江中学校の先生からは、「道のつく競技は、様々な流派があったりと地域移行がしづらい 競技で、あえて今回のモデル事業では剣道、柔道を選択した」という。モデル事業を進めて いく中で、顧問と地域の指導者、保護者との相互理解や連携強化が課題であり、保護者への 説明時に「教員の働き方改革という理由では保護者は納得しない」と強調した。

また、財政面では、生徒保護者の金銭面での負担増や地域スポーツ指導者に支払う謝金の 財源確保が課題である。指導者への謝金は、1,000円/時で、一日の活動上限は3時間とし、 一つの部活動につき、最大で3名の指導者配置を認めている。現在は、**国の地域部活動活動** 推進事業の予算を充当しているが、事業終了後の予算確保が課題となっている。

また、会場の確保や指導者の調整、会費の徴収から広報活動などといったマネジメントを 行う総合型クラブの事務局への負担増が大きな課題である。そのため、スポーツ施設の減免 措置や優先利用といった部活動を受け入れる体制づくりとして各種制度の確立を行政への 要望事項としてあげている。

#### ⑥目指す連携・協働の姿

中学校の教員や地域の指導者のどちらでも、やりたい指導者が指導を行い、やりたい生徒が集い活動できる場ができれば良いと考えている。そのためには、中学校が形式にとらわれずに地域と話ができる状況が必要であるとのことであった。

#### ⑦その他

中学校体育連盟が主催する大会への参加について、地域で活動している生徒の大会参加を どのように考えていくかについて、鯖江中学校からは、現状では学校名で大会出場を認めて いる。当面の間は、各種競技連盟が開催している大会にも参加しながら、学校単位の大会出 場も認めていく方針である。学校単位の大会がなくなるとは思わないので、地域移行したと しても一定学校が果たすべき役割があると考えている。

鯖江市では、3つの総合型クラブが活動しているが、さばえスポーツクラブの取組を参考としながら、市内全域で地域移行の取組を進めている。市内の総合型クラブが集う協議会においては、こうした様々な課題を共有しながら、地域移行に取り組んでいるとのことであった。鯖江市内の3つの総合型クラブでは、どのクラブに入ってもすべてのクラブで会員として扱う相互利用を行っており、クラブ間の連携体制が強固であることが確認できた。

#### 【調査員からの意見・感想等】

- ・鯖江市の事例では、今年度行われている地域運動部活動推進事業より前から、総合型地域 スポーツクラブが中学生のスポーツ活動の場をある程度提供していたため、生徒にも保護 者にも教員にも唐突な感じを与えることが少なかったと思われる。すなわち、連携するた めには「認知される(た)基盤」の存在が不可欠であり、言い換えると、個々の指導者の確 保というよりも、様々な点で信頼されるマネジメント組織(その中心にはマネジメント責 任者)が重要であると考えられる。
- ・鯖江市は以前から、中学生が総合型クラブで活動していた(部活動という枠組みと関係なく)、つまり、土・日や夜間は学校活動としての部活動は行われていない(もちろん大会前などに顧問からの特別な要求については校長が許可するが、原則、総合型地域クラブが発足し連携が進んで以降、部活動は平日が基本)ことが、今回の新規事業をする上で大きな問題が表面化していないことの要因ではないかと推察した。したがって、土・日の練習活動をどのように考えるか(大会参加は別)が大きなポイントになると思われた。端的に言えば、地域と部活動を連携するというよりも、「土・日の活動は学校と切り離して考える」方が混乱を招きにくいということである。つまり、土・日の活動を教員が関わる場合には、地域の組織の一員として活動していくことが、教員だけでなく、子供にも保護者にも分かりやすいのではないだろうか。とすると、土・日の活動は学校単位にこだわりすぎないことも必要ではないかと感じた。
- ・鯖江市内の3クラブが連携しながら中学生のスポーツ実施環境を提供されていることは 大変参考になりました。兵庫県も地域によっては中学校で活動できない競技種目も見られ る昨今において、合同チームで大会に出場するケースは見られるものの、スポーツクラブ の垣根を越えて生徒の活動の場を充実させていくことも今後の課題になってくるものと 思われます。スポーツクラブが連携・協力しながら、子どもたちのスポーツニーズをいか に設けていくのかを、これから検討できたらと思います。校長先生の仰っていた「学校の 先生も赴任した地域人」という言葉は印象的でした。部活動の指導に熱心な先生の中には 「生徒」は見えていても「地域」への意識はまだまだ向けられていないと推察します。今 回の連携事業を通して中学校と地域の関わりを強化していく方策についても議論を深め ていけたらと考えます。
- ・地域移行に要する経費や指導者について、また、地域部活動のマネジメント、中体連の大会への出場など詳しい現状を知ることができました。鯖江市は市とスポーツクラブそれぞれに関係者 (OB) が携わっていて、そして地域の方々の熱い思いで事業が成り立っているのだと感じました。
- ・中学校運動部活動と総合型地域スポーツクラブの地域移行に関する事業に重要なのは、マネジメントは誰がするのか、また、終着点としてしっかりとしたビジョン、基本理念を最初に考え、一丸となって活動を始めることが大事なのだと鯖江市の担当の方が何度も話していたのが印象的でした。事業を始めるにあたって、各団体への連携、とりわけ人間関係の構築が重要であるのだと感じました。中学校運動部活動の地域移行に関しては、まずその目的、教員の考え、地域の方の関わり方など整理しつつ時間をかけて取組む必要があると感じました。
- ・中学校側(特に校長先生)の理解=意欲がなければ進まない事業であり、**財源確保と指導 者確保が必須要件**である。このあたりの課題が解決できないとなかなか難しいと思う。

#### 2) 岐阜県羽島市の事例

#### ①概要

羽島市は、人口6万7,107人(2021年12月時点)で、市内は4つの中学校と1つの義務教育学校があり、中学校区を活動エリアとする3つの総合型クラブが活動している。年間予算は、約100万円であり、クラブにはパートタイプの事務職員が2名配置されている。今年度は部活動連携事業に取り組んでいることから1名増員の体制をとっている。活動エリアは、竹鼻中学校及び中央中学校区であるが、ここでは主に竹鼻中学校とはしまなごみスポーツクラブの連携事例を扱う。

竹鼻中学校は、約560名の生徒が在籍し、12種目の部活動が行われている。羽島市役所の目の前に立地し、行政と学校との連携が取りやすいとのことであった。

#### ②クラブ設立の経緯等

羽島市には、地区ごとに地域のスポーツ振興を担う体育振興会の活動が盛んであったことから総合型クラブの設立の必要性があまり感じられなかったものの、行政の要請等により、地域住民の多様なニーズに対応し、気軽にスポーツ、レクリエーション活動を楽しめる環境づくりを進めるため、平成 24 年に設立を迎えた。

## ③中学校と総合型クラブの連携のきっかけ、連携状況

岐阜県には**部活動育成会という組織が根付いている。**部活動育成会とは、PTA 組織の中に位置し、保護者を中心とした部活動の支援組織である。羽島市では、夏期期間で下校時間が 18 時、冬季期間は下校時間が 16 時半までと定まっており、冬季期間中に限れば平日の部活動はほとんど行われていないという。こうした状況において、「もっと活動をしたい」という生徒のニーズに応えているのが、部活動育成会であった。土日の部活動を中心に、平日の部活動についても可能な範囲で保護者が部活動の運営に関わってきた。

しかしながら、部活動育成会において、「保護者の負担が大きい」や「もっとやりたい生徒」へのニーズに応えることができなくなっているとの意見が聞かれるようになり、他の地域スポーツ団体との連携を模索するようになった。平成30年に部活動育成会が総合型地域スポーツクラブの活動趣旨や組織についての調査を行い、よりよい部活動環境の構築に向けた検討を始めたと報告があった。

竹鼻中学校としても、教員の働き方改革をめぐる国の動向や部活動育成会の意見などを踏まえ、部活動の地域クラブ化に賛同する。平成31年4月には、「令和3年4月から休日等の部活動をクラブ化する」という目標を定め、行政にも協力を依頼し、地域移行に向けた動きが本格化した。令和元年度には中学校内に部活動改善委員会を立ち上げ、部活動の現状を育成会役員、PTA、はしまなごみクラブ代表者へ相談し、部活動の在り方、指導方法、部活動育成会組織の縮小等について意見交換を行った。運動部活動の地域移行の受け皿としては、総合型クラブにその役割を担ってもらうことが妥当だと考えており、クラブ側に打診を行っていた。

総合型クラブ側としては、クラブの負担が増えるといった懸念はあったものの、「学校や地域の困り事を何とかしたい」、「子どもたちの活動環境を整えたい」という思いで、令和2年4月に部活動のクラブ化の受け入れを表明。この決断に至っては、クラブの理事長が17年間にわたって中学校の陸上部の指導を行っていたことも影響したようである。

令和2年6月には、中学校と総合型クラブで部活動の地域移行の保護者説明会を実施し、 部活動の現状や羽島市の部活動指針をもとに、よりよい部活動の実現のため部活動の地域 移行を推進することを伝え、地域移行になった場合の活動イメージや、メリット・デメリット、クラブになった際に心配に思うことに対して丁寧に説明を行った。特に、**部活動を行うためにはクラブの会員になる必要があるため、金銭面で保護者への過度な負担がないよう配慮を行っている。**具体的には、これまで部活動協力金として徴収していた額を大きく見直し(年間5,000円から100円に)、クラブの会員になって活動することへの負担感を軽減した。中学校として部活動協力金の額を大きく見直したことは英断であったといい、そうでもしないと保護者の理解を得るのは難しかったかもしれないと振り返っていた。

令和 3 年 4 月には、休日運動部活動の地域への完全移行を行った。竹鼻中学校運動部活

動加入者 296 名のうち、はしまなごみスポーツクラブに加入し、休日も活動を行っている 生徒は 250 名となっている。運動部活動に加入しているものの、はしまなごみスポーツク ラブに加入していない生徒の意向としては、「平日の部活動だけで満足している」もしくは 「他のクラブチームに参加している」とのことであった。指導者は全 29 名、うち教職員の 指導者は 5 名(サッカー、柔道、剣道、バスケットボール男女)であり、兼職兼業により地 域の指導者として活動を行っている。現在のところ、休日運動部活動を地域移行に伴う大き な戸惑いや混乱はなく、地域指導者の指導も好意的に受け止められている様子であった。

# ④中学校と総合型クラブの連携のメリット・デメリット

地域移行によって、生徒にとっては、選択肢が増えること、**自分のやりたいことに挑戦できることがメリットである**と考えている。保護者にとっては、部活動育成会の役割を総合型クラブが補完することによって、負担が軽減されている。部活動顧問は、休日の部活動がなくなり、負担が軽減に繋がっていることがメリットとしてあがった一方で、「生徒指導がしづらくなった」、「地域部活動を円滑にするために、休日の活動に参加した」とする教員もいた。

## ⑤学校運動部活動の地域移行に関する課題等

総合型クラブ・学校・行政が情報を共有し、課題に対して取り組んでいること、又はこれから取り組んでいきたいことについて、以下の8点が挙げられた。かっこ内は、取り組み主体を示している。

- ・総合型クラブ加入者への一斉メールの送信ができるシステムの構築 (クラブ)
- ・総合型クラブ規約の精査(クラブ)
- ・指導者の育成プログラムの構築 (クラブ・行政)
- ・総合型クラブ会員と部活動会員をすみわけ、部活動活動費の会計を明確化 (クラブ・学校)
- ・部活動育成会業務の簡素化(学校)
- ・休日部活動への学校・行政のかかわり方を明確化(クラブ・学校・行政)
- ・地域移行後の部活動顧問、クラブ指導者、保護者との連携(クラブ・学校)
- ・総合型クラブと中学校での合同説明会の実施し、保護者への説明(クラブ・学校)

#### ⑥目指す連携・協働の姿

地域移行がなされたからといって**総合型クラブにすべて任せるという姿勢ではなく、中学生の活動が充実したものになるよう、学校と行政が関わっていくことが重要である**と考えられている。また、地域部活動に関わる部活動顧問、クラブ指導者、保護者との連携構築や、定期的な説明会を開催し、ステークホルダーに共通認識を持って関わってもらう必要性を感じている。

#### ⑦その他

地域部活動の指導者への謝礼については、1回につき 1,000 円である。指導者になるためには、「コーチ登録用紙」及び「指導者宣誓書」を総合型クラブに提出する必要がある。

#### 【調査員からの意見・感想等】

- ・学校の土日の部活動を地域スポーツクラブに手伝ってもらっている形式であった感じた。
- ・教職員の中には、学校から部活動がなくなると思われている教師も少なくないが、そうではなく、土日に部活動を指導してくれているという形式であれば、専門外の教師、子育て世代、介護を要する世代の教師にとっては、負担軽減になるのではないかと感じた。(平日は教師で指導する)
- ・兼業届けをすれば、部活動の指導をしたい教師は土日に指導できるシステムにも賛同できた。
- ・現学校の校長・先生方の声、生徒の声を聞いたところ、先生方は、大変助かっている。地域指導者によくやっていただいている。生徒もスポーツ活動が増えてよかった。管理職も地域移行をしてよかったと言われていた。
- ・校長先生に課題を伺ったところ、指導者と学校の連携はうまくできていないところもある。 学校とうまくできなければ、保護者ともうまくいかないとのことであった。
- ・兵庫県の各市町において地域移行に取り組む際には、どのような方法で進めていくのが良いと思うかを聞いたところ、「よくあるのが、モデル校の実践を待って、それを参考に少しずつ広げていくというやり方があるが、それよりも、市町行政が何年までどのようなことをやるといった基本的な計画・方針を示したうえで、それに沿って各学校の学校運営協議会等で一斉に議論を始めて、試行錯誤しながら進めていく方が良い」との助言があった。
- ・羽島市の取り組みが上手くいっている事例は、保護者とクラブ指導者、クラブ指導者と学校顧問、学校顧問と保護者の連絡、報告、相談が常になされているところであると感じた。
- ・指導者への謝金が少ないと感じた。一回の活動1000円、年間クオカード5000円。
- ・兵庫県も地域移行するにあたり、**市町の誰がコーディネーターをするのか、市町に受け皿** のスポーツクラブはあるのかが心配である。
- ・羽島市の中学生の部活動についての特徴は、大まかに2点あると思う。①地域移行の以前から保護者を中心した組織が中心となって、多くの地域のボランティア指導者が関わっていたこと、②学校における、部活動の実施頻度が、兵庫県はじめ他県に比べて低いことである。学校運営協議会なども機能し、社会教育の意識が高い風土であり、学校体育と言われる分野も、保護者や地域の力を借りてやってきた。
- ・羽島市というよりは、岐阜県はこの 15 年、地域の指導者の発掘や、育成に時間とお金をかけてきた。こうした方針が、現在の保護者参画という形に表れている。言わば中身を丁寧に育ててきたと言える。
- ・兵庫県において SC21 の組織整備を進めてきたことを、強みに変えるためにも、学校部活動のサポーターのような方を、募り、育成することに、もっと時間と予算を割いていくことが重要ではないか。また、実際に部活動の指導が可能な人材バンクのような組織をしっかり作っていくことが、まずは重要ではないかと考える。
- ・ベースになる条件が岐阜県と兵庫県では異なるため、すべてをそのまま取り入れることは 困難ではあるが、まずは、部活動にかかわる人たち(生徒、保護者、教員等)の意識改革 が大切であることを再確認できた。
- ・羽島市では、もっと部活動をやりたい生徒へのニーズに応えられないことや熱心な先生が 異動した場合に競技力が維持できないなどの課題があった。また、土曜日は部活動として 活動しているが、日曜日は PTA 内に設立されている「部活動育成会」が部活動を運営し、 保護者当番等で保護者への負担が大きかった。これらの課題を解決するため、中学校では 部活動改善委員会を立ち上げ、地域との連携に向けて動き出したと伺い、現場の課題から 地域移行を進めていくことの重要性を感じた。
- ・県レベルで一斉に地域移行する事は困難であるため、各地域の実情や各学校における課題 を洗い出し、生徒及び保護者への丁寧な説明を行いながら、できる部活動から順に移行で きるよう進めていくことが必要だと感じた。

#### 3) 愛知県大口町の事例

#### ①概要

大口町は、人口 2 万 4,264 人(2021 年 12 月時点)で、市内は 1 つの中学校がある。大口町全域を活動エリアとするウィル大口スポーツクラブは、2002 年に設立。2003 年に NPO 法人化した。現在 23 人の専任職員が勤務している。会員数は約3,000 人。

大口町立大口中学校の生徒数は、725名(令和3年8月)である。

#### ②クラブ設立の経緯等

行政主導としてスタートしたこのクラブ当初の目的は青少年健全育成であったが、近年の取り組みでは高齢者の福祉関係、樹木剪定や講演会がある。スポーツ教室事業では普及活動・育成活動の2つのそれぞれの目的で種目が設定されている。普及活動の多種目スポーツでは、毎週土曜日に3部制で実施されている。主に小学生が参加しており、中学生は部活動などのスポーツ活動が物足りないという生徒が参加することが多い。健康推進事業では高齢者を対象としているため、新型コロナウイルス感染症の影響により現在の活動は中止しているが、それまでは年間延べ6,000人の方が参加していた。

## ③中学校と総合型クラブの連携のきっかけ、連携状況

国が休日運動部活動の段階的な地域移行を進めるといった方針について総合型クラブとしても状況を注視していた。様々なタイミングが重なり、今年度、国の地域運動部活動活性化事業を受託し、本格的な連携が始まった。行政・総合型クラブ・学校の三者が協議し、3種目の地域移行を試験的に進めることとした。第一に、部活動顧問が競技経験者である種目(サッカー)、第二に、部活動顧問が競技未経験者である種目(バレーボール)、第三に、過去に廃部になった種目(水泳)である。これまでに前例のないことで、模索から始まったという地域移行の取り組みは、現在のところ大きな混乱もなくスムーズに進められているとのことであった。

部活動の地域移行の形式としては、**総合型クラブの会員になって活動をしているのではなく、学校の部活動の外部コーチのような形で総合型クラブが指導者を派遣している。**学校側のニーズとしては、すべての部活動の地域移行を伝えており、総合型クラブとしてもこうしたニーズに応えるべく準備を進めている。

# ④中学校と総合型クラブの連携のメリット・デメリット

総合型クラブからは、「中学校に通っている子どもたちの多くは小学校時にクラブで活動をしており、中学生になった子どもたちの指導に引き続き関われるということは、総合型クラブにとって意義がある。」とし、地域移行について肯定的に捉えていた。

学校側としては、今年度の取り組みを振り返ると、メリットしかないとのこと。実践は、「本当に指導者に恵まれ、とてもうまくいっている。地域の指導者によって効果的な指導がされている」といい、総合型クラブが、指導者と学校との繋ぐ役割を果たしており、安心感があると振り返った。一方で部活動は、「教育活動の一つであり、学校にとっても重要な位置づけであることには変わらない。部活動の形を一定変えていく必要性はあるが、学校において部活動が果たしてきた役割にも目を向ける必要がある」とのこと。部活動における教員と地域指導者の関わりについてうまくバランスをとっていくことが重要だとした。

## ⑤学校運動部活動の地域移行に関する課題等

予算面では、現在、国の補助金を活用しているが、大口町としても地域移行に際して必要な経費を予算計上している。学校としては、すべての部活動を地域に移行するという希望があるが、種目を拡充していく際の予算として、町の予算を充てるか、あるいは一定の受益者負担をお願いするかといった費用面での課題が挙げられた。

指導面では、現在、地域連携を行っているサッカー・バレーボール・水泳の競技は顧問の 先生とクラブの指導者がうまくマッチしており、充実した活動が行われている。しかし、近 **隣市町5つの管内で教員の異動があり、顧問の変更が生じたときの引き継ぎが懸念事項**と して挙げられた。 最後に中学校体育連盟の大会の引率について、現状では学校の教員が引率する必要があるため、地域移行を進めるにあたっては、地域指導者が引率できるようにする、あるいは、大会運営を学校の教員だけでなく地域指導者が関われるようにしてはどうかという意見があった。

#### ⑥目指す連携・協働の姿

将来的には、すべての部活動に地域指導者が関わっていけるような体制を整えたい。そのためには、町の予算や受益者負担のあり方についても関係者間で協議していく必要がある。

# 【調査員からの意見・感想等】

- ・現状は、水泳部・サッカー部・バレーボール部の3運動部活動にスポーツクラブから指導者を派遣しており、今後大口中学校のすべての運動部活動を地域移行することができるかが課題であることが伺えた。3運動部活動については、学校側の要望(全運動部)の中から、総合型クラブの強みである競技から実施しているところは、本県でも非常に参考になるところである。
- ・市町教育委員会が各学校に対して丁寧なヒアリングを行い、**学校側の要望をもとに総合型** クラブとの調整を行いながら、地域移行が可能な運動部活動からまずは実施していくことが、将来的にすべての運動部活動を地域へ移行していく足掛かりとなっていた。
- ・本県においても、こうした事例をもとに県から各市町教育委員会に対して丁寧な説明を行い、各市町の段階的な地域移行を促進させていくことが重要ではないか。
- ・地域(学校外)にしっかりした基盤・受け皿としての総合型クラブが存在していることが大きいと感じた。クラブの会員数を聞くと、まさに大口町においてはそのクラブが十分に認知されていることがうかがえる。また、部活動と地域の連携を阻む要因としての学校差をどうするかについても、町内に1中学校しかないことで、「町教育委員会」「中学校」「地域・クラブ」の3者が繋がりやすくなっている。
- ・今年度はモデル的に実施した3パターンの部活動であったが、それをさらに増やしていく ための課題が出てくることについては、クラブ代表者も予想されていた。ただ、総合型ク ラブで開催している「多種目スポーツ活動(17種目)」を体育協会の力を借りながら既に 年間で展開していることからして、学校部活動の種目数を増やしていく際にもある程度の 協力体制は見込めるように感じた。
- ・「現状の部活動をそのまま継続して地域部活動とするのか」「平日の部活動の中身はどうするのか」も含めて、そのあり方を再考する必要があると考える。それは兵庫県にも通じることでもあろう。
- ・学校と地域との連携を進めていく上で、コーディネーター役になる組織(団体)が必要だが、大口町においては、教育委員会が中学のニーズを聞き出し、スポーツクラブがそのニーズにあった指導者の派遣等が行われていてうまく仕組みが機能していると思った。
- ・町に1中学校、1総合型地域スポーツクラブという関係で、子どもたちの多くが小学校の頃に総合型クラブに参加しており、クラブの関係者も子どもたちのことをよく知っているという関係は、中学での部活動の地域移行(連携)がスムーズにいく一助となっているではないか。意見交換会の時にも出ていたが、指導者の「マッチング」がとても重要だと感じた。
- ・部活動の地域移行の受け皿(連携先)となる総合型地域スポーツクラブ自体の運営や経営が充実していることが重要であると再認識した。大阪教育大学附属高校平野校舎で取り組まれ始めた学校を基盤とした総合型スポーツクラブあるいはコミュニティスクールのような形での部活動改革を考えていく必要がある地域もあるのではないだろうか。

# VI 公認スポーツ指導者への中学校運動部活動の地域移行に対する意識調査

本調査の目的は、中学校運動部活動の地域移行に対する公認スポーツ指導者の意識を明らかにすることである。調査の概要は以下のとおりである。

調査対象者:日本スポーツ協会公認資格を所有する県内の競技別指導者

(コーチ1~4、教師、上級教師)

調査方法 : オンラインによる質問紙調査。オンライン調査フォームを作成し、兵庫県体育協会を

通して調査対象者に配信を行った。

調査時期 : 2021年12月下旬~2022年1月中旬

回収数 :回収数 433 票、兵庫県内の資格登録者 3,446 名、メールアドレス登録者 2,953 名(無

効メールアドレス 69 名)

調査内容:個人的属性、事故等に対する補償の認知、現在の謝金、総合型地域スポーツクラブの

認知、中学校運動部活動の地域移行の認知、中学校運動部活動の地域移行の支持、中学 校運動部活動における指導の意思、指導可能日時、必要な手当、指導する際の必要な条

件、活動の妨げになりうる要因、中学校運動部活動で指導する際に不安に思うこと

#### 1 個人的属性

図 1 は、回答者の性別を示している。「男性」が 86.1%、「女性」が 13.6% であり、男性の割合が 高かった。

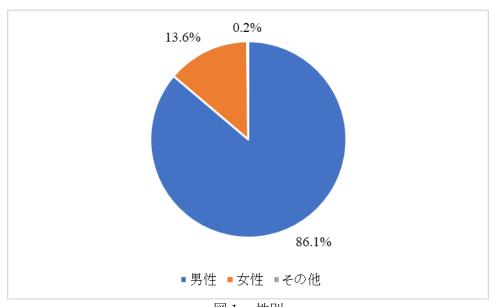


図1 性別

図 2 は、回答者の年代の内訳を示している。「50 代」が 31.8%と最も多く、次いで「60 代」が 27.2%、「40 代」が 23.6%であり、40 代~60 代までの世代が 8 割以上 (82.6%) を占めた。平均年齢は 54.2 歳 (標準偏差:11.5) であり、最年少が 22 歳、最年長が 84 歳であった。

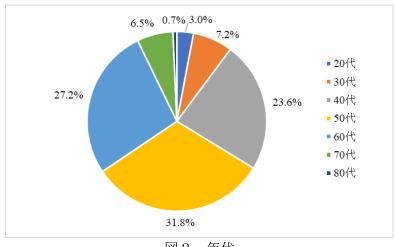


図2 年代

図 3 は、回答者の居住地を示している。「兵庫県内」が 97.7%、「兵庫県外」が 2.3%であった。 兵庫県内の内訳をみると (表 1)、「神戸市 (27.7%)」が最も多く、次いで「姫路市 (9.0%)」、「明石市 (7.4%)」であった。

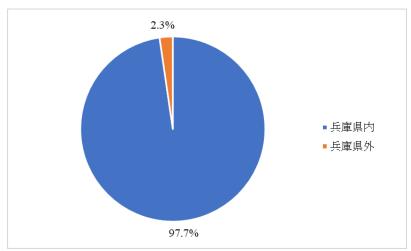


図3 居住地(兵庫県内・外)

表1 居住地(兵庫県内の内訳)

	n	%
神戸市	120	27.7
姫路市	39	9.0
明石市	32	7.4
西宮市	30	6.9
加古川市	22	5.1
尼崎市	21	4.8
伊丹市	20	4.6
宝塚市	11	2.5
豊岡市	11	2.5

※ n ≥ 10のみ記載

図4は、回答者の職業の内訳を示している。**最も多かったのが「会社員(38.3%)」**で、次いで「自営業(11.3%)」、「無職(9.7%)」、「高校教員(8.5%)」であった。

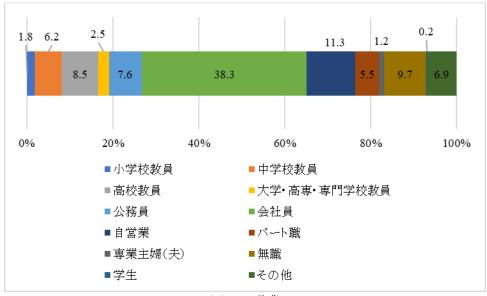


図4 職業

回答者の指導者資格の内訳をみると(図5)、「コーチ1」が約7割(67.0%)を占め、ランクが上がるにつれて保有率が低かった

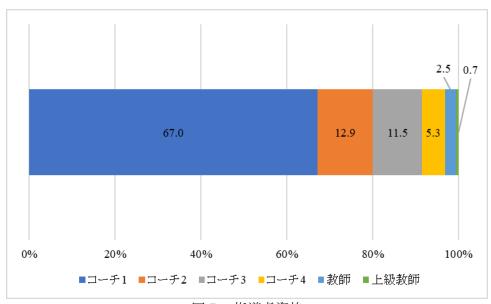


図 5 指導者資格

図6は、回答者の指導可能な競技レベルを示している。**約7割(67.0%)が「市町村大会」レベル**と回答した一方、**約4割(41.3%)が「全国大会」レベル**と回答した。

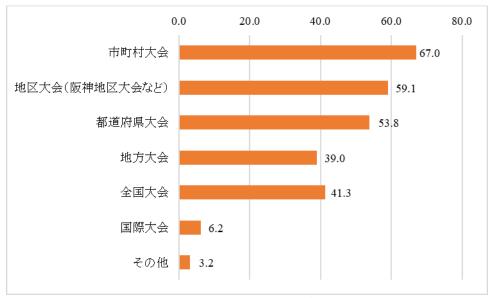


図6 指導可能な競技レベル (複数回答可)

指導可能な指導対象をみると (図 7)、「中学生 (84.8%)」が最も多く、次いで「小学生 (78.8%)」、「高校生 (61.9%)」であった。小学生から高校生までを指導できる指導者が多いことがうかがえる。

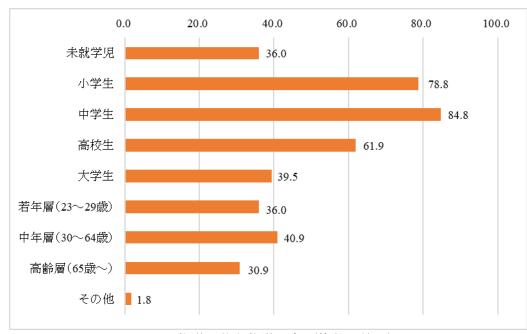


図7 指導可能な指導対象(複数回答可)

表 2 は、指導可能な競技種目を示している。「バレーボール (24.7%)」が最も多く、次いで「ソフトボール (10.6%)」、「陸上競技 (8.5%)」、「テニス (7.9%)」であった。

表 2 指導可能な競技種目(複数回答可)

	八里口 (1次多	XE 177
	n	%
バレーボール	107	24.7
ソフトボール	46	10.6
陸上競技	37	8.5
テニス	34	7.9
水泳競技	33	7.6
野球	33	7.6
空手道	29	6.7
ソフトテニス	19	4.4
卓球	19	4.4
ラグビー	17	3.9
剣道	16	3.7
スキー	11	2.5
体操競技	10	2.3
ハンドボール	10	2.3
バドミントン	10	2.3
	\• <i>(</i>	10 5 7 = 1+1

※ n ≥ 10のみ記載

1 週間あたりの平均指導日数をみると、何らかの理由で「**指導していない」回答者が 18.9%**おり、「**2 日 (17.1%)」「1 日 (14.5%)**」と続いた。他方、**3 日以上指導している回答者も 4 割以上** (42.7%) いることが明らかになった。

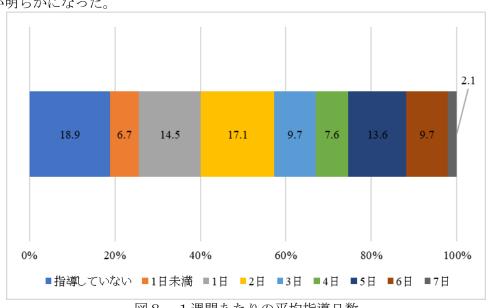


図8 1週間あたりの平均指導日数

図 9 は、現在指導を行っている団体の内訳を示している。「地域のスポーツ団体・サークル」「スポーツ施設や行政が主催するスポーツ教室」が最も多く(35.6%)、次いで「スポーツ少年団(20.5%)」、「スポーツクラブ 21 ひょうご (17.7%)」であった。

指導を行っている施設をみると(図 10)、**約半数が「公共の施設(48.7\%)**」であり、「**小学校の施設(31.9\%)」「民間の施設(26.2\%)」も比較的割合が高かった**。また、中学校(20.5%)、高校(15.4%)、大学(8.3%)と上がるにつれて割合が少なくなることが示された。

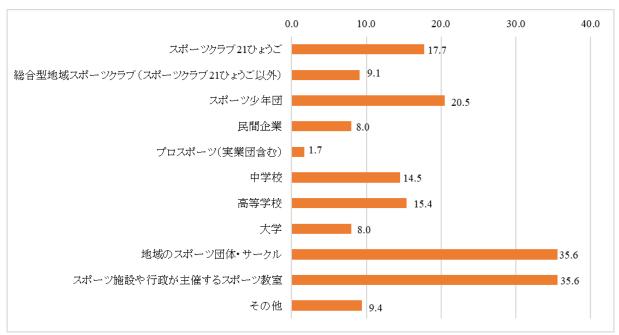


図9 現在指導を行っている団体(複数回答可)

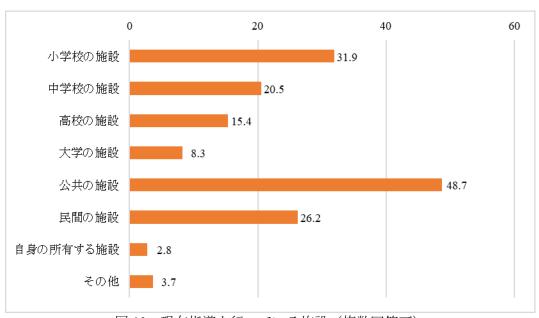


図 10 現在指導を行っている施設(複数回答可)

# 2 各補償に関する認知について

図 11 は、各補償に関する認知についてたずねたものである。「自身が、指導中にけがをした場合 の補償」「指導している対象者が、けがをした場合の補償」について知っている(知っている+よ く知っている)回答者は7割以上を占めた。一方、「活動している施設・設備の破損等に関する補 償」に関しては、約5割があまり知らない(36.7%)・全く知らない(8.8%)と回答した。

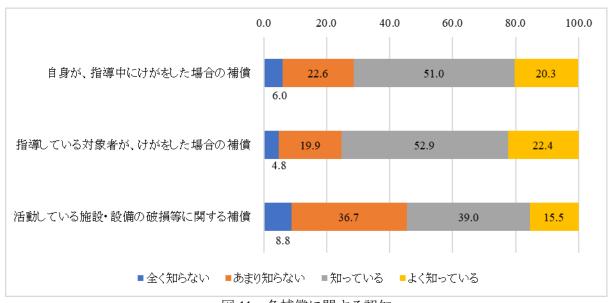


図11 各補償に関する認知

# 3 現在の謝金、中学校運動部活動において指導に携わる際に必要な手当

現在のスポーツ指導に対する謝金についてたずねた結果(図12)、無給ボランティアで指導を行 っている回答者が7割以上(73.5%)を占めた。無給ボランティア(0円)を除いた謝金の平均値 は 2,541 円 (標準偏差: ±2,349)、中央値は 2,000 円であった。

中学校運動部活動において指導に携わる際に必要な手当てとしては(図13)、約2割(19.4%) の回答者が無償ボランティア (0円)でよいと回答した。一方、「2,001~3,000円 (23.3%)」「3,001 ~4,000円(4.1%)」「4,001~5,000円(24.8%)」が、約半数(52.2%)を占めた。無給ボランティア (0円)を除く希望手当の平均値は 5,312 円(標準偏差: ±5,162)、中央値は 4,500 円であった。

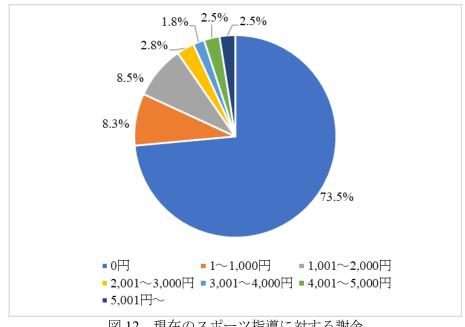


図12 現在のスポーツ指導に対する謝金

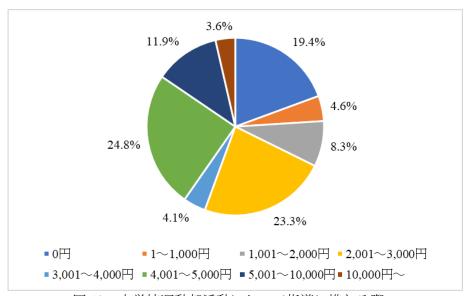


図13 中学校運動部活動において指導に携わる際、指導1回あたり(2~3時間程度)に必要な手当て

# 4 総合型地域スポーツクラブの認知

図 14 は、総合型地域スポーツクラブの認知を示している。約 1 割(11.5%)の回答者がすでに総合型地域スポーツクラブで指導を行っており、約 5 割(48.3%)が「知っている」と回答した。一方、「名前を聞いたことがある」が 31.2%、「知らない」が 9.0%であり、約 4 割の回答者にとっては馴染みのないことがうかがえる。

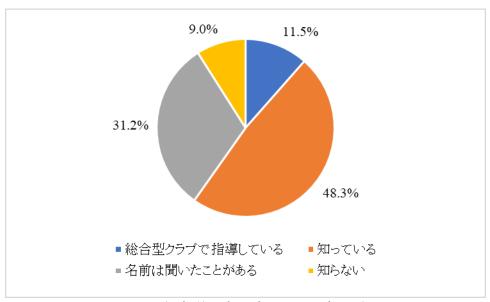


図14 総合型地域スポーツクラブの認知

5 「休日の中学校部活動の段階的な地域移行」の認知、及び支持について

「休日の中学校部活動の段階的な地域移行」の認知についてたずねたところ(図 15)、約 6 割 (63.1%)が「知っている」と回答した。「何となく聞いたことがある(25.4%)」「知らない(11.5%)」回答者も一定数いることから、今後さらに認知度を高め、理解を深めていく必要性が示された。また、支持するかどうかについては、約半数(54.3%)が支持すると回答したが、「どちらともいえない」が約 4割(40.4%)に上り、現段階の情報では判断しかねる回答者も多いことが明らかになった(図 16)。

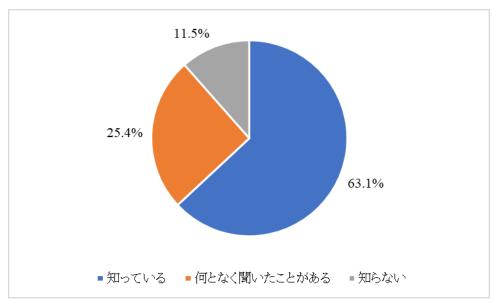


図 15 「休日の中学校部活動の段階的な地域移行」の認知

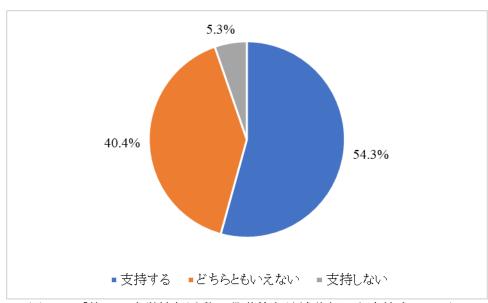


図 16 「休日の中学校部活動の段階的な地域移行」を支持するか否か

# 「休日の中学校部活動の段階的な地域移行」を支持する理由

# <教員の負担軽減>n = 86

- ●教員の負担を減らし、地域の専門家やコミュニティを活用するほうがメリットが大きいと思います(30代、男性、会社員)
- ●学校教師の負担が大きすぎる(40代、男性、会社員)
- ●先生の負荷軽減(50代、男性、会社員)
- ●教員の負担減につながる(40代、男性、高校教員)
- ●学校教員が部活で忙殺される現状は改善されるべきである(40代、男性、大学・高専・専門学校教員)

# <専門技術の習得>n = 66

- ●真剣に部活動をしたいという生徒に対し、その競技経験がない教員では、基本的な指導はできても技術的な指導は困難であると感じている(40代、男性、会社員)
- ●専門知識のない教員、やりたくないのに無理矢理 させられている教員が子供たちにとって良い指導が 出来るわけがない(40代、男性、会社員)

# <生徒の選択肢増加>

#### n = 16

- ●生徒の選択肢が増えるから (40代、男性、その他)
- ●好きな競技が出来ない子供 達がいます(50代、男性、自 営業)
- ●部活動は、学校により対象 競技が偏っているため (40代、 男性、会社員)

# 支持

# <指導者不足>n = 7

- ●学校の教員では対応できない ように思う(50代、男性、会社 昌)
- ●教員の指導者不足(60代、男性、中学校教員)

# <その他>n = 21

- ●学校教育でやるには限界がきてるから (30代、女性、高校教員)
- ●以前から外部指導員に興味があり、将来 携わりたいという思いがあるから(40代、 男性、会社員)

# <地域>n = 6

●学校の部活と地域のスポーツ チームが交流する機会ができ、 双方の活性化に繋がると思いま す(50代、男性、会社員)

# <少子化>n = 6

- ●少人数クラブでは活動範囲が 限られる(60代、男性、無職)
- 少子化による部活動の減少 (60代、男性、自営業)

# 「休日の中学校部活動の段階的な地域移行」についてどちらともいえない理由

#### **<制度・体制・システム>n = 62**

- ●指導者を選ぶ事が出来ない選手は如何なものか(60 代、男性、無職)
- ●平日は学校の顧問が担当するので連絡調整が大変 (50代、男性、高校教員)
- ●教師の働き方改革にはなるのでしょうが、指導法の 違いによる顧問、選手達の戸惑いが生じないか(60代、 男性、無職)
- ●平日と土日の分けた考え方だと、問題点が多すぎるからです(40代、男性、中学校教員)

## <教育としての価値>n = 48

- ●趣旨は理解できるが、まだまだ部活動=学校という認識がある(50代、男性、公務員)
- ●教員と共にクラブ活動するのが本意のはず(60代、 男性、パート職)
- ●学校や部活動の方針と合わない可能性があるから (40代、女性、専業主婦(夫))

# <制度への理解不足>

#### n = 13

- ●私自身が全体像を把握していないため(60代、男性、無職)
- まだよくわかっていないから(20代、男件、会社員)
- ●具体的な内容が不明(30代、 男性、会社員)

# どちら とも いえない

# <責任問題> n = 11

- ●何か問題が起きた時の責任問題が大きい (30代、女性、会社員)
- ●保護者対応がややこしそう (60代、女性、大学・高専・専 門学校教員)
- ●事故等の補償、学校との連携 が不明(60代、男性、自営業)

# <教員の熱意>n = 11

- ●部活動に力を入れている教師もいる (40代、女性、その他)
- ●教員の中にも指導熱心で指導したい方がいる(50代、男性、自営業)
- ●部活動の指導をしたくて、教員になって いる方もおられると思います(40代、男 性、会社員)

# <報酬>n=6

● 給料のようなものもないでしょうし、外部指導者にメリットが少ない(40代、男性、小学校教員)

# <その他>n = 8

- ●何故部活を土日なくすのか知らない(40代、男性、会社員)
- ●専門的な指導はむしろ顧問にも 学習してもらいたい(70代、男性、 無職)

# 「休日の中学校部活動の段階的な地域移行」を支持しない理由

# 支持しない

# n = 21

- ●人的資源、施設、財源、いわゆる人・物・金が全く 無い(50代、男性、その他)
- ●平日と休日で指導者が変わるのは指導の仕方も変わるので生徒が混乱すると思う(50代、男性、高校教員)
- ●試合は土日に設定されているのに、休日だけ指導するというのは無理があります(40代、女性、中学校教員)
- ●教育の一環として、教員が主体となるべき (60代、 男性、無職)
- ●学校教育の一環であるべき(50代、男性、会社員)

# 6 中学校運動部活動における指導の意思

図 17 は、中学校運動部活動で指導したいかどうかたずねた結果を示している。「すでに指導している (11.5%)」「思う (44.8%)」を合わせると、半数以上の回答者が指導意思をもっていることがうかがえる。一方、34.6%が「どちらともいえない」と回答しており、図 16 と同様に現段階では判断できない状況であると考えられる。

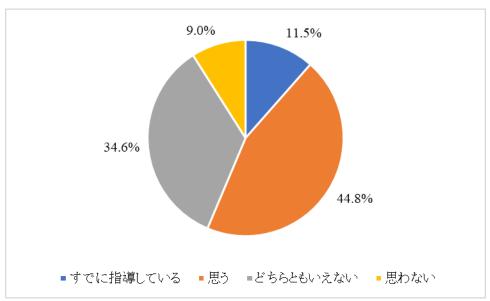


図 17 中学校運動部活動における指導の意思

#### 7 ハンドブックの必要性の有無

図 18 は、中学校運動部活動において外部指導者が指導に携わる際の注意点や、生徒との効果的なかかわり方についてまとめたハンドブックが役立つかどうかをたずねたものである。 8 割以上 (81.6%) の回答者が役に立つと考えており、ハンドブック作成の必要性が示唆された。

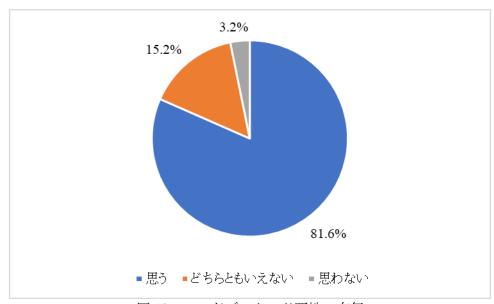


図 18. ハンドブックの必要性の有無

# 8 指導可能な曜日、及び休日の指導可能な時間帯

図 19 は指導可能な曜日、図 20 は休日の指導可能な時間帯を示している。指導可能な曜日としてはやはり「土曜日 (74.1%)」「日曜日 (69.8%)」が多かった。一方、平日においても約 3 割の指導者が指導可能であることが明らかになった。今後、部活動の地域移行を進める際に平日の指導者を確保することも課題になってくるため、この結果は重要な示唆を与えるであろう。また、休日の指導可能な時間帯としては「午前 (80.7%)」が最も多く、「17 時以降 (32.0%)」が最も少なかった。

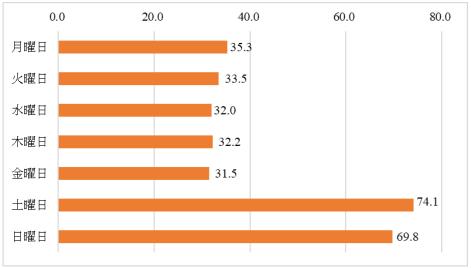


図19 指導可能な曜日 (複数回答可)

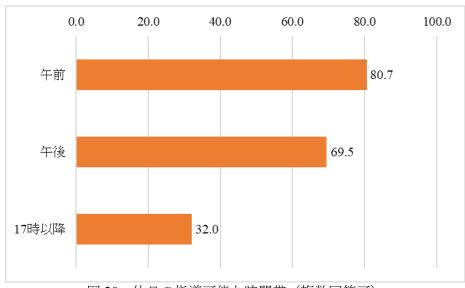


図 20 休日の指導可能な時間帯 (複数回答可)

#### 9 中学校運動部活動において指導に携わる際、必要な条件

#### <個人的条件>n = 57

- ●指導者を選ぶ事が出来ない選手は如何なものか(60代、男件、無職)
- ●平日は学校の顧問が担当するので連絡調整が大変 (50代、男性、高校教員)
- ●教師の働き方改革にはなるのでしょうが、指導法の違いによる顧問、選手達の戸惑いが生じないか(60代、 男性、無職)
- ●平日と土日の分けた考え方だと、問題点が多すぎるからです(40代、男性、中学校教員)

#### <指導範囲・責任の所在・補償内容の 明確化>n = 52

- ●趣旨は理解できるが、まだまだ部活動=学校という認識がある(50代、男性、公務員)
- ●教員と共にクラブ活動するのが本意のはず(60代、 男性、パート職)
- ●学校や部活動の方針と合わない可能性があるから (40代、女性、専業主婦(夫))
- ●保護者対応は学校ですること(60代、女性、大学・高専・専門学校教員)
- ●責任の範囲の明確化(60代、男性、パート職)

#### <学校関係者との関係>n = 47

- ●学校の教員とのコミュニケーション(60代、男性、その他)
- ●学校側の全面的な協力体制(70代、男性、無職)
- ●顧問との情報共有(練習内容、生徒の様子など) (50代、男性、公務員)
- ●学校(先生)が任せてくれて、連携してくれる意識 (50代、男性、自営業)
- ●中学校との連携、相談の機会(50代、男性、小学校教員)

#### <活動環境>n = 53

- ●環境が整っている事(70代、男性、無職)
- ●やり易い環境(40代、男性、会社員)
- ●道具と場所があること(40代、男性、会社員)
- ●充分に練習できる環境と理解(50代、男性、自営業)
- ●他チームとの合同練習や練習試合が出来やすい環境整備(60代、男性、パート職)
- ●学校による練習器具の購入(50代、男性、会社員)
- ●受け入れてもらえる雰囲気(50代、男性、その他)
- ●怪我した時の対処法マニュアル (40代、女性、パート職)

中学校運動部活動に おいて指導に携わる際、 必要な条件

#### <必要経費や待遇の充実>n = 32

- ●能力に応じた報酬(40代、男性、その他)
- ●複数年契約(50代、男性、会社員)
- ●部活動の給料で生活できるような対価が得られること(40代、男性、小学校教員)
- ●指導者に手当を支払うこと(ボランティアという時代は終わりました)(50代、男性、会社員)
- ●給与、福利厚生の確保(20代、女性、中学校教員)

#### <種目・資格>n = 14

- ●そのスポーツの選手経験・指導 経験・資格(40代、男性、会社 員)
- ●子どもに関わる適正があること を評価判断できる体制(50代、女 性、自営業)
- ●専門性を評価されること (40代、 女性、大学・高専・専門学校教 員)

#### <指導体制>n = 18

- ●メインの管理者としての学校教員の配属 (30代、男性、会社員)
- ●複数人の指導体制(50代、男性、中学校 教員)
- ●顧問等の責任ある立場の方と一緒に指導すること(50代、男性、会社員)
- ●指導日が不規則になっても構わないこと (40代、男性、その他)

#### <保護者との関係>n = 20

- ●保護者対応(50代、男性、その他)
- ●自分の指導方法に保護者が口出ししないこと (50代、男性、会社員)
- ●選手の親御さんが外部指導員に対して理解があること(40代、男性、会社員)
- ●基本的に親御さんが不必要な口出しをしないこと(50代、男性、自営業)

#### <生徒の特性>n = 26

- ●生徒たちにやる気があること(40代、男性、 会社員)
- ●学生に礼儀が備わっていること(40代、男性、 自営業)
- ●前向きな、態度とルールを守る約束(50代、 男性、会社員)
- ●スケジュールの徹底とマナー(50代、女性、自営業)

#### 10 中学校運動部活動において指導に携わる際に活動の妨げになりうる要因

#### <個人的制約>n = 143

- ●現在の勤務の多忙さ(40代、男性、会社員)
- ●休日の大会引率に予定がつかない可能性があること (40代、男性、中学校教員)
- ●経済的・時間的・心理的な負担(30代、男性、会社員)
- ●平日は仕事があること(50代、男性、会社員)
- ●公務員は副業できないこと(50代、男性、高校教員)
- 公務員の副業禁止に抵触しないかという不安 (50代、 男性、公務員)
- ●仕事の時間調整などが必要になってくると感じます。 (30代、男性、その他)
- ●その時点の会社規則(50代、男性、会社員)
- ●会社勤務の為、夜または土日になること(60代、男性、 会社員)
- ●急遽行けない時の変わりがいない(50代、男性、公務員)

#### <保護者との関係>n = 75

- ●昔ながらの古い意識、やり方で、口を出してくる周りの保護者(40代、男性、会社員)
- ●仕事の時間もそうですが、部活動という学校活動の中に、一般人が入ることによる保護者との関係(40代、男性、自営業)
- ●モンスターペアレンツの存在(40代、男性、大学・高 専・専門学校教員)
- ●父母会、PTAからの否定的意見(50代、男性、公務 員)
- ●保護者等の非協力的な対応(60代、男性、無職)
- ●個人的なクレームへの懸念(50代、女性、パート職)

#### <顧問(学校関係者)との関係>n = 45

- ●部活動顧問との関係(40代、男性、高校教員)
- こちらの情報を否定から入る教員(30代、男性、 パート職)
- ●教職員との指導方法の違い(40代、女性、パート職)
- ●学校との綿密な連携(40代、男性、自営業)
- ●熱心な中学校教師の抵抗(40代、男性、自営業)
- ●先生の嫉妬と周囲の誹謗中傷(50代、男性、会社 員)
- ●顧問が付いてないとやりづらいこと(70代、男性、 会社員)

#### <生徒との関係>n = 20

- ◆やる気がないものが紛れ込む事(50代、男性、公 務員)
- ●あくまでも生徒が指導を受け入れてくれるかという不安(60代、男性、自営業)
- ●生徒のマナーの悪さ(50代、女性、自営業)
- ●中学生の基本的な礼儀(60代、男性、会社員)

中学校運動部活動において指導に携わる際に活動の妨げに なりうる要因

#### <施設・設備・予算的制約>n = 19

- 】●シューズ、ユニフォームの確保(60代、男性、 パート職)
- ●場所(設備)と道具(60代、男件、会社員)
- ●備品の充実(40代、男性、会社員
- ●装備にかかる費用、実習地への交通費など(50代、 男性、その他)

#### <慣習> n = 7

●スポーツ指導員は、ボランティアで昔ながらの 「手弁当」という考え方(60代、男性、自営業)

#### <非常時の対応>n = 6

- ●万が一、子ども達がケガをした場合の補償 (50代、男性、会社員)
- ●事故への対応(60代、男性、小学校教員)

#### 11 中学校運動部活動に携わる際に不安に思うこと

#### <非常時の対応>n = 67

- ●事故発生時の対応(50代、男性、その他)
- ●指導対象の怪我や施設の破損(20代、男性、高校教員)
- ●事故防止と熱中症などの健康面に問題が生じその対策が難しい(70代、男性、自営業)
- ●負傷時の対応と中学生活の状況が細かくつかめない 点(50代、男性、高校教員)
- 心身に対するケアに対応可能かどうかとケガのリスク (50代、男件、自営業)
- ●部活動の責任者の存在 (60代、男性、パート職)

#### <個人的制約> n = 47

- ●仕事によって急に参加が難しいときもあること (40代、男性、会社員)
- ●「教育」する事に知識がない(50代、男性、会社員)
- ●経験が無いので全てに不安(60代、男性、自営 業)
- ●仕事の関係で決まった日時と時間を確約出来ない こと(40代、男性、会社員)
- ●中学校運動部指導が仕事や家庭生活を圧迫しない という確信がない(50代、男性、その他)

#### <顧問(学校関係者)との関係>n = 44

- ●部活顧問とのトラブル(60代、男性、パート職)
- ●顧問との連携や関係構築(60代、男性、中学校教員)
- ●学校から丸投げされること (50代、男性、公務員)
- ●学校長含め教員の理解(50代、男性、会社員)
- ●学校との指導レベルのギャップ(60代、男性、パート職)

#### <生徒との関係>n = 61

- ●生徒の部活への取り組み(40代、男性、会社員)
- ●生徒との信頼関係が持てるか(70代、男性、高校教 員)
- ●子供達との距離感(50代、男性、会社員)
- ●メンタルが不安定な時期なので、ケアができるかどうか(50代、男性、会社員)
- ●ヤル気のない生徒への対応(50代、男性、公務員)
- ●思春期の生徒の専門指導経験がないので、わからない (50代、男性、会社員)

# 中学校運動部活動に 携わる際に不安に思う こと

# <保護者との関係>n = 41

- ●非常識な父兄(40代、男性、その他)
- ●モンスターペアレンツの存在(40代、男性、大学・ 高専・専門学校教員)
- ●保護者とのコミュニケーション(40代、男性、自営 業)
- ●様々なクレーム(50代、女性、パート職)
- ●過度の期待(60代、男性、自営業)
- ●保護者とトラブルが起こる可能性(20代、男性、会 社員)

#### <その他>n = 5

●保有しているコーチ資格のスポーツが 中学校にはないと思う(70代、男性、 会社員)

# <施設・設備・予算的制約>n = 15

- ●謝礼(60代、男性、中学校教員)
- ●施設の管理(40代、女性、高校教員)
- ●お金の面とインフラを整備すること(40 代、男性、自営業)
- ●県体協や市スポ協などから、防具等を購入 する際の資金支援があるのか(50代、男性、 会社員)

#### <制度・体制・システム> n = 28

- ●人数が多すぎると良い指導ができない(40代、 男性、会社員)
- ●継続的なサポートがしていただけるかどうか (60代、男性、その他)
- ●色々なインテグリティ教育(60代、男性、自営業)
- ●レギュラーとそうでない生徒間の問題なども難 しい面もある(60代、女性、パート職)

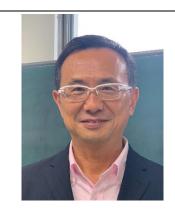
# 資料編

- 1 地域スポーツ推進団体連絡会議 委員から
- 2 公認スポーツ指導者への意識調査 自由記述全文
- 3 参考資料一覧

# 1 地域スポーツ推進団体連絡会議 委員から

# ▮ 森田 啓之 委員長

今回の様々な調査データから感じることは、中学校部活動改革に向けては「一斉に地域移行はできないので、できるところから少しずつ」というアプローチは間違っていないと思われるが、それを進めていく上ではまず、「市町としてのゴール・方向性を明示しておく」必要があると痛感した。すなわち、部活動をどうするかだけの議論になると対処療法的な策しか出てこない。そうではなく、その地域全体(この括りについてはいくつかのサイズがあると思われる)としてのスポーツ推進をどうするかというスタンスでの議論が不可欠であろう。したがって、学校関係者だけでなく、可能な限り地域住民を巻き込んだ検討が必要と考えた。



# ▮ 伊藤 克広 委員

本会議を通じて兵庫県内ならびに他地域での運動部活動と地域スポーツクラブとの連携状況が明瞭になったと感じる。中でも、この連携にはヒトが重要であることが示されたといえる。鯖江市の取り組みから分かるように、事業の趣旨をいかに関係者が共有し、理解するかが key であろう。教員側には「部活動は生徒指導の一環」との意識もあり、運動部活動をスポーツとして捉えるのか、それとも教育として捉えるのか、といった共通認識の構築も求められるであろう。



#### ▮ 小坂 美保 委員

会議や県外における中学校運動部活動と総合型クラブの連携に関する連携事例調査、兵庫県内の連携等に関する取り組み状況・有資格スポーツ指導者への意識調査が実施され、今後の中学生のスポーツ機会の充実を考えるうえでのエビデンスが得られたことは重要である。事例調査や取り組み状況・意識調査は、学校部活動と総合型クラブが連携していくうえで、それぞれの現状について情報共有することの大切さ、学校と地域をつなぐコーディネーター役になる組織(団体)が必要だと感じた。教員の働き方改革だけでなく、学校万能主義の限界を知り、子どもたちの豊かなスポーツライフをどのように描いていくのか、それぞれの総合型クラブの特徴を生かしながら、中学生や地域の人々にとって持続可能な魅力あるクラブとなることも課題といえる。



# ▮ 谷 めぐみ 委員

休日の中学校の運動部活動をどのように地域でささえていくかについては様々な事例を参考にしながら議論することができた。しかしながら、実際に部活動に取り組んでいる生徒や保護者のニーズ、ならびに中学校の教員の見解等までは捉えることができず、より踏み込んだ議論にはならなかったように感じる。県内でも合同チームで試合出場するケースや希望種目がない中学校もみられることから、総合型地域スポーツクラブが今後の受け皿の一つとなりうることが推察される。クラブのマネジメント方法の見直しや指導者の調整など課題はあるが、生徒にとって望ましいスポーツ環境を提供できるよう今後も協議を続けていく必要性を感じた。



# ┃ 中田 進 委員

中学校クラブ活動の受け皿が総合型スポーツクラブになる上で第一に行わなければならないのは、当該地区の中学校がどのような依頼、要望を持っているのか十分な話し合いをする場が持てるかである。それぞれの地域、中学校で事情が異なり、統一化された方向性を決めて活用するのは困難である。

もう一点、各中学校の校長並びに担当教員のこの課題に対する認識 度、必要性が伝わってこない。この点に関しても中学校内での協議を しっかりとしていただき方向性を決めて頂きたい。具体的にはこの欄 で書き終えない課題が山積している。



#### ■ 福田 幸夫 委員

中学校運動部活動の地域移行に関しては、第1.生徒のスポーツ活動機会の保障を前提にした取組、第2.中学校及び保護者・地域(スポーツクラブ)の理解と柔軟な考え方、第3.指導者の発掘と育成及び財源、第4.実践しながら地域の実情に合わせて改善していく姿勢(関係団体全て)などが大切だと考えます。



# ■藤原 亨 委員

中学校の部活動について、部分的にでも総合型地域スポーツクラブで担うことができれば良いのではないかと考えます。指導者の数、謝金、学校との連携方法、事故の対応など課題はたくさんあります。受け皿となるクラブとしては、学校との連携を考えることができるサークルの育成を進め、中長期的にどちらの側からもよかったといえるものに育てるクラブ運営と単一のスポーツクラブだけでなく、中学校区で連携した活動の必要性について認識することができました。



# ▮ 井原 一久 委員

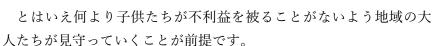
この度本委員会の委員を仰せつかって、改めて他県の成功事例など を通じ、現在の兵庫県において、指導者の確保と学校側の部活動を学 校教育と切り離すことへの理解を深めることが大切であることが良 く理解できた。

兵庫県としては、700 を超えるスポーツクラブ 21 ひょうごを設置したものを、いかに生かして、活性化し、こうした受け皿化していくかを考える必要がある。これには学校、クラブがいかに意識改革を図っていけるかがカギである。



#### ■田中 麻美 委員

会議等を通して感じたことは、何よりも先ず行政が主体となってマネジメント・コーディネイトは誰が(どこが)するのか、しっかりとしたビジョン、基本理念を決め、計画・方針を示したうえで各団体に落とし込み、それをもって初めて各団体が連携し活動できるのではないかと感じました。総合型地域 SC に中学校部活動を移行するにあたっては、その SC 自体の運営が充実していないと難しいように思いました。関係者やボランティアの熱い思いに頼るだけでなく、市町行政の予算計上、一定の受益者負担などの財源の確保などヒト・モノ・カネに関する課題を市町行政で整理したうえでスタートすべきではないかと思います。



この度はご縁あってこの会議メンバーとしてヒアリング等にも参加させていただき、大変貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



# Ⅰ 村崎 和幸 委員

部活動は学校の教師がやるべきもの。部活動は学校から切り離すものではない。部活動は教育効果が非常に高く、やりがいのあるもの。しかし、ここ数年、教師の意識にも変化が見え始めている。生徒の多様なニーズへの対応や教員の働き方改革の推進のうねり、大きな改革の潮流を感じる。この改革は、校長としての覚悟、ビジョンを持ち、市町教育委員会の考え、行政の後ろ盾やサポート体制も必要です。今後、部活動改革を進めるにあたり、生き生きと活動する生徒たちの姿を思い描き、地域と学校と行政で何からできるのかしっかりと考えていきたい。



# ■ 西野 直樹 委員

播磨町では、平成 12 年度に体育協会や既存のスポーツ団体などすべてを会員として登録した総合型地域スポーツクラブを設立しました。平成 16 年に NPO (特定非営利活動) 法人の資格を取得し、町内にある学校体育施設を含めたすべての体育施設を指定管理者として管理運営するに至っています。

現在、中学校における部活動指導員配置や休日の運動部活動の段階 的な地域移行の調査研究に取り組んでいます。

今後は、「地域とともにある学校」への転換を図るとともに、部活動 の枠を越え、総合型地域スポーツクラブと連携協力することで、生涯 スポーツ社会の実現を目指していきたいと考えています。



#### ■田中 正晴 委員

本会議を通じて、様々な分野から、中学生のスポーツ活動の充実に向けての意見を聞く貴重な機会となりました。

これまで中学生のスポーツ機会の中心となっていた部活動では、少子化による生徒・教員の減少に伴い、種目の減少や教員による指導が困難になりつつあります。令和4年3月に策定される第2期兵庫県スポーツ推進計画においては、運動部活動の充実に向け、科学的トレーニングやの導入やコンプライアンス徹底についても盛り込むこととし、今後も地域のスポーツ環境の充実に取り組んでいきたいと思います。



# Ⅰ 土井 一弥 委員

本事業において、中学校部活動の地域移行を先進的に取り組んでいるスポーツクラブの歴史をはじめ、活動内容、課題等を聞き取ることができとても参考になった。

また、本県の公認スポーツ指導者へのアンケート調査の結果等を踏ま え、本県における外部指導者の状況などについて協議することができ たことは、とてもいい機会となった。

広い県土を有している兵庫県は、摂津・播磨・但馬・丹波・淡路という歴史も風土も異なる個性豊かな五国からできていることから、各地域の中学校部活動や地域で行われているスポーツ環境の活動状況や課題が異なっている。

この度の会議の意見交換した内容に加え、令和3年度に、本県2市町で実施している拠点校の検証結果をもとに、令和5年度には、市町教育委員会が主となり、地域の特性に応じた地域移行について、できるところから進められるよう、県としても取り組んでいきたい。



# ▮ 廣瀬 雅樹 委員

学校における部活動を学校以外の受け皿を作って移行していこうとする方向性は理解できる。しかしながら地域スポーツクラブがその受け皿となるためには、財源及び指導者確保といった根本的な課題をはじめ、その他にも多くの課題が山積している。法的な整備を含めて基盤となる制度設計や施設の確保、そして、何より大切な生徒や保護者、学校(教員)の理解を深めることから始める必要があるように思う。



# 2 公認スポーツ指導者への意識調査 自由記述全文

- (1)「休日の中学校部活動の段階的な地域移行」を支持するか否かに関する理由
- ①「支持する」と回答した群

#### < 教員の負担軽減 > n = 86

- 教員の負担を減らし、地域の専門家やコミュニティを活用するほうがメリットが大きいと 思います(30代、男性、会社員)
- 学校教師の負担が大きすぎる(40代、男性、会社員)
- 先生の負荷軽減(50代、男性、会社員)
- 教員の負担減につながる(40代、男性、高校教員)
- 学校教員が部活で忙殺される現状は改善されるべきである(40代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 教員の仕事が多すぎる(50代、男性、会社員)
- 教師の負担を減らせる(70代、男性、無職)
- 教育者が教育に専念できるため(60代、男性、無職)
- 中学校教員の部活動に関する負担を軽減するため(40代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 先生方の負担が減る(60代、男性、会社員)
- 教職員の負担が軽減するため(50代、男性、公務員)
- 教師の業務作業量と業務時間内では、部活動まで管理することはオーバーワークとなっている(60代、男性、自営業)
- 教師の負荷が高い(40代、男性、会社員)
- 教職員の働き改革(60代、男性、公務員)
- 中学校教員の負担が大きく、従来のような勝つための部活動ができないため(20 代、男性、中学校教員)
- 教職員の負担が大きいから(40代、男性、会社員)
- 教員への負担を軽減できたらと考えます(60代、男性、会社員)
- 昨今の教員に対する負担の軽減と専門性が求められる部活動の両立は困難であると思われる(50代、男性、会社員)
- 教員が顧問をすることの限界(40代、男性、高校教員)
- 教員の負担軽減(50代、男性、会社員)
- 先生への負担が大きすぎるため、負担の軽減にもつながる(30代、女性、会社員)
- 先生の負担が減る(20代、女性、会社員)
- 中学校教諭の負担軽減 (60代、男性、自営業)
- 教師の負担が多い(60代、女性、その他)
- 顧問の先生のスケジュールを聞くと、とても大変だと感じたため(50代、男性、会社員)
- 教職員の先生方では、労働時間的にも無理があると思われます(60代、男性、その他)
- 中学部活顧問の先生の負担軽減(50代、男性、会社員)
- 教員の負担軽減(40代、男性、自営業)
- 働き方改革の一環(50代、男性、公務員)
- 公立学校教員が指導することに限界がきている(60代、男性、小学校教員)
- 教員の負担を減らすことが可能(50代、男性、公務員)
- 教師の負担軽減(50代、男性、公務員)
- 教員の負荷低減(50代、男性、会社員)
- 教師の負担軽減(60代、男性、会社員)
- 教員の負担が大きすぎる(70代、男性、パート職)
- 学校の先生だけでは限界を感じます(50代、男性、会社員)
- 教員のクラブ指導の負担感(50代、男性、会社員)
- 現在の教員の多忙さは尋常ではない(60代、男性、会社員)
- 先生の負担軽減(40代、男性、会社員)
- 教員たちは多忙なので(50代、女性、中学校教員)
- 免生達の仕事が増え過ぎることがないようにお手伝いする事も必要だと思う(60代、女

#### 性、会社員)

- 学校の先生が激務だから(40代、男性、会社員)
- 公務員免許の延長時間であり、異常な残業時間で過酷である(50代、男性、会社員)
- 教師への負担軽減につながる (50代、男性、自営業)
- 学校の先生の負担が大きいと思うから(20代、女性、パート職)
- 教職員の労働環境の改善に必須だと考える(40代、男性、高校教員)
- 教師の働き方改革(50代、男性、会社員)
- 教師の方の負担が増え過ぎているように感じられる(50代、男性、自営業)
- 現在の部活動は、先生に負荷がかかり過ぎている(80代、男性、無職)
- 学校の先生の事務作業の負担が問題になっており、少しでも軽減されれば良い(50代、 女性、会社員)
- 教員が多忙なので(60代、男性、高校教員)
- 教員の働き方改革(40代、男性、小学校教員)
- 教員の負担を減らすため(50代、女性、パート職)
- 教員の労務改善(50代、男性、会社員)
- 現場の教師の負担軽減(60代、男性、無職)
- 教員の方々の大きな負担になっている(40代、男性、会社員)
- 中学校教員の負担が軽減できる(50代、男性、その他)
- 教師の負担軽減(50代、男性、自営業)
- 教師の負担軽減(50代、男性、会社員)
- 教員の働き方改革のために必要(50代、男性、公務員)
- 教員の方々の超過勤務の緩和(40代、男性、会社員)
- 部活動を学校が指導する場合、教員へかなりの負担になる(60代、男性、小学校教員)
- 教員の負担軽減のために必要(50代、男性、高校教員)
- 顧問の負担軽減(50代、男性、その他)
- 学校現場の負担軽減 (30代、男性、自営業)
- 働き方改革(40代、男性、会社員)
- 学校の先生が大変なので少しでも楽になるなら(30代、男性、会社員)
- 中学校教員の負担軽減のため(60代、男性、パート職)
- 教員の負担軽減(50代、男性、公務員)
- 学校教員の負担が重過ぎるから(50代、女性、大学・高専・専門学校教員)
- 先生方の負担軽減(40代、女性、パート職)
- 教員の多忙(60代、男性、中学校教員)
- 教員の負荷が大きい(60代、男性、無職)
- 教育現場の熱意だけにすがるのには、限界があると強く感じるため(50 代、男性、会社員)
- 部活動が教師の負担になっている(50代、男性、公務員)
- ▶ 中学校教員では限りがあるのではなかいかと思います(40代、女性、その他)
- 課外活動としての部活動を勤務時間外の教師が指導するには、働き方改革の真逆をしており、限界がある(40代、男性、高校教員)
- 学業関連で忙しい教員や専門外の教員による部活動での指導では、不足ぎみとも感じている(50代、男性、会社員)
- 教員の勤務時間の長時間や休日の出勤を考えると、家庭生活に影響を与える現行の制度では無理があると思う(60代、男性、無職)
- 家族がいるので、自分に何かあったときに迷惑をかけないため(40代、男性、会社員)
- 免生が多忙および専門的で指導するのが困難なので、専門的な指導者が支援するべきである(60代、男性、無職)
- 教諭が全てのスポーツを指導するのは不可能であるから(60代、男性、公務員)
- 中学校教師の部活動の負担を考えたら、指導者資格を持った方のボランティア(有償/無償は問わない)に移行するのが理想かなと思う(50代、男性、会社員)
- その競技が専門ではない教員が主顧問となり、更には監督をせざるを得なくなったり、大

会に於いては審判までせざるを得ないともなると、物凄い負担となるから(40代、男性、 パート職)

- 教員は授業に集中していただくほうが学校運営が回るため(40代、男性、公務員)
- 単独学校では部活動の維持が困難で、教師の働き方改革も急務だと考えるため、地域に移行していく必要があると考えます(50代、男性、会社員)

#### <専門技術の習得> n=66

- 真剣に部活動をしたいという生徒に対し、その競技経験がない教員では、基本的な指導は できても技術的な指導は困難であると感じている(40代、男性、会社員)
- 今の部活動は知識のない先生が指導している所が多く、学校によって差が生まれるので (40代、女性、パート職)
- 生徒により質の高い指導を受ける機会をつくるため(40代、男性、会社員)
- 専門知識のない教員、やりたくないのに無理矢理させられている教員が子供たちにとって 良い指導が出来るわけがない(40代、男性、会社員)
- 知識や経験の薄い教員などが指導を行い、競技技術の意欲のある子どもたちのモチベーション低下を引き起こしている(40代、男性、会社員)
- 競技能力育成はできると思う(60代、男性、パート職)
- 専門的な知識、技能などが必要で、それなりの技能を習得した指導者が必要です(60代、 男性、公務員)
- 知識、経験のない教諭が教えるのには無理があり危険である(80代、男性、無職)
- 競技によるかと思いますが、競技の特性を理解しかつ適切な指導を出来る方が各中学校内 に必ずしも居らっしゃるとは思えません(50代、男性、会社員)
- 専門外の教師が指導するよりある程度知識がある指導者が指導するほうが良いと思う(40 代、男性、会社員)
- 未経験者や段位のない教師が顧問となっていたり、指導できる教師がいない(50 代、男性、公務員)
- 顧問はスポーツの指導者であるとは必ずしも言えず、またそれを望むべきでもないと思うから(20代、男性、会社員)
- 専門知識や技術、経験を持つ専門家(インストラクターやトレーナー)が行うことで、地域の学生の競技力向上と多面的な人格の形成に繋がると思うため(30代、男性、その他)
- 中学校の練習だけでは、スポーツを楽しめるレベルまで実力を備えるには時間がかかりすぎる(40代、男性、会社員)
- 指導の質向上(60代、男性、会社員)
- 対象スポーツに対する専門的な教師の不足状況を実感するため(50代、男性、会社員)
- 専門的な知識を持った公認指導者や保健体育の教員免許所持者が指導した方が、安全性や 技術の向上につながると思う(50代、男性、自営業)
- 専門性を持った指導者に教えてほしい(30代、女性、会社員)
- 専門性がないまま、根性論的な指導も存在しているため(40代、男性、自営業)
- 種目の専門知識を持った教師が少ない(60代、男性、パート職)
- 専門知識、経験を持った指導者が教える(70代、男性、無職)
- 経験のない教師から指導を受ける事が指導者本人も大変だし、子供達もかわいそう(40代、 男性、会社員)
- 各競技を専門的に指導出来る教員が減っているから(40代、男性、会社員)
- 学校教育のなかでは制限が多く、競技力向上の妨げとなっているから(50代、男性、高校 数員)
- 子供たちもしくは学生たちが、いろんな方から指導を受けることができるから(50代、 男性、自営業)
- 競技の特殊性により、一般教員による指導が困難であるため(60代、男性、無職)
- 専門的な指導者が足りない(50代、男性、公務員)
- 専門知識がないのに指導はできないと思いますし、間違ったことを教える危険があるから (40代、男性、会社員)

- 外部指導員の経験がいる(60代、男性、パート職)
- 教師が実際にやったことのあるスポーツでなければ、理解しにくいと考えられます(30代、女性、無職)
- 教師が全くの素人の場合がある(70代、女性、専業主婦(夫))
- 専門的な指導もあれば、モチベーションも上がると思います(50代、女性、自営業)
- 日本国内のスポーツレベルを向上させるため(30代、男性、会社員)
- クラブ活動の専門スポーツの指導者不足(60代、男性、自営業)
- 教師の専門性をカバーできそう(60代、男性、会社員)
- 先生の忙しさなどで、練習の有無が左右する(40代、女性、会社員)
- より専門的に指導可能(70代、男性、無職)
- 資格を持ったより専門的な指導者が指導すべきと考えます(50代、男性、会社員)
- 専門外の教員による指導には限界があり、指導する側もされる側も満足できない(50代、 男性、高校教員)
- 学校の先生が未経験の場合などで指導しているケースが多いと思うから(50代、男性、 会社員)
- 学校の先生の指導のレベルが低い(40代、男性、自営業)
- 学校以外の外部の人と接触することで、生徒の意識が変わってくると思われる(60代、 男性、無職)
- 学校内における専門指導者の不足(60代、男性、高校教員)
- 教員併用での掛け持ちは、専門的サポートに限界があります(50代、男性、会社員)
- 先生では無理な競技もある(60代、男性、会社員)
- 専門の指導者の指導を受けることが出来る(60代、男性、パート職)
- 競技の専門知識のない先生方が顧問をされていて、指導者も学生も大変だから(40代、 女性、会社員)
- 指導できる資格を持つものが、しかるべき報酬を得て、指導の成果の責任を負うことが妥当(40代、男性、高校教員)
- 指導は、早期から行うのが理想です(70代、男性、自営業)
- 形だけの指導者だと、子供達に有益ではないから(60代、男性、自営業)
- 少しでもその競技への知識のある人が携わった方がよいと考える(60代、女性、学生)
- 子どもたちに質の高い指導が出来ると思うから(30代、男性、その他)
- 競技人口を増やすためにも、学生からプロレベルの指導者を増やすべきだと考えます(30代、その他、パート職)
- 子供たちに専門的な指導者からの指導を受けてもらいたい (30代、男性、会社員)
- 中学校の教員はスポーツ種目の経験に関係なく顧問になっている(60代、男性、無職)
- 指導経験のない先生が、部活動の顧問として仕方なく従事しているケースがある(60代、 男性、公務員)
- 少子化、個別指導の需要拡大に伴い、それぞれのスポーツを指導するプロの指導者が必要とされる (40代、男性、自営業)
- 教師の意識レベルが低下していると思うので(40代、男性、自営業)
- 地域のよき指導者により、中学生の競技力や人間性の向上を図りたい(50代、男性、小学校教員)
- 空手道の普及、振興の為になる(50代、男性、公務員)
- 教員よりも一般人に指導を任す方が熱心な指導ができる(50代、男性、会社員)
- 現在の体操競技の指導は、学校体育では施設・指導者や時間制限など対応できてない(70代、男性、自営業)
- 空手道は指導出来る者の知識がないと指導出来ない武道であるため(50 代、男性、公務 員)
- 割り当て部活ではなく、専門知識がある指導者が指導すべきです(40代、男性、会社員)
- 競技に対する専門的な知識、知見を持ったものが指導することが生徒の成長や競技力向上 に有効と考えるため(60代、男性、無職)
- 前向きでない部活動顧問のもとでの練習は、真剣に取り組みたいと思っている子供達がか

わいそうだと思うから(50代、男性、会社員)

● 子供達の成長には必要であると思われる(40代、男性、その他)

#### <生徒の選択肢増加> n=16

- 生徒の選択肢が増えるから(40代、男性、その他)
- 中学校でのクラブ活動(バドミントン)非常に少ない(60代、男性、自営業)
- 中学校での部活動がほぼ無いため(40代、男性、会社員)
- 好きな競技が出来ない子供達がいます(50代、男性、自営業)
- 既に昨年から中学校のバレー部が廃部となったが、学校と連携し指導を始めている(50代、 男性、会社員)
- 学校に無い(廃部も含む)競技が増えてきている(60代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- やりたい選手がやれる環境が大事(40代、男性、公務員)
- 生徒が指導者を選べる(60代、男性、自営業)
- 部活動は、学校により対象競技が偏っているため (40代、男性、会社員)
- 部活では種目が限られる(70代、男性、自営業)
- スポーツを幅広く受け入れられる(40代、男性、公務員)
- 子どもの活動機会が増えるため(40代、男性、会社員)
- 地域全体でスポーツに関わることで、やりたい種目に取り組める生徒が増えると思う(40代、女性、中学校教員)
- 生徒は自身の好むスポーツを、より質の高い指導を受けレベルアップを目指し、スポーツ を好きになってほしい(50代、男性、公務員)
- 中学校の部活動が無いため(30代、男性、会社員)
- 特に水泳競技については中学校で部としての活動が無いため(40代、男性、会社員)

## <指導者不足> n=7

- 学校の教員では対応できないように思う(50代、男性、会社員)
- 教員の指導者不足(60代、男性、中学校教員)
- 教員だけでは指導時間が不足すると思うから(50代、女性、会社員)
- 指導者不足(60代、男性、会社員)
- 教員のみでは指導者不足となっているため(60代、男性、公務員)
- 教員の指導者不足、指導経験と知識不足(60代、男性、高校教員)
- 中学校教員では指導が難しい(50代、男性、会社員)

#### < 少子化 > n = 6

- 少人数クラブでは活動範囲が限られる(60代、男性、無職)
- 少子化による部活動の減少(60代、男性、自営業)
- 少子化が進む現在、一校ごとにチームを抱えるのも難しい現状がある(30代、男性、高校教員)
- 少子化により、学校に部活がないため活動出来ない(60代、男性、無職)
- 自身が通う学校に希望する部活動がない、また生徒数また顧問の問題により部活数を減ら す動きがあるので(50代、男性、自営業)
- 中学単位に縛られていたら、チームプレーなどはクラブ員が不足でどんどんチームがなくなっていく(60代、女性、会社員)

#### <地域> n=6

- やはり地域密着型がいいと思います(60代、男性、無職)
- 地域の小学校で体育授業、部活動で綱引を取り入れられないか、教育委員会と話をしていた(60代、男性、パート職)
- 学校の部活と地域のスポーツチームが交流する機会ができ、双方の活性化に繋がると思います(50代、男性、会社員)

- 地域の指導者が積極的に学校部活動に協力しないと、生徒の希望する競技自体の部活動が 維持できなくなっている(50代、男性、公務員)
- 地域移行にすれば、幅広い学区の子供をスポーツに参加させることが出来、地域社会に貢献できると考える(60代、男性、会社員)
- アイスホッケー等のマイナースポーツは、各学校の単独で行うのではなく、学校の隔たりなく地域でチームを作ったほうが人が集まりやすい(30代、男性、会社員)

#### <その他> n=21

- 学校教育でやるには限界がきてるから(30代、女性、高校教員)
- スポーツは教育の一環でなく、生涯スポーツとして地域のスポーツクラブを中心に活動する方が長くそのスポーツに関わることになり、現役を引退しても次は指導者として関わるようになる(50代、男性、公務員)
- 自分が指導したい部活動の顧問ができず、したくない部活動の顧問をしている人もいる (50代、男性、中学校教員)
- 部活は別の人が見てあげるべきだと思う (60代、男性、会社員)
- 以前から外部指導員に興味があり、将来携わりたいという思いがあるから(40代、男性、 会社員)
- 先生次第でほったらかしになるため(40代、男性、会社員)
- 部活動と学校を切り離す時期がきていると思う(30代、男性、会社員)
- 中学校の部活動離れが増えている(50代、男性、公務員)
- 時代の要請を無視することは難しいと思われるため(60代、男性、公務員)
- 学校は、部活動以外で教育する立場と考えています (60代、男性、中学校教員)
- 「持続可能性」という点では、現在のような学校教員だけで行うことは限界に来ているから(50代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- ニーズに対応するため(40代、女性、高校教員)
- ◆ 外部委託が時代の流れだと思う(50代、男性、自営業)
- いずれ中体連と競技団体のジュニアカテゴリーが共催する形のコンペティションスポーツが発展していくことが望ましいと思うから(40代、女性、大学・高専・専門学校教員)
- 効率が良いと思う(60代、男性、公務員)
- 部活動時間が少なすぎて、部活離れがひどい(40代、男性、会社員)
- 教員も地域の一員として活動し、相応の報酬を得るべき(50代、男性、小学校教員)
- 学校単位の大会があるが、国が年齢単位の大会を協力する必要がある(70 代、男性、無職)
- 全てにおいて価値が見いだせる(50代、男性、無職)
- 平日の部活の時間の短縮もされているので、休日はよりそれぞれにあった方法で過ごせる のが良いと思いました(40代、女性、自営業)
- 今や学校内だけの指導体制ではやりくりができない(60代、男性、無職)

# ②「どちらともいえない」と回答した群

#### <制度・体制・システム> n=62

- 指導者を選ぶ事が出来ない選手は如何なものか(60代、男性、無職)
- 平日は学校の顧問が担当するので連絡調整が大変(50代、男性、高校教員)
- 教師の働き方改革にはなるのでしょうが、指導法の違いによる顧問、選手達の戸惑いが生じないか(60代、男性、無職)
- 平日と土日の分けた考え方だと、問題点が多すぎるからです(40代、男性、中学校教員)
- 教師側が置かれている環境を部活がしやすいものに整備するのがいいと思うが、それができなければ、学習塾タイプの中学校にして、生徒指導も省いて、学習指導のみに特化するしかないと思う(60代、男性、高校教員)
- 指導は良いが、運営面までは不明(70代、男性、無職)
- 慢性的な指導者不足になり、結局教員がボランティアで地域に出て指導する羽目になった 途端、競技人口が減ると思われる(40代、男性、高校教員)
- 地域指導者と学校教員とのつながりが、稀薄であるため(60代、男性、高校教員)
- ◆ やる気のない生徒の指導には、教師の関与が必要になるが、向上心の強い生徒には、競技 経験の無い教師よりも地域のスポーツ指導員の方が競技力向上には資する(60代、男性、 自営業)
- 生徒が納得して行えば良いが、納得しない生徒も出てくるはず(50代、男性、会社員)
- 学校の運動部に教師以外の人間が介入して、問題が起こる事も無きにしもあらず (40 代、 女性、会社員)
- 理想的には、地域のクラブ活動にすべきだろう(70代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 平日に教員が移動している内容と、休日に公認コーチ等が指導する内容に違いがあると、 生徒が戸惑ってしまうと思う(50代、男性、会社員)
- 指導者、競技施設の確保、地域性の問題がある(60代、男性、その他)
- 専門性が高まった反面、多くの部活動で体罰が横行していた事実があり、地域移行するには指導者の資質を見極めるなんらかの措置が必要かと考えます(50代、男性、中学校教員)
- 教師の見かけの残業は減るが、新たな問題も必ず出てきてどうなるか(40代、男性、会社員)
- 指導者資格の保有者でない者が、学内の指導者になることは難しい(50代、男性、大学・ 高専・専門学校教員)
- 教師の負担を減らすという方向的には賛成だが、失敗すると生徒の活動する場を奪うこと になるので(40代、男性、自営業)
- この物騒な世の中で子供たちに危害を加える人間が多い現状において、移行にあたっての 議論が出尽くし、これで大丈夫という環境ができたのか疑問である(60代、男性、会社 員)
- 自由に動ける指導者がいるかどうか(40代、男性、中学校教員)
- 中学校の部活レベルでの指導において、ある程度毎日の指導が必要と考えます(40代、 男性、会社員)
- 地域への移行は理解できるが、自分自身は顧問の先生にみっちり指導していただいてよかったと思っている(50代、男性、会社員)
- 平日教員指導、休日地域指導者は主役の子ども達が戸惑い、信頼感が確立されるか心配です(50代、男性、会社員)
- 部活動の目的を共有できる状態で移行できるのであれば支持する (40 代、男性、自営業)
- 中学校での指導者がいない場合も考えられるので、その場合は地域へ移行することもありだと思う(50代、男性、高校教員)
- 顧問の先生と指導者の熱の入り方に差があると、互いに意見が合わないことになる(40代、 男性、会社員)
- 少子化や教員の多忙化という現状のまま、部活動が健全に存続していけるのか、不安もあ

- る(50代、女性、中学校教員)
- やる気のある者への対象であればやっても良い(60代、男性、会社員)
- 地域への移行により、時間の余裕が生まれるのは嬉しいと感じるが、一貫した指導がしづらくなる可能性があることが不安だから(30代、男性、中学校教員)
- 運動に興味のある子とない子で差が出てしまう(60代、男性、自営業)
- 地域に移行するという事は、別々の中学校の生徒が同じ部活動をするという事態にもならないか(50代、男性、会社員)
- 充分な指導力を持っている指導者を、必要な人数割り当てられると思わない(40 代、男性、高校教員)
- しっかりとした制度が確立されていない(60代、男性、自営業)
- 指導者やサポート体制が整っていれば理想的だと感じているが、まだまだ地域スポーツクラブにサポートできる環境が整っていないと感じているため(30代、男性、自営業)
- 技術を知らない顧問が指導するよりは、技術の向上が見込めるが、通常勤務をしながら携わる事が厳しい(40代、男性、公務員)
- 種目によっては、施設や指導者がいないのではないかという危惧がある(40代、男性、高校教員)
- 外部指導者の指導力のレベルによって、各中学校に不平等な状況が生まれる恐れがあるため、移行する前提条件として、一定のレベルの人材の確保が必要不可欠になると思います(50代、男性、自営業)
- 運動種目によって、部活動か地域かを決めることが望ましいと思います(50代、男性、その他)
- 思春期のメンタル面のサポート(50代、男性、会社員)
- 部活動のそれぞれの競技特性に差があるため、メリットもデメリットにも格差が有ると思うので、ひとくくりに出来ない(50代、男性、会社員)
- 学校教育活動からの脱皮が地域や種目によって格差が生まれると考えられるから(50代、 男性、高校教員)
- 学生が困らない形で本当に移行していけるのか(30代、男性、その他)
- 責任の所在、指導活動範囲、等の連携をどのように行うかが不明であり、地域スポーツも 無償指導が多いと考えるため(50代、男性、自営業)
- レベルのミスマッチや、向かう目標のズレが懸念されるから(60代、女性、その他)
- より良い運営のために、細かなルール作りや体制作りが必要で、一概にメリットが大きいとも考えられないこともあるから(20代、女性、中学校教員)
- 競技のすそ野の広がりというメリットの半面、施設の確保、備品の管理という点に於いて 不安もある(40代、男性、自営業)
- 各々の都合を考えると簡単に支持出来ない(50代、男性、会社員)
- 過熱しすぎたとき、学業より優先したりはしないかと心配(60代、男性、無職)
- クラブ活動の位置づけとするならば、学校要員として指導者を配すべきと考える(70代、 男性、無職)
- 民間指導者の意向によって結果重視であったり、指導者の好き嫌いでの差別など、問題がある可能性を排除できないため(50代、男性、会社員)
- 地域へ移行する事もいいと思いますし、学校で出来る教員が居れば一緒に出来るとベストだと思うので(50代、女性、公務員)
- 地域の負担が増える(70代、男性、会社員)
- 地域や学校によって求めるものが異なるから(40 代、男性、公務員)
- 休日だけで多感な子供たちと信頼関係が築けるのかが心配です(40代、女性、その他)
- 学校での指導も、地域での指導も無償か無償に近い状態であり、補償の点からいうと学校 指導の方が安心である(60代、男性、高校教員)
- 平日と休日で指導理念が違ってしまって生徒が困らないよう、地域の指導員の方との共通 理解をはかることにとても労力を要するため(50代、女性、中学校教員)
- 免生方の負担軽減や競技指導が難しい場合に地域移行は必要だと思うが、指導者の確保は 難しいと考えてます(40代、男性、会社員)

- 地域の方に指導された小学生が中学生でも引き続き指導を受けることは社会教育的に好ましい反面、教育的専門知識の少ない地域住民が携わる所に葛藤が生じており、賛否がつけられない(70代、男性、その他)
- 弓道は中学生の指導もあるが、身体成長期での弓道は性質上、あまり好ましいとは思っていない(70代、男性、無職)
- 生徒と指導者が正面から接し、クラブ指導が生徒の人格形成に役立てられてきたが、教師 の多忙性からすると総合型に移行すべきかなとも考える(70代、男性、高校教員)
- 基本的には地域への移行は支持するが、それによって中学校の部活動としての上位大会が なくなることが懸念される(40代、女性、中学校教員)
- 完全に移行してしまうと、全中等の大会が無くなってしまう(20代、男性、会社員)

#### <教育としての価値> n = 48

- 趣旨は理解できるが、まだまだ部活動=学校という認識がある(50代、男性、公務員)
- 教員と共にクラブ活動するのが本意のはず(60代、男性、パート職)
- 教員は「教育者」で生徒の心身の事も含めた指導をされるが、地域の指導者は「競技スポーツ指導者」なので、勝つこと・強くなることが目的になりがちであり、学校の部活の目的に合うのかはわからない(60代、女性、その他)
- 中学校での部活動指導の中で教員との関係作りができている側面もあると考えるから(20代、男性、高校教員)
- 学校や部活動の方針と合わない可能性があるから(40代、女性、専業主婦(夫))
- 部活動は教員と生徒と保護者の繋がりがさらに深まる場であるが、外部の指導者が指導に あたると教員と生徒との関わる機会が減り、信頼関係などの繋がりが浅くなることも考え られる(40代、女性、中学校教員)
- 部活動の意義は単に競技力だけではないと考えるため、他の教育活動と全く切り離して考えるのに躊躇しています(60代、男性、高校教員)
- ブラック部活動という言葉に形容されるように、学校教員の働き方改革の方針については 賛成であるが、部活動指導が果たしてきた教育的な役割を鑑みると、地域への移行とする ことについては支持しかねる(30代、男性、会社員)
- 学生のスポーツを通じた人間形成を考えた場合、競技の専門知識を知っている者と、学生の特性や学校での生活実態を把握している教員のどちらが相応しいか判断致しかねる(40代、男性、公務員)
- 教育的な指導をどこまでするのかなど、競技の指導だけではすまないと思うので(50代、 男性、会社員)
- 逆になぜ部活をなくすのでしょうか(40代、男性、会社員)
- 学校教育の一環としての部活動は、日本の文化形成に大きく貢献してきた(50代、男性、 高校教員)
- 部活動は学校教育の一貫だと思うが、先生方の負担を考えると(60代、男性、会社員)
- 学校生活の一環として指導しているので、競技の指導だけではない(50代、男性、中学校教員)
- 教員の負担軽減には成るが、中学生らしい学校生活の一部として(部活)も活動して欲しい と思うから(50代、女性、会社員)
- 教員の中には部活が生きがいになっている先生もおられるし、教育と部活は連続的なものと考えられるので(60代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 学校は人格形成の場であり、勉強だけでなく、部活動の果たす役割も大きいものと考えている(60代、男性、その他)
- 中学校部活動は、教育の一環として教員が対応している長い歴史がある(70代、男性、無職)
- 本来部活動は学校での共同生活の一部であり、文武両道で先生と共に奮闘し、良くも悪く も最後は先生と共に讃えあってやりと押すのが本来の姿だと思うから(50代、男性、会 社員)
- 学校教育と地域クラブでの指導教育の概念が違うと思う(70代、男性、会社員)

- 中学校、高校などの部活は教育の一貫のため、生徒指導との絡みを考えると難しいのではないかと考える(40代、女性、中学校教員)
- 免生が指導する事も教育だと思うし、コミュニケーションの一貫なのにそれを放棄しているように感じる(30代、男性、会社員)
- 学校との関連は非常に重要 (50代、男性、会社員)
- 部活動は学校教育の一貫と考えているが、先生方の負担等を考えると、地域への移行も考えないといけない時期に来ているのかもしれない(60代、男性、会社員)
- 教員の負担軽減が進む可能性が高いが、クラブ指導を通して教員の資質が向上する機会が 失われる(50代、男性、高校教員)
- 先生との繋がりが無くなる(50代、男性、会社員)
- 先生と生徒の繋がりも大切と考えるので(60代、男性、その他)
- 中学教員が教えることで、学校生活とリンクして技術以外でも指導ができる(40代、女性、高校教員)
- あくまでも校内活動の一つと思うので、外部からの指導が入りすぎるのはどうかと考える (40代、男性、自営業)
- 中学・高校に関しては、原則学校教師が指導・育成すべきである(80代、男性、無職)
- 支持するが、今は環境が整っていないので、学校での部活が望ましいかと思います(50代、 男性、会社員)
- 中学生レベルだと、指導者との感情、異性としての問題等もあり難しいと思います(70代、 男性、無職)
- 教育の一環としてとらえた場合、顧問の先生が指導することが望ましいと考えます(60代、 男性、その他)
- 中学校の外部コーチ、部活動指導員を経験して感じることは、純粋にスポーツが好きな生徒は少なく、教員、友達との関り方がすごく大切なものとなっていると思います(50代、男性、会社員)
- 顧問の先生や先輩、後輩、なによりも同級生とのつながりの機会が減るのは正直残念です (30代、男性、高校教員)
- 部活動も学校教育の一環と考えるから(30代、男性、会社員)
- 学校の部活動であれば、教師が日常の生徒も見ているため、競技以外でも部活動の中でも 役割を与えることも可能かと思うが、地域へ移行することで競技レベル向上以外が疎かに なりそうか気がする(60代、女性、パート職)
- 中学・高校での部活動は学校教育、地域での部活動は社会体育、その考え方には以前から の違いが大きすぎてお互いに理解を示すことが出来るようになるのかが不安です(60代、 男性、自営業)
- 学校としての部活動は愛校心も生まれ、子供にとってのかけがえのないものだと思うから (50代、女性、パート職)
- 地域移行により、部活がもつ生活指導の一面は担保できるか(50代、男性、会社員)
- 子供たちの運動能力の向上、先生方への負担の軽減などあると思うが、本来の部活動の意味が少し変わってくると思います(50代、男性、自営業)
- 部活動は楽しく競技等を行うことにより、生徒が人間関係(生徒間、対指導者)を構築することが望ましい(70代、男性、無職)
- 学校内で教師がやるべきことを外部に巻き込むのはいかがなものか(40代、男性、会社員)
- 教育的な指導と競技力向上とは違うから(60代、男性、パート職)
- 中学生の部活動は教育の一貫として行われるべきであると思いますので、地域の民間の者が介在するのは疑問が有ります(60代、男性、パート職)
- 指導者が居なかったり、部の無い学校が有ったりするので、地域移行でスポーツをやれる 人が増えるのであればやむを得ないけど、あくまでも中学校教育の一貫としてやるべきと 考える(60代、男性、会社員)
- 中学生など、高校受験時の内申などにも影響してくるため、部活動の評価と地域融合はなかなか難しいものがある(50代、男性、会社員)

- 学校教育(義務教育)の一部である部活動を地域に移行することについて、十二分に協議 されているのか疑問がある(50代、男性、その他)
- 学校単位での部活動の維持が地域でのスポーツ振興に寄与するものと考えるが、少子化や 放課後の過ごし方に対する多様な考えがある事も事実(50代、男性、会社員)

# <制度への理解不足> n=13

- 私自身が全体像を把握していないため(60代、男性、無職)
- まだよくわかっていないから(20代、男性、会社員)
- 具体的な内容が不明(30代、男性、会社員)
- 未だ不明の点が多い(60代、男性、無職)
- 総合型地域スポーツクラブに何ができて、何ができないのかがよくわからない(50代、 女性、自営業)
- レベルが統一できるかどうかがわからない(60代、男性、会社員)
- 生徒さんたちにとって安心して部活に取り組める環境が保証される政策なのかよくわかりません(50代、女性、会社員)
- 現在の部活動に専門(陸上競技)がなく、具体的に想像がつかない(40代、男性、自営業)
- 詳細な情報は聞いていないため(60代、男性、会社員)
- やる方向性や形はわかるが、様々な部分が不透明だから(40代、男性、中学校教員)
- 地域に指導者がいるか不明のため(50代、男性、会社員)
- 制度を理解していないので(50代、男性、会社員)
- 中学校区の関係がよく分からないため(40代、男性、会社員)
- 現状がわからないため(60代、女性、会社員)

# <責任問題> n=11

- 何かあった場合責任を取れるかわからないので(60代、男性、自営業)
- 専門の教諭でも、生徒や保護者の対応に苦慮しているなか、地域でその対応ができるのか?という不安がある(50代、男性、高校教員)
- 一般人が教諭免許なくハラスメントへの対処ができるのか疑問がある(50代、男性、会 社員)
- 設備と危険防止の問題(60代、男性、会社員)
- 何か問題が起きた時の責任問題が大きい (30代、女性、会社員)
- 保護者対応がややこしそう(60代、女性、大学・高専・専門学校教員)
- 無責任だから(60代、男性、会社員)
- 事故等の補償、学校との連携が不明(60代、男性、自営業)
- 責任問題、謝礼など、検討しないといけないことが多すぎる(30代、男性、会社員)
- 事故が起こった場合等の責任の所在が不明瞭(70代、男性、無職)
- 中体連の関与(組織体系等)、中学校の関与(責任、内申書等)、移動地域及び移動手段の制限、障害、損害の賠償等の責任問題等に関しては詳細が明らかにならないと判断できまい(60代、男性、自営業)

#### <教員の熱意> n=10

- 運動部活動に積極的に取り組みたい顧問教員、取り組みたくない教員の両方がいるかと思います(50代、男性、その他)
- 学校の先生が忙しくて、一人一人の生徒のことを良く理解していないように思います(70 代、女性、専業主婦(夫))
- バレーボールにおいては、経験者の先生も多く、ご自身でチームをみたい方も多いと思われます(40代、女性、公務員)
- 部活動に力を入れている教師もいる(40代、女性、その他)
- 教員の中にも指導熱心で指導したい方がいる(50代、男性、自営業)
- 部活動の指導をしたくて、教員になっている方もおられると思います(40代、男性、会社員)

- 中学校教師の中にも部活動を通して、中学校教師を目指し部活動をやりたい教師も居ると 思うので、すべてが総合型になることが良いかどうかは、疑問に思う(50代、男性、公務 員)
- 熱心に指導されている先生方も多くおられるため (30代、男性、小学校教員)
- 自分自身が専門競技で部活指導をさせてもらっているので、中途半端に介入されたくない (20代、女性、中学校教員)
- 教師の方でも指導したい方と指導したくない方といらっしゃると思う(40 代、女性、専業主婦(夫))

#### <報酬> n=6

- 給料のようなものもないでしょうし、外部指導者にメリットが少ない(40代、男性、小学校教員)
- 指導者の負担やまた指導費が、どのような運用になるか次第ではないかとか思う(20代、 女性、会社員)
- 謝礼金等の話も出ているが、融通が利かないので制度を確立させて頂きたい(40 代、男性、公務員)
- 活動費用を含めた基盤が整備されないまま移行しても、子どもたちの活動場所がなくなる だけです(50代、男性、小学校教員)
- 指導者が生計する基盤ができる報酬が得られるのならば支持します(50代、男性、会社員)
- 部活動についてはその学校の教員が行うのが理想と思いますが、今の働き方改革では教員 に負担ばかりなので、その負担に見合う賃金を与える等の手当てが必要だと思います(50 代、男性、会社員)

#### <その他> n=8

- 指導者の問題(60代、男性、高校教員)
- 何故部活を土日なくすのか知らない(40代、男性、会社員)
- 学校の部活動を選ぶとき、初心者がマイナーなスポーツを選ぶ可能性がなくなるから (60 代、男性、中学校教員)
- 専門的な指導はむしろ顧問にも学習してもらいたい(70代、男性、無職)
- 自分が日曜日しか休日でないので (50代、男性、会社員)
- 地域で指導者がいない(60代、男性、パート職)
- 平日の活動には参加できないため(50代、男性、会社員)
- 仕事があり平日が指導できない(40代、男性、会社員)

### ③ 「支持しない」と回答した群 n = 21

- 人的資源、施設、財源、いわゆる人・物・金が全く無い(50代、男性、その他)
- そもそも話の発端が教師の負担軽減である(60代、男性、高校教員)
- 平日と休日で指導者が変わるのは指導の仕方も変わるので生徒が混乱すると思う(50代、 男性、高校教員)
- 試合は土日に設定されているのに、休日だけ指導するというのは無理があります(40代、 女性、中学校教員)
- 教育の一環として、教員が主体となるべき (60代、男性、無職)
- 地域での活動となれば、生徒の理解を誤る可能性もあるような気がする(60代、男性、無職)
- 学校教育の一環であるべき(50代、男性、会社員)
- 都合での穴だらけの方針だから(50代、男性、中学校教員)
- 家庭や地域差がある中、一律の改革には支持できません(50代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 部活動とその他クラブチームとは加入選手事態の考え方が違うから(50代、男性、会社員)
- 学校が無責任すぎる(60代、男性、無職)
- ◆ やる気のない教師の救済、労働時間の縮小としか聞こえない(60代、男性、高校教員)
- 地域間の格差が広がるかもしれないから(50代、男性、会社員)
- 部活動として指導したい人の気持ちや考えは理解してもらえない(40 代、男性、中学校教員)
- 地域に移行したら、もっと指導者の質(教育視点)が下がることが予想される(30代、女性、 その他)
- 中学校での部活は残し、外部指導者を活用し、先生の負担を減らす方法探すべきだと思うから(60代、男性、会社員)
- 部活動はそもそも学校教育の一環と理解しているので、地域に移行する論理が腹落ちしない(50代、男性、会社員)
- 休日のみ地域移行というのが中途半端(40代、男性、会社員)
- 部活動は「技術面」だけ指導するのではなく、「礼儀」「マナー」「生活面」なども指導するため、それがなくなっていくと学校教職員と生徒たちとの関係が薄れてします(40代、男性、中学校教員)
- 怪我などにたいしての保証や責任があるから(60代、男性、会社員)
- 本来学校という場は、勉強は勿論ですが、部活動を通じて、周りとのコミュニケーションを養うのも、学校教育の一つと考えます(50代、男性、会社員)

# (2)「中学校運動部活動において指導に携わる際、必要な条件」

#### <個人的条件> n = 57

- 仕事との両立(30代、女性、高校教員)
- 自分の活動と両立できる条件(日程など)(50代、男性、会社員)
- 時間(30代、男性、会社員)
- 自分自身の指導時間が確保できること(50代、男性、公務員)
- 時間的余裕(40代、男性、その他)
- 部活動の時間(40代、男性、自営業)
- 現に勤務している県立高校の勤務時間、および担当する部活動の整合性(30代、男性、高校教員)
- 現在指導しているチームの指導者確保(40代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 日時 (60代、男性、無職)
- 休日の確保(40代、女性、中学校教員)
- 日程調整(50代、男性、会社員)
- 現在の本業がなくなること(60代、男性、高校教員)
- 職場の理解(40代、男性、公務員)
- 現在、指導しているチームと時間的にずらせる事(50代、男性、会社員)
- 西宮市内で15時頃から可能な学校(60代、男性、自営業)
- 仕事との両立と現在の指導との時間調整(50代、男性、会社員)
- 居住地近隣の学校(40代、男性、会社員)
- 現職(高校教員)を退職すること(60代、男性、高校教員)
- 近隣(60代、男性、会社員)
- 近所であること(60代、男性、パート職)
- 日程の調整(60代、男性、公務員)
- 現在、指導させていただいている部活動や教室に支障のない範囲であること (40 代、男性、会社員)
- 部活動の競技経験・指導経験(30代、男性、その他)
- 従事できるかどうかは会社に確認必要(50代、男性、会社員)
- 自宅からさほど遠くない中学校での指導(40代、男性、会社員)
- 住居地の近くであること(60代、男性、公務員)
- 日程(40代、男性、自営業)
- 自宅からの近さ(60代、男性、高校教員)
- 時間の調整が効くかどうか(部活動指導があるため)(40代、女性、高校教員)
- 家族の理解(家事/家庭サービスとの両立)(50代、男性、会社員)
- 自分が体力的・精神的に可能である事(40代、男性、パート職)
- 場所が近いこと(50代、女性、会社員)
- 自分の都合でいける時間帯であること(40代、男性、中学校教員)
- 日時などの問題(50代、男性、会社員)
- 近隣の学校、施設であること(40代、男性、小学校教員)
- ボランティア精神及び地域貢献といった心構え(40代、男性、会社員)
- 時間の確保(50代、男性、高校教員)
- 生徒自身の部活動に対する考えの明確化(50代、男性、会社員)
- 自宅もしくは職場から近いこと(50代、男性、自営業)
- 仕事に影響を出さない事(40代、男性、会社員)
- 移動距離(40代、男性、会社員)
- 現在、高等学校に勤務しているため、兼務できること(50代、男性、高校教員)
- 自宅から最寄りの学校であること(50代、男性、会社員)
- 家から近いこと(40代、男性、高校教員)
- 指導日時(50代、男性、高校教員)
- 近隣であること(50代、男性、会社員)
- 車通勤できること(40代、男性、自営業)

- 近距離であること (クルマでの移動) (60代、男性、その他)
- 時間の調整が必要になる(40代、男性、会社員)
- 現在の仕事との両立(40代、女性、会社員)
- 休日のみの参加で、さらにその休日に仕事がないこと(50代、男性、小学校教員)
- 自宅から指導場所への距離 (50代、男性、その他)
- 公共交通機関で通える学校(60代、男性、パート職)
- 自宅から近く、地域との連携が可能な仕組みを有していること(50代、男性、会社員)
- 近距離である事(50代、男性、会社員)
- 育児との両立(40代、女性、中学校教員)
- 活動の日程表と日程調整(70代、男性、その他)
- 指導ブランクを埋める研修受講(60代、男性、パート職)

## <指導範囲・責任の所在・補償内容の明確化> n = 52

- あくまでも、指導は顧問の先生のサポートであること(50代、男性、会社員)
- 指導者・指導を受ける側の補償制度や責任問題に関わる補償(60代、男性、会社員)
- 使用する備品の管理や何かあった時の責任をはっきりさせること(40代、女性、パート職)
- 学校の活動である以上責任が教育側に有るべきだと明記(20代、男性、会社員)
- 必ずではないが指導方法はある程度任せて頂けること(60代、男性、自営業)
- 明確な責任の所在(40代、男性、自営業)
- 法令整備等の根拠の明確化(マネジメントを学校等の公的機関が責任を持って実施すること)(50代、男性、その他)
- 責任の範囲(学校あるいは練習会場のみなのか、大会に帯同するのか、指導責任者になる のか補助役になるのか、生徒が怪我した場合等)(50代、男性、自営業)
- 指導者の責任の範囲や、事故時の補償といった事項が定められた契約書(30代、男性、会 社員)
- 事故時の責任範囲の明確化(40代、男性、会社員)
- 生徒が怪我をした際の補償が十分にあること(20代、男性、中学校教員)
- 活動範囲と責任範囲の明確化された要綱(50代、男性、公務員)
- 子供たちの怪我が関係するトラブルが無いこと(60代、男性、会社員)
- 保険の加入(70代、女性、専業主婦(夫))
- ケガ等の補償と責任態勢の明確化(70代、男性、無職)
- 充実したスポーツ障害保険(加害および被害)への加入(50代、男性、公務員)
- 部活動の技術的な指導は出来るが、生活態度などの指導は先生にお任せすること (60 代、 男性、無職)
- 講師がどこまでクラブ活動の中で生徒に関わっていいのかのガイドライン (50 代、男性、 会社員)
- 事故発生時の対応ができる体制(責任)(50代、男性、会社員)
- 生徒側、指導者側の安全管理などの責任が曖昧にならないこと(50代、女性、パート職)
- 学校側とのしっかりとした条件のやりとり(30代、その他、パート職)
- 保護者対応は学校ですること(60代、女性、大学・高専・専門学校教員)
- あくまでも学校教育の一環として、外部コーチとして携われること(50代、男性、会社員)
- 大会引率は学校の責任で行うこと(60代、男性、無職)
- 事故等の責任の所在を明確にすること(60代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 生活指導は行わず技術指導のみであること(60代、男性、小学校教員)
- 監督としての権限(60代、男性、パート職)
- 指導中での怪我等へのしっかりとした 対応マニュアル (70代、男性、無職)
- サポート役であることを理解いただくこと(50代、男性、会社員)
- 顧問の先生の補助的な役割、スポーツの技術面、戦略面での協力(50代、男性、会社員)
- 指導範囲(どこまでの責任を与えてくれるのか(40代、男性、会社員)

- 全体指導をさせてもらえること(60代、男性、小学校教員)
- 保険(40代、男性、会社員)
- 保険の加入(60代、男性、自営業)
- ある程度の権限は与えてもらえること(40代、男性、自営業)
- 責任の在り方の明確化 (40代、男性、会社員)
- 学校との関係が明確であること(40代、男性、会社員)
- 活動時間や休日の設定についての権限(40代、男性、中学校教員)
- 自身の労災補償 生徒の怪我等の補償確保 指導時の監視機能 (50代、男性、公務員)
- 指導する内容を明確にすること (60代、男性、パート職)
- 外部指導者の立場の明確さと、怪我、事故発生時の責任の区分(60代、男性、会社員)
- 事故発生の際の補償(50代、男性、会社員)
- 責任の範囲の明確化(60代、男性、パート職)
- 明確な責任分担(50代、男性、自営業)
- 指導方法を主導的に決められること(60代、女性、その他)
- 必要に応じて生徒指導などの権限をある程度いただけること (30代、男性、会社員)
- 規範は学校側、剣道技術指導は指導員と明確に切り分けること(70代、男性、無職)
- 学校側が丸投げするんじゃなく、少し見にきたり問題はないかの確認 (20代、女性、パート職)
- 外部指導者の位置づけ、必要性が明確化されていること(50代、男性、会社員)
- 時間割が自由になるかどうか(60代、男性、自営業)
- 指導者および被指導者への補償(60代、男性、高校教員)
- 怪我などの保証と責任が明確になっていること(60代、男性、会社員)
- ケガ等の責任の所在(40代、男性、会社員)

#### <活動環境> n = 53

- 練習環境(30代、女性、高校教員)
- 環境が整っている事(70代、男性、無職)
- 練習環境(30代、女性、高校教員)
- 場所(50代、男性、自営業)
- やり易い環境(40代、男性、会社員)
- 道具と場所(道場)があること(40代、男性、会社員)
- 充分に練習できる環境と理解 (50代、男性、自営業)
- スポーツクライミング施設が公営程度の使用料で近隣にあること(60代、男性、無職)
- 体育館、競技用マット(50代、男性、会社員)
- 他チームとの合同練習や練習試合が出来やすい環境整備(60代、男性、パート職)
- 中央団体の大会や講習会への参加調整(60代、男性、自営業)
- コート、ボールの確保(60代、男性、公務員)
- 中学校所有の道場(体育館・グランド)の使用(50代、男性、会社員)
- 練習環境の整備(器具備品)(60代、男性、無職)
- 更衣施設が確保されている(60代、女性、その他)
- 活動用具、場所使用料、傷害保険等の学校負担。(60代、男性、自営業)
- 競技に必要な設備(70代、男性、自営業)
- 安全に配慮された施設、設備の充実(60代、男性、その他)
- スポーツできる環境・施設の確保(30代、女性、会社員)
- 練習場所(空手防具や空手マット等の設備)と練習時間の確保(60代、男性、公務員)
- プレイヤーズファーストで、選手達のしたい事をしやすく、怒らない、否定しない、指導 しない環境(50代、男性、中学校教員)
- 学校側や部活動としての在り方が明確であること(40代、女性、専業主婦(夫))
- 必要設備(コート&ネット)及び経費(ボール、ラケット等)補助(50 代、男性、会社員)
- グランドの確保(特にバッティングができる広さ、道具やトイレなどの施設)(60代、男性、会社員)

- 指導場所の確保(50代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 学校の施設が利用できること(40代、女性、中学校教員)
- 安全安心な施設、器具、そして信頼関係(50代、女性、中学校教員)
- 学校による練習器具の購入(50代、男性、会社員)
- 受け入れてもらえる雰囲気(50代、男性、その他)
- 生徒の競技環境が整っていること(60代、男性、自営業)
- 少人数制(最大10名)であること(40代、男性、自営業)
- 遊びでは無く、クラブ活動であること(70代、男性、自営業)
- 活動できる場所 (30代、男性、小学校教員)
- 部活動場所の確保(70代、男性、無職)
- 部活動するにあたっての環境を含めた安全が確保できていること (30代、女性、無職)
- 場所と時間が決められていること(50代、男性、会社員)
- 場所にもよりますが、駐車場利用出来ること(60代、女性、会社員)
- 競技の用具(場所・床・台・ボール等)・感染症対策が整っていること(50代、男性、会社員)
- 怪我した時の対処法マニュアル (40代、女性、パート職)
- 活動に必要な設備(50代、男性、会社員)
- 小学生と中学生でのミックス指導(50代、男性、会社員)
- 地方連盟の協力(技術面の指導)や必要最小限の用具(50代、女性、公務員)
- 指導補助具の貸与(70代、男性、会社員)
- 完全クラブ化と学校施設開放(60代、男性、自営業)
- 指導マニュアルや様々なレベルの練習メニューを冊子などの配布(40代、女性、その他)
- けが等の応急処置ができる環境であること(60代、男性、高校教員)
- 怪我や急な体調不良時の体制がちゃんと整っていること (30 代、男性、その他)
- 十分な場所・用具が用意されていること(40代、男性、中学校教員)
- 施設確保(50代、男性、公務員)
- シャトル等の消耗品の支給 (40代、男性、会社員)
- 活動場所の確保(70代、男性、高校教員)
- 施設、設備の無料開放(50代、男性、小学校教員)
- 子ども達、学校側、指導者でのコミュニケーションがとれていること(50代、男性、会社員)

# <学校関係者との関係> n=47

- 保護者対応(50代、男性、その他)
- 顧問の教員との連携(60代、男性、高校教員)
- 顧問との信頼関係(60代、男性、会社員)
- 学校の理解と顧問の支援(60代、男性、無職)
- 顧問との連絡体制(50代、男性、高校教員)
- 学校側の理解と協力(60代、男性、無職)
- 顧問の先生との協議がしっかりされること(30代、男性、会社員)
- 学校側と十分な協議が行える場が設けられること(50代、男性、会社員)
- 顧問教員との生徒情報・トレーニング情報の共有部の位置づけ(50代、男性、その他)
- その学校の先生が勝手に指導しないこと(40代、男性、会社員)
- 学校側の窓口を設定(責任ある方)(50代、男性、公務員)
- 平日教えている教師と外部指導者の意思疎通(60代、男性、中学校教員)
- 顧問の先生との情報交換(40代、男性、会社員)
- 学校との連携(60代、男性、会社員)
- 学校側・地域との連携(70代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 当該校の顧問との密な関係 (60代、男性、無職)
- 学校長を含めた教員の理解(50代、男性、会社員)
- 顧問との人間関係において、指導に対する共有感があること(60代、男性、中学校教員)
- 生徒の情報の教師との連携 (40代、女性、会社員)

- 学校の教員とのコミュニケーション(60代、男性、その他)
- 学校の先生の協力及び理解(60代、男性、その他)
- 学校側の全面的な協力体制(70代、男性、無職)
- 顧問との情報共有(練習内容、生徒の様子など) (50代、男性、公務員)
- 顧問との密接な話し合い(60代、男性、高校教員)
- 学校(先生)が任せてくれて、連携してくれる意識 (50代、男性、自営業)
- 学校側顧問との交流が図れること(40代、男性、自営業)
- 個々の生徒の学校生活の把握(40代、女性、中学校教員)
- 指導者との情報共有、コミュニケーションが容易であること(30代、男性、自営業)
- 学校側責任者との緊密な連携ができること (60代、男性、無職)
- 中学校との連携、相談の機会(50代、男性、小学校教員)
- 顧問の先生との連携(30代、男性、会社員)
- 指導者やコーチなどのサポート体制(50代、男性、会社員)
- 学校側との連携(50代、女性、大学・高専・専門学校教員)
- 顧問との連絡連携(60代、男性、中学校教員)
- 教員との指導方針の一致(50代、男性、会社員)
- 保護者からのクレーム対応のサポート(60代、男性、会社員)
- 教諭との連携(20代、女性、中学校教員)
- 教員との連携、情報共有(50代、女性、中学校教員)
- 指導内容についての定期的な学校側と話し合う機会を持てること(40代、男性、自営業)
- 学校との連携(60代、女性、パート職)
- 教師の理解と協力(50代、男性、自営業)
- 指導方針の共通認識 (60代、男性、無職)
- 教員の理解と協力(80代、男性、無職)
- 顧問の先生との連携、方向性のすり合わせ(40代、女性、自営業)
- 学校の全面的な支援 (50代、男性、公務員)
- 学校代表者との定期的なミーティング(60代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 中学校と地域の連携(40代、女性、その他)

# <必要経費や待遇の充実> n=32

- 能力に応じた報酬(40代、男性、その他)
- 交通費の支給(20代、男性、高校教員)
- 複数年契約(50代、男性、会社員)
- 自由に休暇がとれる体制(40代、男性、会社員)
- スキル成果に見合った報酬(40代、男性、会社員)
- 試合への引率の際、旅費費用の負担をしてもらえること。(40代、男性、会社員)
- 交通費や謝金をもらえること(30代、男性、会社員)
- 土、日、祝日のみの活動(40代、男性、会社員)
- きちっとした保険の加入と報酬 (50代、男性、中学校教員)
- 交通費支給(60代、男性、無職)
- ある程度の報酬(60代、男性、会社員)
- スキー場までの交通便(70代、男性、パート職)
- 駐車場の確保(60代、男性、無職)
- 適切な報酬 (50代、男性、会社員)
- 交通費と水分補給等の最低限かかる費用の負担(50代、男性、公務員)
- 給料(50代、男性、高校教員)
- 部活動の給料で生活できるような対価が得られること(40代、男性、小学校教員)
- 交通費支給(30代、男性、会社員)
- 継続的に指導できること (40代、女性、中学校教員)
- 最低賃金の保証と指導人数制限(40代、男性、高校教員)
- 謝金(20代、女性、会社員)

- 毎回、指導に携われること(60代、男性、自営業)
- 長期的な指導期間(40代、男性、公務員)
- 最低賃金以上の謝礼が確保されている。(30代、男性、会社員)
- 費用負担(50代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 報酬(50代、男性、自営業)
- 委託料(30代、男性、会社員)
- 指導者に対する充分な謝金(30代、男性、自営業)
- 安定した収入、生涯の職業とできるのか(アルバイト感覚では困る)(40代、男性、高校教員)
- 指導者に手当を支払うこと (ボランティアという時代は終わりました) (50 代、男性、会社員)
- 大会等を含めた交通費の支給(20代、男性、会社員)
- 謝礼(40代、男性、会社員)
- 給与、福利厚生の確保(20代、女性、中学校教員)

# <生徒の特性> n = 26

- 全員が、やる気がある事(50代、男性、公務員)
- 無断で休む部員がいないこと(40代、男性、会社員)
- 参加者が自由意思で参加し、やる気をもって参加すること(50代、男性、その他)
- 生徒の大まかな学力維持(50代、男性、会社員)
- 生徒のモチベーション(20代、女性、パート職)
- 生徒たちにやる気があること(40代、男性、会社員)
- やる気のある生徒(80代、男性、無職)
- やる気、興味の有る生徒(50代、男性、会社員)
- 生徒達が一生懸命、真摯に競技に取り組むこと(60代、男性、無職)
- 目標の明確化(60代、男性、無職)
- 学生に礼儀が備わっていること(40代、男性、自営業)
- 生徒の理解(50代、女性、会社員)
- 大会での活躍を望む選手たちであること(20代、女性、会社員)
- 興味を持っている子どもたちがいること(40代、女性、高校教員)
- 競技に対する興味関心を持ってもらうこと(30代、男性、会社員)
- 生徒個人の考える力や集中力(50代、男性、公務員)
- 目標の確認(70代、男性、会社員)
- 子供のやる気(30代、男性、会社員)
- 向上心のある素直なこどもであること(30代、男性、中学校教員)
- 部員がテニスに取り組みたいという姿勢(60代、男性、会社員)
- 前向きな、態度とルールを守る約束(50代、男性、会社員)
- 取り組む目的(レベル)が合致していること(50代、男性、会社員)
- スケジュールの徹底とマナー(50代、女性、自営業)
- 全員の健康診断票を確認した上での個人面談による健康チェック(50代、男性、その他)
- 目標の明確化(60代、男性、会社員)
- 競技以外の一般的礼儀作法(60代、男性、無職)

#### <保護者との関係> n=20

- 保護者対応(50代、男性、その他)
- 保護者との連携(60代、男性、高校教員)
- 自分の指導方法に保護者が口出ししないこと(50代、男性、会社員)
- 出席欠席の連絡は、保護者の責任下で必ず行うこと(40代、男性、中学校教員)
- 保護者の積極的な関与(40代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 選手の親御さんが外部指導員に対して理解があること(40代、男性、会社員)
- 保護者の理解(60代、男性、公務員)

- 保護者会を作り、練習の運営、会計にかかわること(60代、男性、パート職)
- 保護者の理解(40代、男性、公務員)
- 保護者のむやみな介入が無いこと(50代、男性、会社員)
- 保護者との理解の共通化(40代、男性、会社員)
- 保護者の理解と協力(40代、男性、自営業)
- 保護者との連携(50代、男性、高校教員)
- 保護者からの過度な要望やクレームがないこと(50代、男性、その他)
- 保護者の理解(50代、男性、会社員)
- 保護者との連携・協力(60代、男性、会社員)
- 生徒の親御様の協力(60代、男性、自営業)
- 基本的に親御さんが不必要な口出しをしないこと(50代、男性、自営業)
- 保護者の理解(40代、男性、公務員)
- 保護者との連携(40代、女性、専業主婦(夫))

# <指導体制> n=18

- メインの管理者としての学校教員の配属(30代、男性、会社員)
- 顧問なり部長の立ち合い(50代、男性、その他)
- 顧問の同席(50代、男性、公務員)
- 複数人の指導体制(50代、男性、中学校教員)
- 万一の欠席時の代行要員が確保できる環境(60代、男性、会社員)
- セクハラ・パワハラ行為の注意するための複数での指導体制(60代、男性、無職)
- 時間と人数の確保 (60代、男性、高校教員)
- 一人で責任を背負うのは大変なので、複数人数が必要と思う(60代、男性、自営業)
- 指導日数にもよるが、複数の指導者が必要(50代、男性、公務員)
- 指導は競技の特性上、2人以上であること(40代、女性、その他)
- 都合が悪い時に備え複数の指導者確保(40代、男性、会社員)
- 顧問等の責任ある立場の方と一緒に指導すること(50代、男性、会社員)
- 学校関係者が顧問にいる事(60代、女性、会社員)
- 指導日が不規則になっても構わないこと(40代、男性、その他)
- 1人ではなく複数人指導できる環境(60代、男性、パート職)
- 仕事の都合により指導できない時の対処の明確化(50代、男性、自営業)
- 一人ではなく何か急用があった場合でもかわりに教えられる人材(50代、男性、会社員)
- 一人でするのではなく複数の人で指導にあたること(40代、男性、会社員)

## <種目・資格> n=14

- 指導可能な種目であること(40代、男性、会社員)
- そのスポーツの選手経験・指導経験・資格(40代、男性、会社員)
- 小生が保有しているコーチ資格のスポーツが中学校にはない(70代、男性、会社員)
- 空手道の認知度が低いので、その説明を簡潔でいいので案内してもらえること(50代、女性、専業主婦(夫))
- 指導者資格を持っている 指導種目の経験者である 部員とのコミュニケーションが取れる (50代、男性、会社員)
- 専門種目(40代、男性、高校教員)
- コーチの資格(60代、男性、自営業)
- 銃剣道部があること(50代、男性、会社員)
- 子どもに関わる適正があることを評価判断できる体制(50代、女性、自営業)
- レスリング競技をさせてもらえるかどうか(40代、男性、高校教員)
- 種目への理解度合いが高いこと(50代、男性、高校教員)
- 競技種目に知識を有して者(審判員等の資格)(40代、男性、公務員)
- 指導者の免許を持っていること(体罰、熱中症、怪我等の知識)(40代、男性、高校教員) 専門性を評価されること (40代、女性、大学・高専・専門学校教員)

## (3) 中学校運動部活動において指導に携わる際に活動の妨げになりうる要因

### <個人的制約> n = 143

- 仕事との両立(30代、女性、高校教員)
- 現在の勤務の多忙さ(40代、男性、会社員)
- 時間の確保(50代、男性、公務員)
- 中学生クラブチームをあずかっている(60代、男性、無職)
- 労働時間の超過(40代、男性、その他)
- 時間(40代、男性、その他)
- ◆ 休日の大会引率に予定がつかない可能性があること(40代、男性、中学校教員)
- 副業を想定するため、時間の制約(40代、男性、会社員)
- 授業後に部活動の指導をすると、道場の稽古時間と若干重なること(50代、女性、専業主婦(夫))
- 現在、スポーツクラブ関係に勤務しているため、 仕事をやめなければ従事できないこと (60代、男性、会社員)
- 経済的・時間的・心理的な負担(30代、男性、会社員)
- 練習時間の拘束(50代、男性、自営業)
- 現在の仕事が忙しい(50代、男性、中学校教員)
- 現在指導しているチームの指導(40代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 年齢の問題(70代、男性、自営業)
- 日時がだぶらないかという不安(60代、男性、無職)
- 自身の継続性が担保できるかという不安(60代、男性、無職)
- 長時間の時間的拘束が発生すること(50代、男性、その他)
- 自分自身の年齢(70代、男性、パート職)
- 競技スポーツの指導ができないこと (60代、女性、その他)
- 自身の都合により急な休みが必要になった場合の対処(40代、男性、会社員)
- 専門的な知識や競技歴(40代、女性、中学校教員)
- 平日は仕事があること(50代、男性、会社員)
- 仕事(40代、男性、会社員)
- 仕事との両立(40代、男性、公務員)
- 現在の仕事(60代、男性、高校教員)
- 職場の理解(40代、男性、会社員)
- 自らの指導(60代、男性、会社員)
- 職場からの理解(40代、男性、公務員)
- 公務員は副業できないこと(50代、男性、高校教員)
- 公務員の副業禁止に抵触しないかという不安 (50代、男性、公務員)
- 加齢からくる運動機能の低下(60代、男性、高校教員)
- 思春期の生徒の専門指導経験がないことへの不安(50代、男性、会社員)
- 平日にきちんと時間を確保できるかという不安(40代、女性、中学校教員)
- 仕事(20代、女性、会社員)
- 時間帯(50代、男性、会社員)
- 仕事(60代、男性、パート職)
- 現在の仕事との兼ね合い(60代、女性、その他)
- 自分の仕事を抱えているため急を要する場合に仕事を優先せざるを得ないこと(60代、男性、自営業)
- 時間的、立場的制約がある(50代、男性、高校教員)
- 指導時間の制限(60代、男性、無職)
- ・ 活動日の設定(50代、男性、会社員)
- 学業に差しさわりがあれば指導はできない(60代、女性、学生)
- 本職の思わない仕事が週末入る可能性(40代、男性、自営業)
- 仕事の時間調整などが必要になってくると感じます(30代、男性、その他)
- その時点の会社規則(50代、男性、会社員)

- 自分の知識(50代、女性、会社員)
- 年間勤務時間の制限(60代、男性、中学校教員)
- 自分の時間が減る(60代、男性、無職)
- 時間のなさ(60代、男性、その他)
- 別で主催しているクラブのイベントとの兼ね合い(60代、男性、会社員)
- 自分の本務チームとの兼ね合い(50代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 平日の仕事(50代、男性、公務員)
- 定期的な指導時間の確保(60代、男性、公務員)
- 仕事が忙しく時間がない(50代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 時間的都合(40代、男性、自営業)
- 自分でやっている仕事以外の事が多くあること(50代、男性、公務員)
- 車の運転をしないので、交通機関の影響を受け開始時間に遅延する場合があること (50 代、女性、会社員)
- 現在の高校での指導がメインであること(60代、男性、高校教員)
- 本業との時間的調整(50代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 家族サービスとの両立(50代、男性、会社員)
- 自分が体力的・精神的に可能であるかどうか判らないということ(40代、男性、パート職)
- 日程(自分の試合や練習と重ならないこと)(50代、女性、会社員)
- 活動時間が小学生チームの指導時間との重複する場合(50代、男性、会社員)
- 中学校での活動(40代、男性、中学校教員)
- 日時などの問題 (50代、男性、会社員)
- 指導できる日時(40代、男性、会社員)
- 個人的な時間との兼ね合い(50代、男性、会社員)
- 自分の仕事(40代、男性、会社員)
- 時間(50代、男性、高校教員)
- 仕事との両立(40代、女性、その他)
- 部活動の時間と仕事の時間が同じ時間帯であること(40代、男性、会社員)
- ◆ 仕事(40代、男性、会社員)
- 現在指導している小学生チームの練習(試合) (50代、男性、会社員)
- 家庭のことをする時間(40代、女性、中学校教員)
- 平日は、仕事の終了時刻が少し遅いこと(50代、男性、公務員)
- 1人で指導しなければならないのかどうかという不安(40代、男性、会社員)
- 指導時間帯(60代、男性、会社員)
- 高等学校の部活動の活動との両立(50代、男性、高校教員)
- 知識(60代、男性、無職)
- 生計が成り立つこと(50代、男性、会社員)
- 部活動の活動日と私の日程の兼ね合い(60代、男性、会社員)
- 運動部を指導するには、現在行なっている仕事をやめなければならず、それに見合う対価 が絶対条件であること(40代、男性、自営業)
- 他の組織での事業と重なることなど(60代、男性、会社員)
- 会社(40代、男性、会社員)
- 中学校の部活動の時間に指導に行くためには、フルタイムの仕事と両立できなくなること (40代、女性、大学・高専・専門学校教員)
- 時間曜日の制約(60代、男性、自営業)
- 自分の子どもとの時間の確保(40代、男性、高校教員)
- 職場の理解(50代、男性、高校教員)
- 就業時間との兼ね合い(50代、男性、会社員)
- 態度、雰囲気作り、関係が上手くいくかの不安(50代、男性、会社員)
- 地域活動と家事とのバランスが微妙になる(60代、男性、その他)
- 家族の理解(50代、男性、会社員)

- 自身の仕事(50代、男性、小学校教員)
- 職場の理解 (40代、男性、会社員)
- 平日は仕事をしているために週末しか指導できないこと(30代、男性、小学校教員)
- 時間の縛り(60代、女性、会社員)
- 交通手段(60代、男性、自営業)
- 現在すでに少年野球を指導していること(50代、男性、会社員)
- 家庭の理解(40代、男性、公務員)
- 現在活動している団体の活動とブッキングした際に、部活動の優先順位が下がること (40 代、男性、会社員)
- 指導ブランクがあること(60代、男性、パート職)
- 会社勤務の為、夜または土日になること(60代、男性、会社員)
- 急遽行けない時の変わりがいない(50代、男性、公務員)
- 指導日など(40代、男性、その他)
- 現在の仕事との両立(40代、女性、会社員)
- 自分自身の年齢(70代、男性、パート職)
- 普段の仕事との両立(50代、男性、会社員)
- 平日は勤務終了時刻が部活動の活動時間よりも遅く無理であること (50代、男性、小学校教員)
- 本業の妨げになること(30代、女性、その他)
- 本業との時間調整(40代、男性、会社員)
- 自己のスケジュールとの調整 (大会出場・家庭) (50代、男性、会社員)
- 自身の時間捻出(50代、男性、会社員)
- 自身の大会と練習日が重なった場合の対処(70代、女性、専業主婦(夫))
- 時間の制約(60代、男性、パート職)
- 時間制限(20代、女性、中学校教員)
- 時間(50代、男性、自営業)
- 年齢・体力(60代、男性、無職)
- 部活動以外の仕事量(20代、女性、中学校教員)
- 自分自身の仕事の時間との兼ね合い(30代、男性、会社員)
- 自分の年齢(60代、女性、会社員)
- 最寄駅からの距離(50代、男性、会社員)
- 仕事とのバッティング(50代、男性、自営業)
- 指導が出来ない時があること(50代、女性、公務員)
- 急な用事ができた時どうするか (20代、女性、パート職)
- 年齢が高い(70代、男性、無職)
- 勤務時間(40代、男性、高校教員)
- 単身赴任中の為、毎回の練習を確約できない可能性がある(30代、男性、会社員)
- 活動時間の制限(60代、男性、自営業)
- 急な予定が入っても対応できるかという点(40代、男性、公務員)
- 急な仕事(50代、男性、自営業)
- 時間の融通性(60代、男性、自営業)
- 今、契約している仕事との時間の配分 (40代、女性、その他)
- 他の部活動との練習時間の折衝(60代、男性、高校教員)
- 他の指導と重なること(50代、女性、中学校教員)
- 仕事(50代、男性、公務員)
- 仕事(50代、男性、公務員)
- 個人的な用事が発生した場合の対応(60代、男性、会社員)
- 平日は会社が終わってからとなるので、短い時間ではなかなか足りないこと(40代、男性、会社員)
- 時間に余裕がないこと(60代、女性、会社員)
- 現在、高校の部活動をしていること(40代、男性、会社員)

- 仕事との調整 (60 代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 仕事の時間が妨げになる(40代、男性、会社員)
- 仕事(20代、男性、会社員)

#### <保護者との関係> n = 75

- 保護者対応(50代、男性、その他)
- 保護者との関係性(30代、男性、会社員)
- 保護者などの回りの関係者(60代、男性、会社員)
- 部活に対する保護者の理解度(50代、男性、会社員)
- 保護者(40代、男性、会社員)
- 昔ながらの古い意識、やり方で、口を出してくる周りの保護者(40代、男性、会社員)
- 仕事の時間もそうですが、部活動という学校活動の中に、一般人が入ることによる保護者 との関係(40代、男性、自営業)
- 保護者の介入(40代、男性、会社員)
- モンスターペアレンツの存在(40代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 保護者の過剰な応援・期待(50代、男性、会社員)
- 保護者の影響(50代、男性、その他)
- 保護者の理解(50代、男性、会社員)
- 会社が了承してくれるかという不安 (40代、男性、会社員)
- 平日の指導(30代、男性、会社員)
- 指導に携わることにより生まれる時間的制約(50代、男性、自営業)
- 保護者との価値観の違い(60代、男性、公務員)
- 保護者対応(50代、男性、その他)
- 保護者との方向性の違い(20代、男性、中学校教員)
- 父母会、PTA からの否定的意見(50代、男性、公務員)
- 保護者の要望(40代、男性、中学校教員)
- 保護者の必要以上の関与(60代、男性、自営業)
- 保護者の介入(70代、女性、専業主婦(夫))
- 生徒保護者(40代、男性、会社員)
- 保護者のエゴ(50代、男性、高校教員)
- 父兄からの様々な要望(50代、男性、会社員)
- 家族サービスの時間が減る(40代、男性、高校教員)
- 保護者の理解(30代、女性、会社員)
- 生徒の保護者の理解度(40代、男性、会社員)
- 保護者の介入(40代、女性、会社員)
- 保護者の過剰介入(50代、男性、公務員)
- 保護者との意見の食い違い(40代、男性、会社員)
- 保護者等の非協力的な対応(60代、男性、無職)
- 親の口出し(60代、男性、無職)
- 親の思い(50代、男性、公務員)
- 個人的なクレームへの懸念(50代、女性、パート職)
- スポーツに理解不足気味である人(行政・教育・先生方・父兄関係者)等の意見(60代、 男性、その他)
- 教員との関係性(50代、女性、自営業)
- 保護者の理解(40代、女性、会社員)
- 保護者の干渉(60代、男性、中学校教員)
- 保護者との関係(50代、男性、中学校教員)
- 親御さんとのコミュニケーション(50代、男性、会社員)
- 選手起用について、一部の保護者の理解が得られないこと(40代、女性、中学校教員)
- 保護者との意見の違い(50代、男性、会社員)
- 保護者の過剰な関与(50代、女性、パート職)

- 保護者の介入(50代、男性、会社員)
- 保護者からのクレーム(50代、男性、その他)
- 保護者対応(50代、男性、自営業)
- 保護者の理解不足(50代、男性、会社員)
- 親からの意見(60代、男性、自営業)
- 父母会の協力(70代、男性、自営業)
- 自分の指導についてあれやこれやと注文をつけられること(50代、男性、会社員)
- モンスターペアレントの保護者(40代、男性、自営業)
- 該当スポーツを知らない或いは学校教育の一環と考えず自分の子供の事だけを考えて無暗に口を出す保護者への対応(80代、男性、無職)
- 学校との連携(30代、男性、自営業)
- 外部からの指導のため、学生の家族がご理解してもらえるかどうかという不安(30代、男性、会社員)
- 保護者トラブル(50代、男性、会社員)
- 保護者対応(50代、女性、大学・高専・専門学校教員)
- 保護者からの意見(70代、男性、無職)
- 親が口を挟むこと(50代、男性、会社員)
- 過剰な保護者の干渉や期待(60代、男性、中学校教員)
- 保護者などによる干渉(50代、男性、その他)
- 保護者(60代、男性、会社員)
- 保護者の過干渉(70代、男性、無職)
- 保護者の口出し(60代、男性、パート職)
- モンスターペアレント対応(60代、男性、会社員)
- 保護者との関係づくり(60代、女性、その他)
- 保護者の理解(30代、男性、高校教員)
- 親の介入 (50代、男性、会社員)
- 非協力的な保護者(40代、男性、会社員)
- 保護者の影響 (60代、女性、パート職)
- 自分の子供のことしか考えない親の意見(50代、男性、会社員)
- 保護者との関係性(60代、男性、無職)
- 父兄、保護者が指導に介入しないかという懸念(70代、男性、その他)
- 保護者や周囲の一部の意見 (50代、男性、会社員)
- 父兄との関わりで指導方針の崩れ(60代、男性、会社員)

### <顧問(学校関係者)との関係> n=45

- 部活動顧問との関係(40代、男性、高校教員)
- こちらの情報を否定から入る教員(30代、男性、パート職)
- 教職員との指導方法の違い(40代、女性、パート職)
- 学校の体制(60代、男性、無職)
- 学校との綿密な連携(40代、男性、自営業)
- 学校、教員の協力が無いこと(60代、男性、無職)
- 学校の指導体勢(60代、男性、高校教員)
- 教員との折り合い(60代、男性、会社員)
- 試合の引率はその学校の先生が行うことが原則となっていること(60代、男性、高校教員)
- 学校の理解(30代、男性、会社員)
- 先生が勝手に指導に関わろうとすること(40代、男性、会社員)
- 学校の教師からの要求(40代、男性、小学校教員)
- 平日指導する教師と土日教える指導者の関係(60代、男性、中学校教員)
- 学校の無理解(70代、男性、無職)
- 中学校の先生との横のつながり(40代、男性、会社員)

- 熱心な中学校教師の抵抗(40代、男性、自営業)
- 学校の先生との意見の相違(60代、男性、無職)
- 学校側の理解(60代、男性、会社員)
- 学校側と話し合い(70代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 顧問教諭とのコミュニケーション不足(60代、男性、自営業)
- 学校の生徒指導ルールとの兼ね合い(60代、男性、自営業)
- 学校側との不一致(30代、その他、パート職)
- うるさい保護者(60代、女性、大学・高専・専門学校教員)
- 職場の理解(50代、男性、公務員)
- 学校側が非協力的であること(20代、女性、会社員)
- 顧問の先生と意見が合わないこと (50代、男性、自営業)
- 学校の先生の今までの考え方(60代、男性、その他)
- 学校側の非協力体制(70代、男性、無職)
- 先生の嫉妬と周囲の誹謗中傷(50代、男性、会社員)
- 顧問の先生との指導方法の相違点(50代、男性、会社員)
- 顧問との指導方針の相違(60代、男性、高校教員)
- 指導するのにマニュアル通りだと、思うように指導できない(50代、男性、高校教員)
- 指導に関して過干渉、または丸投げ状態な体制(50代、女性、中学校教員)
- 顧問が付いてないとやりづらいこと (70代、男性、会社員)
- 担当の顧問が全く指導になっていないのに好き勝手にやること(60代、男性、小学校教員)
- 学校・教員の理解度と協力度(50代、男性、自営業)
- 他指導者との指導内容の相違(50代、男性、会社員)
- 保護者(40代、男性、会社員)
- 教員との人間関係(40代、男性、高校教員)
- 学校の指導教師が自分の意見を通そうとする(70代、男性、無職)
- 教師集団の非協力体制(60代、男性、無職)
- 他の指導者との関係性(30代、女性、無職)
- 中学校の顧問との練習方法の違い (40代、男性、公務員)
- 自分が指導しているときに、生徒と私の間に顧問の先生が入ってくること (40 代、女性、 専業主婦(夫))
- 剣道顧問と外部指導者の指導方針や方法で食い違い(70代、男性、無職)
- 中学校との連携 (40代、女性、その他)

### <生徒との関係> n = 20

- 生徒のわがままと好き嫌い(60代、男性、会社員)
- 男女合同の練習になるので人間関係が複雑化しやすいこと(40代、男性、会社員)
- ふざける生徒(20代、男性、高校教員)
- やる気が無いものが紛れ込む事(50代、男性、公務員)
- 生活指導(20代、男性、会社員)
- 学校の教員の口出し(60代、男性、高校教員)
- ◆ やる気のない生徒が他の生徒に悪影響を及ぼすこと(60代、男性、自営業)
- あくまでも生徒が指導を受け入れてくれるかという不安(60代、男性、自営業)
- とりあえずバレー部に入っただけでやる気は無いと言う生徒もいるのではないかという懸念(50代、男性、会社員)
- 子供のやる気(30代、男性、会社員)
- 生徒との関係性が悪くなった場合の対処(50代、男性、その他)
- 生徒指導(30代、男性、中学校教員)
- やる気のない子供(40代、男性、自営業)
- 生徒さんの人数が多い場合、活動時間が限られていると、教える側にも教えられる側にも 満足いく成果が得られないのではないかという不安(50代、男性、自営業)

- 生徒の理解(40代、男性、自営業)
- 生徒のマナーの悪さ(50代、女性、自営業)
- 指導者は教員ではないので生徒たちに日頃から関わっていない事でのコミュニケーション 不足(50代、男性、会社員)
- 中学生の基本的な礼儀(60代、男性、会社員)
- 学校生活の状況は分からないので仲間割れ等の問題(50代、男性、会社員)
- レクリエーションとして活動に参加する選手の気持ち(40代、男性、中学校教員)

### <施設・設備・予算的制約> n=19

- 学校施設の利用時間や利用条件(60代、男性、高校教員)
- 施設利用料金ウェアの確保(50代、男性、会社員)
- シューズ、ユニフォームの確保(60代、男性、パート職)
- ユニフォームや備品が揃ってないこと(60代、男性、パート職)
- 施設面の充実(40代、男性、高校教員)
- 活動場所(70代、男性、無職)
- コートコンディション ・備品の充足レベル (60代、男性、会社員)
- 場所(設備)と道具(60代、男性、会社員)
- 場所の確保(60代、男性、公務員)
- 活動場所の確保(40代、男性、高校教員)
- 不十分な学校施設の利用・活用方法(60代、男性、会社員)
- 練習での安全確保できるネットなどの施設不足(60代、男性、会社員)
- ほとんどの中学校では、競技に必要とされる設備がないので指導する場所や機会が全くないこと (70代、男性、自営業)
- スケートリンクとその貸し切り時間、及び利用料金(60代、男性、無職)
- 備品の充実(40代、男性、会社員)
- 部活動に予算がないこと(30代、男性、自営業)
- 装備にかかる費用、実習地への交通費など(50代、男性、その他)
- 練習海域の確保(60代、男性、無職)
- 活動資金(50代、男性、小学校教員)

### <慣習> n=7

- スポーツ指導員は、ボランティアで昔ながらの「手弁当」という考え方(60代、男性、自営業)
- 勝敗にこだわる文化(50代、男性、会社員)
- 善意で協力となること (30 代、男性、会社員)
- 学校の閉鎖性(50代、男性、自営業)
- これまでの部活動と地域のスポーツクラブが本質的に求めることが異なる場合にコンフリクトが起きる可能性(50代、男性、会社員)
- 公立と私学の大会出場方針の違い(50代、男性、会社員)
- 学校には、部外者の参加を快く思わない雰囲気があること(80代、男性、無職)

#### <非常時の対応> n=6

- 指導時の瑕疵(かし)による損害賠償等(60代、男性、無職)
- 万が一、子ども達がケガをした場合の補償 (50代、男性、会社員)
- 責任問題(30代、女性、会社員)
- 事故への対応(60代、男性、小学校教員)
- 近くに緊急時の医療機関がないこと(60代、男性、公務員)
- 万が一の時の(怪我を含む)父兄との対応(70代、男性、無職)

### (4) 中学校運動部活動に携わる際に不安に思うこと

### <非常時の対応> n=67

- 事故発生時の対応(50代、男性、その他)
- 損害賠償責任(50代、男性、公務員)
- ケガの発生(70代、男性、無職)
- 指導対象の怪我や施設の破損(20代、男性、高校教員)
- ケガとその補償(40代、男性、会社員)
- 参加者がケガをした場合などに、保護者から責任を追及されると困る(50代、男性、その他)
- 生徒のケガ(40代、男性、会社員)
- 保護者とのトラブル、ケガなどが起きた時の対処(50代、男性、中学校教員)
- 責任の所在(50代、男性、高校教員)
- 事故・トラブルなどの際の責任の所在(40代、男性、自営業)
- 事故防止と熱中症などの健康面に問題が生じその対策が難しい(70代、男性、自営業)
- 事故が起こった時の責任を取らされる事(50代、男性、公務員)
- ふざける生徒の有無により、怪我が起こる可能性(20代、男性、高校教員)
- けが、事故がおこった時の保証問題(70代、男性、パート職)
- 怪我した場合の対応(40代、女性、中学校教員)
- 事故の際の責任(30代、男性、会社員)
- 事故の心配 (60代、男性、自営業)
- 事故の可能性 (40代、男性、会社員)
- 指導中の生徒のケガ(50代、男性、公務員)
- ケガ、個人情報(40代、男性、中学校教員)
- ケガ(50代、男性、会社員)
- けがなどの対応(60代、男性、公務員)
- 負傷時の対応と中学生活の状況が細かくつかめない点(50代、男性、高校教員)
- 学校関係者がいないときなどのケガや事故(50代、男性、会社員)
- 不慮の事故(60代、男性、自営業)
- 責任問題(30代、男性、会社員)
- 事故対応(60代、男性、公務員)
- 安全面と保護者の方々や地域の皆様のご理解(50代、男性、会社員)
- 活動中の事故への対応(50代、男性、公務員)
- 緊急時の協力機関となる施設が近くにないこと(60代、男性、公務員)
- 責任所在 (40代、男性、自営業)
- 怪我の対応(60代、男性、高校教員)
- けがや不測の事態の対応(50代、男性、会社員)
- 責任問題(50代、男性、高校教員)
- 怪我(60代、男性、公務員)
- 緊急事態の対応(60代、男性、会社員)
- 生徒のケガや事故時の対応が分からない(30代、男性、その他)
- 事故、怪我、生徒の心理的ケア(50代、男性、会社員)
- 大阪の池田小学校の事件のようなことが起きたらどうしようと不安(50代、女性、自営業)
- 怪我が発生した時の責任(40代、男性、会社員)
- ケガ・事故など(精神的な面も含む)(50代、男性、会社員)
- 生徒のケガ(50代、男性、その他)
- 事故(死亡事故)(50代、男性、会社員)
- ケガ (70代、男性、自営業)
- 怪我をした時(60代、男性、公務員)
- 怪我や事故など対応(30代、男性、小学校教員)

- 事故や施設・用具の破損があった場合の責任の所在がどこにあるのか(30代、男性、自営業)
- もしケガをしたときの責任(30代、男性、会社員)
- 事故の保証、指導方法(学校側と異なる可能性)(40代、男性、会社員)
- 生徒の怪我などの事故(60代、男性、会社員)
- 怪我や事故(60代、男性、パート職)
- 心身に対するケアに対応可能かどうかとケガのリスク(50代、男性、自営業)
- 怪我などの補償と人間関係(50代、男性、会社員)
- 子どもに何かケガやトラブルがあったときの対処法(40代、女性、専業主婦(夫))
- 怪我や事故時(感染症や熱中症等)の対応(70代、男性、無職)
- 事故など(70代、男性、会社員)
- 安全面(60代、男性、無職)
- 事件事故に関すること(60代、男性、無職)
- 怪我などした場合の補償と責任がどうなっているのかわからないこと(60代、男性、会社員)
- 安全面の保障(60代、男性、自営業)
- どこまで責任を持って取り組む事ができるのか(50代、男性、会社員)
- 生徒が怪我をした時や関わることへの責任の在り方(40代、男性、会社員)
- 何かの問題が出た時に指導者に負担がかかること(50代、男性、会社員)
- 対象者が怪我しないかどうか(40代、男性、会社員)
- 指導に携わる際の、指導を受ける者と指導者の双方の安全の確保が十分にできるかどうか (60代、男性、会社員)
- 部活動の責任者の存在 (60代、男性、パート職)
- 学校の備品を破損させてしまった場合(40代、男性、会社員)
- さまざまな事故や責任問題(50代、女性、中学校教員)

# <生徒との関係> n=61

- 生徒さんとどこまで関わってよいのか(40代、女性、専業主婦(夫))
- 生徒のやる気(60代、男性、自営業)
- 子供たちとの関係(40代、女性、その他)
- 生徒の部活への取り組み(40代、男性、会社員)
- 相互理解を得られるか(70代、男性、その他)
- 生徒との信頼関係が持てるか(70代、男性、高校教員)
- 子供達とのコミュニケーション等(40代、男性、その他)
- 生徒の人間性がわからないこと(40代、女性、会社員)
- 生徒のメンタルケア(50代、男性、会社員)
- 子供達との距離感(50代、男性、会社員)
- 生徒が外部講師の必要性を理解していない(70代、男性、無職)
- メンタルが不安定な時期なので、ケアができるかどうか(50代、男性、会社員)
- 学生の成長にどこまで良い影響を与えられることができるかが現時点分からないこと (50 代、男性、会社員)
- 反抗的な態度の生徒(50代、男性、会社員)
- いじめ問題(40代、女性、会社員)
- 生徒が求める活動状況と保護者が求める活動状況と指導に携わる指導者の目的意識の違い (40 代、男性、その他)
- 選手との距離感(40代、男性、会社員)
- 子ども達との気持ちのすれ違い(40代、女性、パート職)
- ヤル気のない生徒への対応(50代、男性、公務員)
- 思春期の生徒の専門指導経験がないので、わからない(50代、男性、会社員)

- 生徒の取り組む姿勢の温度差をどこまで考慮して指導するのかの判断(50代、男性、会社員)
- チーム内でのもめ事(仲間はずれ等)の指導に関して、どこまで入っていけるか(70代、 男性、無職)
- 生徒との関係(40代、男性、高校教員)
- 生徒指導面(60代、男性、公務員)
- 中学生を指導したことがない(60代、女性、学生)
- 普段接していない学生との間に、どこまで打ち解けれるか(40代、男性、自営業)
- 生徒との係り(信頼関係)(50代、男性、会社員)
- 生徒にとっての利益となりうるかどうか(60代、男性、高校教員)
- 生徒との関係性、信頼関係など(40代、男性、小学校教員)
- 生徒たちの将来をどう見ていくか(80代、男性、無職)
- 子ども達がどれだけ信頼を持って認めてもらえるかが不安材料です(50代、男性、会社員)
- 思春期の生徒の対応(40代、男性、会社員)
- 中学生になると反抗期等もあり、一番難しい(70代、男性、無職)
- モチベーションが高くない生徒さんに対しての指導(50代、男性、自営業)
- 児童生徒の思いに即した指導ができるかという点(40代、男性、公務員)
- 多少なりとも感情移入してしまう場合があるが、その時の表現(言葉使い)(50代、男性、会社員)
- ジェネレーションギャップ(60代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 生徒との関係の悪化(50代、男性、会社員)
- 毎日こどもたちと会わないと思うので、関係を作るのが学校の先生より難しそう(20代、 女性、パート職)
- 部活だけの関わりの中で、人間関係をうまく築いていけるか不安(20代、女性、中学校教員)
- 生徒との関係構築のための手段と時間不足(60代、男性、中学校教員)
- 生徒個々人の目的意識が違いますので、クリアするのはなかなか大変かと感じます(50代、男性、会社員)
- 生徒自身がどこまで強くなりたいのか、両親がどこまで部活動に理解があるのかがかわからないこと(50代、女性、会社員)
- 生徒のめざすもののギャップ(30代、男性、会社員)
- 普段かかわることない生徒との人間関係(50代、男性、高校教員)
- 思春期の子供(中学生)の指導を行うので、パワハラ、セクハラ等については不安がある (50代、男性、会社員)
- 試合・遠征の引率及び同行(50代、男性、会社員)
- 生徒の競技レベルの違い(40代、男性、公務員)
- 高校の指導(40代、男性、高校教員)
- 高校進学に成績が関わること(20代、男性、会社員)
- 指導対象人数(60代、男性、会社員)
- コミュニケーション(50代、男性、会社員)
- 指揮命令環境(60代、男性、会社員)
- 体力の差・技術の差(60代、男性、無職)
- 心も身体も成長期の子供たちを上手く指導出来るかということが不安(60代、男性、自営業)
- 外部講師に相談されることが多く、うかつに答えると、違った考えの方々から非難を受け そうで、どこまで聞いてあげるべきか不安に思う(50代、男性、会社員)
- 部活動指導者の指示に部員が従えるか(60代、男性、自営業)
- 子育て経験がないので、思春期の生徒とのコミュニケーション (50代、男性、会社員)
- 主担当指導者との指導内容の相違(50代、男性、会社員)

- 昔と違うのは分かるが、現在の中学生の物事への取り組む姿勢・意識の変容(70代、男性、無職)
- 礼儀のなさ過ぎる生徒が多い場合(30代、男性、その他)

#### <個人的制約> n = 47

- 自身が現在指導しているクラブとの両立 (30代、男性、会社員)
- 時間を確保できるか(30代、女性、高校教員)
- ◆ 体力(50代、男性、自営業)
- 学業との両立(40代、男性、会社員)
- 時間的なこと(50代、男性、会社員)
- 高齢者です(60代、男性、会社員)
- 加齢からくる体力面(60代、男性、高校教員)
- 仕事先の理解不足が一番の不安材料(40代、男性、公務員)
- 自身の年齢(70代、女性、専業主婦(夫))
- 自分の年齢と体力(60代、女性、会社員)
- 体力(60代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- ◆ 体力面(60代、男性、その他)
- 家庭との両立(30代、男性、中学校教員)
- 高年齢なので、体力に自信が無い(70代、男性、無職)
- 学校との両立(40代、男性、中学校教員)
- 周囲の理解(40代、女性、その他)
- 休めるかどうか(60代、男性、パート職)
- どれくらいの頻度で行う必要があるか(40代、女性、自営業)
- 自分の体力への不安(50代、女性、中学校教員)
- 不定期な指導になりうる(50代、男性、公務員)
- 仕事によって急に参加が難しいときもあること(40代、男性、会社員)
- 平日が指導できない事 (40代、男性、会社員)
- 仕事により中途半端になること(20代、男性、会社員)
- 急用時など、指導できない時、代わりの人がいるか不安である(60代、男性、会社員)
- 仕事との両立(50代、男性、会社員)
- 「教育」する事に知識がない(50代、男性、会社員)
- 経験が無いので全てに不安(60代、男性、自営業)
- 部外者としてどこまでかかわれるか(40代、男性、高校教員)
- 活動を行うだけでなく、大会運営ボランティアとして、年に10日以上駆り出されることに応えないといけないこと(40代、男性、中学校教員)
- スポーツの指導はできますが、教育現場に携わったことがないこと(40代、男性、自営業)
- 仕事の関係で決まった日時と時間を確約出来ないこと(40代、男性、会社員)
- 個人指導は出来るが団体(大勢)をまとめれるかどうか(50代、女性、会社員)
- 中学校運動部指導が仕事や家庭生活を圧迫しないという確信がない(50代、男性、その他)
- こちらも真剣になるから、ついついキツイ言葉が出てしまう(60代、男性、パート職)
- 継続性維持(60代、男性、高校教員)
- 資格は有しているとはいうものの、いざ携わるとなると、本当に出来るかどうかわからない(40代、男性、パート職)
- 大会の引率が難しい場面が出る可能性がある(50代、男性、会社員)
- 現在、携わっている地域スポーツクラブがおろそかになりそうで不安です(50代、男性、 会社員)
- 1人では仕事が遅くなったときなど不都合が生じるので、出来れば協力者が必要(50代、 男性、公務員)
- 義務的になると続けられない(60代、男性、小学校教員)

- 都合で指導できないとき(60代、男性、無職)
- 結果を追い求められたら対応出来ないこともある(50代、男性、会社員)
- 中学生を指導したことは無い点が少々不安(60代、男性、その他)
- これまでも大人の指導しかしていません(70代、男性、パート職)
- 平日の部活動の時間帯はまだ仕事中であり、休日しか参加できないこと(50代、男性、小学校教員)
- 担当する部活動を指導にあたって、担当になったスポーツをよく知らない場合、どのよう に指導をしていいのかわからないこと(30代、女性、無職)
- 時代の変化も感覚の違いも想像できるので、結果を出すのが難しいと感じられる(60代、 女性、その他)
- 役に立つかどうか(60代、男性、無職)

## <顧問(学校関係者)との関係> n=44

- 顧問との連携(60代、男性、高校教員)
- 学校職員との人間関係(40代、男性、会社員)
- 中学校教員との関係性(50代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 中学校の理解(50代、男性、高校教員)
- 学校の対応(50代、男性、会社員)
- 学校・保護者との信頼関係(50代、男性、会社員)
- 部活顧問とのトラブル(60代、男性、パート職)
- 顧問との連携や関係構築(60代、男性、中学校教員)
- 中学校の理解・支援(60代、男性、会社員)
- 顧問(教師)との距離感(50代、男性、自営業)
- 学校がとこまで関わってくれるのか(60代、男性、会社員)
- 学校から丸投げされること(50代、男性、公務員)
- 学校の先生方との関わり(60代、男性、会社員)
- 学校との連携(目的や内容、生徒の状況把握等)(60代、女性、その他)
- 顧問の教諭との位置関係(60代、男性、高校教員)
- 顧問・保護者との温度差(60代、男性、自営業)
- 顧問(先生)の協力(40代、男性、会社員)
- 学校長含め教員の理解(50代、男性、会社員)
- 学校との条件の違い(30代、その他、パート職)
- 学校教師(60代、男性、無職)
- 先生との関係(50代、男性、会社員)
- 学校との関係(50代、女性、大学・高専・専門学校教員)
- 教職員の理解度、連携(40代、男性、会社員)
- 学校の協力(50代、男性、自営業)
- 学校教職員との信頼関係(50代、男性、公務員)
- 学校側の無関心(60代、男性、会社員)
- 校風がどのようか(60代、女性、その他)
- 教員として、今までどおり指導できるのかということ(40代、女性、中学校教員)
- 生徒の状況が教員と連携して、一貫した指導ができるか(20代、男性、中学校教員)
- 平日と土日の指導者が異なることによる、指導者間の指導方針や選手選考等の意見相違 (50代、男性、公務員)
- 指導者としての立場や、学校との折り合いなど(30代、女性、会社員)
- 学校の協力があるかどうか(60代、男性、無職)
- 顧問の先生との理念等の擦り合わせ(40代、男性、会社員)
- 学校や教員との連携と役割分担が不明確になりがち(50代、男性、会社員)
- 学校の先生との連携(60代、男性、高校教員)
- 現在頑張っておられる教員のやる気を損なわないような制度にして欲しい(40代、男性、 会社員)

- 活動を通じて、起こりうる生活指導面の課題をいかに学校と共有できるか不安(60代、男性、高校教員)
- 当該学校のスポーツへの理解・活動の時間等(60代、男性、その他)
- 学校との指導レベルのギャップ(60代、男性、パート職)
- 個人的な考え方と教育方針が合致しているかどうか(40代、男性、会社員)
- 我々の指導と顧問の先生方の指導で言っていることが違ったりしないかどうか(50代、男性、自営業)
- 部活動は学校生活の一部であり、競技の指導のみの知識だけでは不十分ではないかと思う (40代、男性、自営業)
- 必要最小限の先生方の協力があるのかないのか(50代、男性、自営業)
- 活動方針の違いによって、顧問の先生と選手、指導者と選手の信頼関係を築く事ができる のかどうかどうか(40代、男性、会社員)
- 現在のスポーツ指導者との情報共有(30代、男性、自営業)

# <保護者との関係> n=41

- 保護者の事(40代、男性、会社員)
- 非常識な父兄(40代、男性、その他)
- 地域団体でも同様であるが、保護者との関りに問題を感じている(40代、男性、会社員)
- モンスターペアレンツの存在(40代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- 保護者の理解(60代、男性、無職)
- 保護者の理解(60代、男性、公務員)
- 保護者対応(50代、男性、その他)
- 保護者の介入(70代、女性、専業主婦(夫))
- 保護者の理解(50代、男性、高校教員)
- 保護者のクレーム (50代、男性、高校教員)
- 保護者とのコミュニケーション(40代、男性、自営業)
- 最近の親(60代、男性、パート職)
- 父兄の方との関わり方(60代、男性、無職)
- 父兄の理解(60代、男性、無職)
- 保護者との関係(60代、男性、自営業)
- 保護者の子供たちに希望する思いと指導者が目指す活動の在り方のギャップ(60代、男性、自営業)
- 保護者が部活指導に関して、どのように感じておられるのかが分かりにくい(60代、男性、無職)
- 様々なクレーム(50代、女性、パート職)
- 保護者への対応(60代、男性、無職)
- 保護者がどんな保護者であるのか(20代、女性、会社員)
- 保護者がどこまで理解するか(40代、女性、会社員)
- 保護者の対応(50代、男性、大学・高専・専門学校教員)
- うるさい保護者(60代、女性、大学・高専・専門学校教員)
- 保護者対応(40代、男性、会社員)
- 保護者との折り合い(50代、男性、自営業)
- 親からの意見(60代、男性、自営業)
- モンスターペアレントの存在(60代、男性、会社員)
- 保護者とトラブルが起こる可能性(20代、男性、会社員)
- 父兄の指導方針に対する関与(50代、男性、会社員)
- 保護者対応です(50 代、男性、会社員)
- 保護者との連携 (20代、女性、中学校教員)
- 保護者からの申し出、クレーム(30代、男性、高校教員)
- 親からのクレーム(40代、女性、大学・高専・専門学校教員)
- 過度の期待(60代、男性、自営業)

- 保護者対応(50代、男性、高校教員)
- 保護者の理解(50代、男性、小学校教員)
- 保護者の協力(50代、男性、会社員)
- 保護者の協力がどこまでしてもらえるか (50代、女性、公務員)
- 過度な期待(60代、男性、無職)
- 親や家族からの必要以上の干渉(60代、男性、高校教員)
- 生徒の家庭的な問題への関与希望が不安(50代、男性、公務員)

### <制度・体制・システム> n = 28

- 男女を分けるのかどうか(60代、男性、会社員)
- 参加者の人数(50代、女性、専業主婦(夫))
- 1人で指導した場合の評価基準はどう決まるか (40代、女性、パート職)
- 指導方法の統一(中学生選手を惑わせない指導)(40代、男性、大学・高専・専門学校教 員)
- 人数が多すぎると良い指導ができない(40代、男性、会社員)
- 中学校の部活動の目的が何であるのか(50代、男性、自営業)
- 地域に丸投げされ、国、県、市など行政が監視しないか (50代、男性、会社員)
- 部活動指導員も異動があるのか(60代、男性、中学校教員)
- 継続的なサポートがしていただけるかどうか(60代、男性、その他)
- 活動日数、時間の削減による競技性の低下(30代、男性、会社員)
- どのように部員を確保するか(40代、女性、中学校教員)
- 指導以外の業務も行う事になるのではないか(40代、男性、会社員)
- 指導者の専門知識、指導力のレベル差の地域差(地方での指導者確保が可能か疑問)(50代、男性、自営業)
- 全く関係の無い事柄の対応に一般の先生の様な対応を求められること (70 代、男性、会社員)
- 入部者全員をみるのかどうか(60代、男性、会社員)
- 部活動の指導範囲(60代、男性、会社員)
- 色々なインテグリティ教育(60代、男性、自営業)
- 部活動だから、クラブチームだから、とごちゃごちゃ言われること(40代、男性、中学校教員)
- 指導ブランクを埋める研修が必要(60代、男性、パート職)
- 地域の方々との連携(40代、男性、会社員)
- 少ない部員のクラブ(60代、男性、パート職)
- 現在の指導している施設に、生徒を受け入れて指導するのか、学校施設において指導をするのか、境界があいまいな点(40代、男性、自営業)
- 指導日数、どこまでの責任を負って指導するのかというところなど(30代、男性、会社員)
- レギュラーとそうでない生徒間の問題なども難しい面もある(60代、女性、パート職)
- 中学生は高校受験も兼ねているので、1日中を部活練習時間に費やせない(50代、男性、 会社員)
- クラブ活動で良いのか(70代、男性、無職)
- 競技として上を目指す事と捉えるのか学校教育の延長と捉えるのか(50代、男性、会社員)
- 中体連等の今後の在り方とかかわり方(50代、男性、会社員)

## <施設・設備・予算的制約> n=15

- 遠征の際の交通費、出場費用等の費用負担等金銭面について(60代、男性、無職)
- 謝礼(60代、男性、中学校教員)
- 施設の管理(40代、女性、高校教員)
- お金の面とインフラを整備すること(40代、男性、自営業)
- 施設(40代、男性、会社員)

- 収入(40代、男性、高校教員)
- 給与や福利厚生の補償(20代、女性、中学校教員)
- 学校施設利用に係る学校との連絡・調整(60代、男性、無職)
- 設備の維持管理(70代、男性、自営業)
- 県体協や市スポ協などから、防具等を購入する際の資金支援があるのか(50代、男性、会 社員)
- 部活動場所が確保されているかどうか(60代、男性、無職)
- 指導により収入が発生した場合、現就業先との間で副業の規則に抵触しないか(事前に就業先との協議が必要) (40代、男性、会社員)
- 生徒の父兄が実費費用を負担できること(80代、男性、無職)
- ハード(設備、用具)の完備(70代、男性、無職)
- 生徒が種目を卒業後も続けていける環境が不整備であること(50代、男性、高校教員)

### <その他> n=5

- 保有しているコーチ資格のスポーツが中学校には無いと思う(70代、男性、会社員)
- 口出し不要(60代、男性、高校教員)
- 真剣に取り組むことに対してのまわりの理解(50代、男性、自営業)
- 仲間意識 (50代、女性、自営業)
- 体格が成長期の中学生に弓道は好ましくない(70代、男性、無職)

# 3 参考資料一覧

スポーツ庁 (2018)

運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン https://www.mext.go.jp/sports/b\_menu/sports/ mcatetop04/list/1405720\_00002.htm



スポーツ庁 (2020)

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革

https://www.mext.go.jp/sports/b\_menu/sports/
mcatetop04/list/detail/1406073\_00003.htm



日本スポーツ協会 (2021)

学校運動部活動指導者の実態に関する調査

https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid1280.html



兵庫県教育委員会(2018)

教職員・研修資料(4訂版)いきいき運動部活動

https://www.hyogo-c.ed.jp/~taiiku-

bo/gakkkoutaiikukakari/unndoubukatudou/ikiiki4teiban.pdf

